

子どもたちのインターネット利用について考える研究会
第六期 報告書

オンラインコミュニケーション能力のモデル化

2015年3月

子どもたちのインターネット利用について考える研究会

本報告書は、「子どもたちのインターネット利用について考える研究会」（座長：お茶の水女子大学 教授 坂元章、略称：子どもネット研）の第六期（2014年7月～2015年3月）期間中の活動について概略をまとめ、その研究成果を広く社会に還元するために作成したものです。

目次

はじめに	- 2 -
第一章 第六期調査研究活動の概要とその背景	- 3 -
1. 青少年インターネット利用問題の最新状況	- 3 -
2. 第六期活動のテーマ選定	- 3 -
3. 第六期調査検討の成果・提言の概要	- 5 -
4. 第六期活動の振り返りと今後の取組	- 9 -
第二章 オンラインコミュニケーション能力のモデル化	- 10 -
1. 選定テーマ（第六期での実施概要）について	- 10 -
2. インターネット利用実態調査の実施	- 11 -
3. オンラインコミュニケーション能力モデルの提案	- 28 -
4. 今後に向けて	- 37 -
第三章 地域密着型教育啓発事業及び 教育啓発の評価指標モデルの実践	- 38 -
1. 第五期提言の概要振り返り	- 38 -
2. 今期の各地での取り組みの実際	- 39 -
3. 行動変容期待度測定の実行	- 44 -
4. 今後に向けて	- 45 -
第四章 資料等	- 46 -
1. 体制（第六期）	- 46 -
2. 開催	- 47 -
3. 調査研究および教育実践のご協力先一覧（50音順）	- 48 -
（ご協力先一覧）	- 48 -
4. その他資料	- 50 -

はじめに

「子どもたちのインターネット利用について考える研究会」は、子どもたちのインターネット利用に関して発生する諸問題への対処については保護者にその権利と義務があるとして、対策の担い手である保護者を応援するためにはどうすればよいかを検討し、毎年提言を行って参りました。

近年、子どもたちを取り巻くインターネット利用環境は劇的に変化し、目的・場所・機器を問わずインターネット利用を前提としたサービス提供が拡大しつつあります。スマートフォンを利用する子どもも加速度的に進む他、子ども向けのスマートフォン端末も提供されるようになりました。また、ゲーム機や音楽機器でのインターネット利用も進み、さらには、学校内でのタブレット活用も普及する兆しをみせるなど、今や子どもたちは日常のいたるところでインターネットと共にある世界を生活している状況にあります。そういった中で、最大限そのメリットを享受し、マイナス面を極小化するにはどうするか、正しい現状認識と効果的な対策が求められています。

本研究会では、「双方向利用型コミュニケーションサイトの危険性」（2008年度）や「アプリの第三者レイティングのあり方」（2013年度）といった、保護者の判断材料となる指標の提案や、「段階的利用モデルの提案」（2009年度）、「保護者を中心とした地域単位の教育支援やその評価のあり方」（2011年度）について調査・研究を実施し、保護者や行政・業界関係者向けに提言を行って参りました。

そして、第六期（2014年度）となる今期は「オンラインコミュニケーション能力のモデル化」について研究を行いました。第二期（2009年度）で提案した「段階的利用モデルの提案」をより現状にあった内容に改定し保護者が利用しやすいモデルを構築いたしました。今回の研究成果を活用し、子どもがインターネットを段階的に利用できる環境を構築していただく他、その支援となるような施策やサービス・機能を構築していただくことができれば、これに勝る喜びはございません。

最後になりますが、今年度の研究会の実施に際しても、多くの関係者の方にご協力を賜りました。この場を借りまして改めて御礼申し上げます。また、委員の皆様、事務局の皆様の精力的なお働きに感謝申し上げます。

本報告書が、全国の啓発に携わる方々の参考となり、保護者啓発が実りあるものとなり、各保護者の行動を変えていくきっかけとなることを祈念しております。

子どもたちのインターネット利用について考える研究会 座長 坂元 章

第一章 第六期調査研究活動の概要とその背景

1. 青少年インターネット利用問題の最新状況

はじめに、第六期の調査研究活動のテーマ選定の背景となった、青少年インターネット利用問題の最新状況を整理します。

1.1. 青少年を取り巻くインターネット環境とトラブルの変化

本研究会では、交流サイトなどの利用をきっかけにした青少年の性犯罪被害など、参加発信型インターネット利用トラブルの危険性とその社会的な認知の遅れに、2008年の設立当初から着目し、その構造的な理解の促進やトラブル抑制に資するいくつかの調査検討、社会提言を行うとともに、その知見を反映させた教育啓発の実践にも継続的に取り組んできました。

しかし残念ながら現時点においても、参加発信型利用トラブルの危険性や影響は依然として大きく、性犯罪被害に遭う青少年の数も減少傾向にはありません。

また、スマートフォンの普及やインターネットが利用可能な情報機器の多様化、それらに伴う実質的なインターネットデビュー時期の早期化（低年齢化）など、子どもたちを取り巻くインターネットの利用環境および利用実態は、直近の三年で大きく変わっています。

その結果、参加発信型利用トラブルの裾野も拡がりました。特に、スマートフォン用のメッセージングアプリの利用などいわゆる「オンラインコミュニケーション」関連のトラブルとして、青少年の間での「いじめ」など悪意のある利用や、「行き違い」などコミュニケーション不全への不安からの長時間利用傾向などが、きわめて広い範囲で起きています。

2. 第六期活動のテーマ選定

2.1. 第六期での二つの調査研究テーマとそれぞれの選定理由

本研究会では「保護者への情報の整理と提供を通じた、青少年インターネット問題の解決への寄与」を本務としています。そこで前節で述べた状況認識に基づき、第六期の調査研究活動テーマとして、「オンラインコミュニケーション能力のモデル化」、「地域密着型教育啓発事業及び教育啓発の評価指標モデルの実践」の二点を選定しました。

2.2. オンラインコミュニケーション能力のモデル化

近年、特にスマートフォン用のメッセージングアプリの利用などいわゆる「オンラインコミュニケーション」関連のトラブルが目立つようになりました。そこで、今期の主たるテーマとして、青少年のオンラインコミュニケーション利用の最新の実態を把握した上で、適切なオンラインコミュニケーション利用を支える要素を抽出するなど「オンラインコミュニケーション能力のモデル化」に取り組むことを決めました。これと同時に、本研究会として提唱済の「段階的利用モデル」¹の修正を試みることにしました。

2.3. 地域密着型教育啓発事業及び教育啓発の評価指標モデルの実践

保護者向けの教育啓発では、本来青少年向けよりも多様な機会の提供が期待されるどころ、現実には「全員集合型」の研修会形式がほとんどです。そこで、本研究会では、第三期（2011年度）以降、保護者向けの教育啓発の新たな手法を提案、実践を重ねてきました。今年度もこれを継続する他、第五期で提唱した「教育啓発の評価指標モデル」の実践によって、手法自体の改善を続けることにしました。

2.4. 想定している読み手

本研究会ではおおそ一年単位での調査検討および教育啓発実践の活動内容を本報告書の形式で公開し、その成果を社会に還元することとしています。

今期の活動報告書は、インターネットの安全な利用・活用についての教育啓発に関わる省庁、地方自治体、各種団体等を主な対象としています。

また「青少年保護・バイ・デザイン」²の観点から、オンラインコミュニケーションツールを開発、提供している事業者等にも、提供機能の設計・改善を行う際の参考にするなど、今期の活動成果を活用していただくことを期待しています。

¹ 段階的利用モデル http://www.child-safenet.jp/material/guide01_model.html

第二期報告書「段階的利用モデルの提案と、小・中学生の子どもをもつ保護者向けの段階的利用モデル教材の制作」<http://www.child-safenet.jp/activity/documents/report02.pdf>

及び段階的利用モデル http://www.child-safenet.jp/material/guide01_model.html

² 「青少年保護・バイ・デザイン (PCO by Design)」とは、新たな機器やサービスを提供する場合に、その設計段階から青少年が利用することを想定し、実効的な青少年保護を組み込んだ形で、機器の設計、サービスの設計、事業者内部及び事業者間の体制の整備等を行うことを示す概念

3. 第六期調査検討の成果・提言の概要

3.1. オンラインコミュニケーション能力のモデル化

本研究会では、青少年の望ましいインターネットデビューのあり方を、利用出来るサービスの範囲と求められる能力で具体的に示した「段階的利用モデル」を2009年度に発表していますが、その後、スマートフォン用メッセージアプリやソーシャルメディアサービスの普及によって、オンラインコミュニケーション自体が、大きく様変わりをしたと推測されます。

そこで、今期の「オンラインコミュニケーション能力のモデル化」検討の前段として、実態把握のために青少年および保護者層を対象とした利用実態調査を行いました。

同調査の結果や、オンラインコミュニケーションに関わる先行研究の知見を元に、オンラインコミュニケーション能力を支える要素を大きく、「能力（スキル）」「知識」「倫理」の三つに区分した上で、オンラインコミュニケーション相手（範囲）別に必要な力を列挙しました。（表 1）

さらに保護者が家庭で利用しやすくするために、旧「段階的利用モデル」との統合をはかりました。新しい「段階的利用モデル」では、オンラインコミュニケーションを認める前段階として、比較的安全度の高い「サイトの閲覧」利用に必要な能力要素を挙げ、インターネット利用を始めるにあたって「サイトの閲覧のみを認める（Step1）」、オンラインコミュニケーションを体験するための「家族など信頼できる大人のみへのオンラインコミュニケーションを認める（Step2）」、オンラインコミュニケーションの入門期にあたる「顔を知っている友人への発信を認める（Step3）」、オンラインコミュニケーションへの習熟をはかる「顔を知らない相手への発信を認める（Step4）」の四段階で区分しています。

その上で、各段階で気をつけるべき不適切な利用（保護者の懸念事項）と、フィルタリングなど保護者管理機能による制限範囲の例を示しています。（図 1）

子どもたちのインターネット利用について考える研究会
第六期報告書

	オンラインコミュニケーション利用前	家族間	顔を知っている友人	顔を知らない相手
能力（スキル）	<ul style="list-style-type: none"> ●機器の基本操作ができる ●情報の信ぴょう性を確認することができる ●健康や学習時間に配慮し、節度のある使い方ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ●文章で用件や気持ちを適切に表現できる ●文章が相手の気持ちを適切に表現しているとは限らないことを知っている 	<ul style="list-style-type: none"> ●不快なメッセージなどに冷静に対応できる ●複数人でのコミュニケーションの際に、同調しすぎず自分の判断ができる ●トラブルが生じた際に、客観的に自分と相手の状況を判断し、冷静に行動できる 	<ul style="list-style-type: none"> ●場面や相手に合わせた適切な表現をすることができる ●目的に応じて、最適なコミュニケーションツールや手法を使い分けすることができる
知識	<ul style="list-style-type: none"> ●危険なウェブサイトや誤った情報などが存在することを知っている ●個人情報の大切さなど、基本的な情報の取り扱い方を知っている 	<ul style="list-style-type: none"> ●インターネットを経由した通信は、内容の記録が必ず残ることを知っている ●一度発信した文章や写真などのデジタル情報は完全に消すことはできないと知っている ●相手の表情などが見えないコミュニケーションは、意思疎通が難しいことを知っている ●インターネット上でも、場面に応じた発信が必要なことを知っている(文体、文量など) ●了承を得ずに撮影してはいけないものがあることを知っている 	<ul style="list-style-type: none"> ●インターネットの公開性を理解し、発信した内容は世界中の人に見られる可能性があることを知っている ●サービスによって情報の公開範囲が異なり、利用者がその判断をしなければならないことを知っている ●オンラインコミュニケーションでは、自分の気持ちや情報を必要以上に伝えてしまいがちなことを知っている ●ネット上での誹謗中傷や名誉毀損は、未成年でも罪に問われることがあることを知っている 	<ul style="list-style-type: none"> ●インターネットが限りある資源であることを知っている ●インターネットを利用する上で、最低限必要な肖像権や著作権などの法律やルールを知っている ●インターネット上ではかんたんに他人に成りすますことができることを知っている ●オンラインコミュニケーションでは、未知の人物の言うことを過剰に信用しがちであることを知っている
倫理	<ul style="list-style-type: none"> ●約束や決まりを守る ●危険や不安を感じたら大人に相談する 	<ul style="list-style-type: none"> ●状況や気持ちを考え、相手を思いやることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ●他者を傷つけない ●自分を大切にする 	<ul style="list-style-type: none"> ●情報社会の一員としての自覚を持ち、責任ある行動がとれる ●公共公益の意識を持って、インターネットを活用し、情報社会の発展に貢献できる

表 1 オンラインコミュニケーション相手別に必要な力

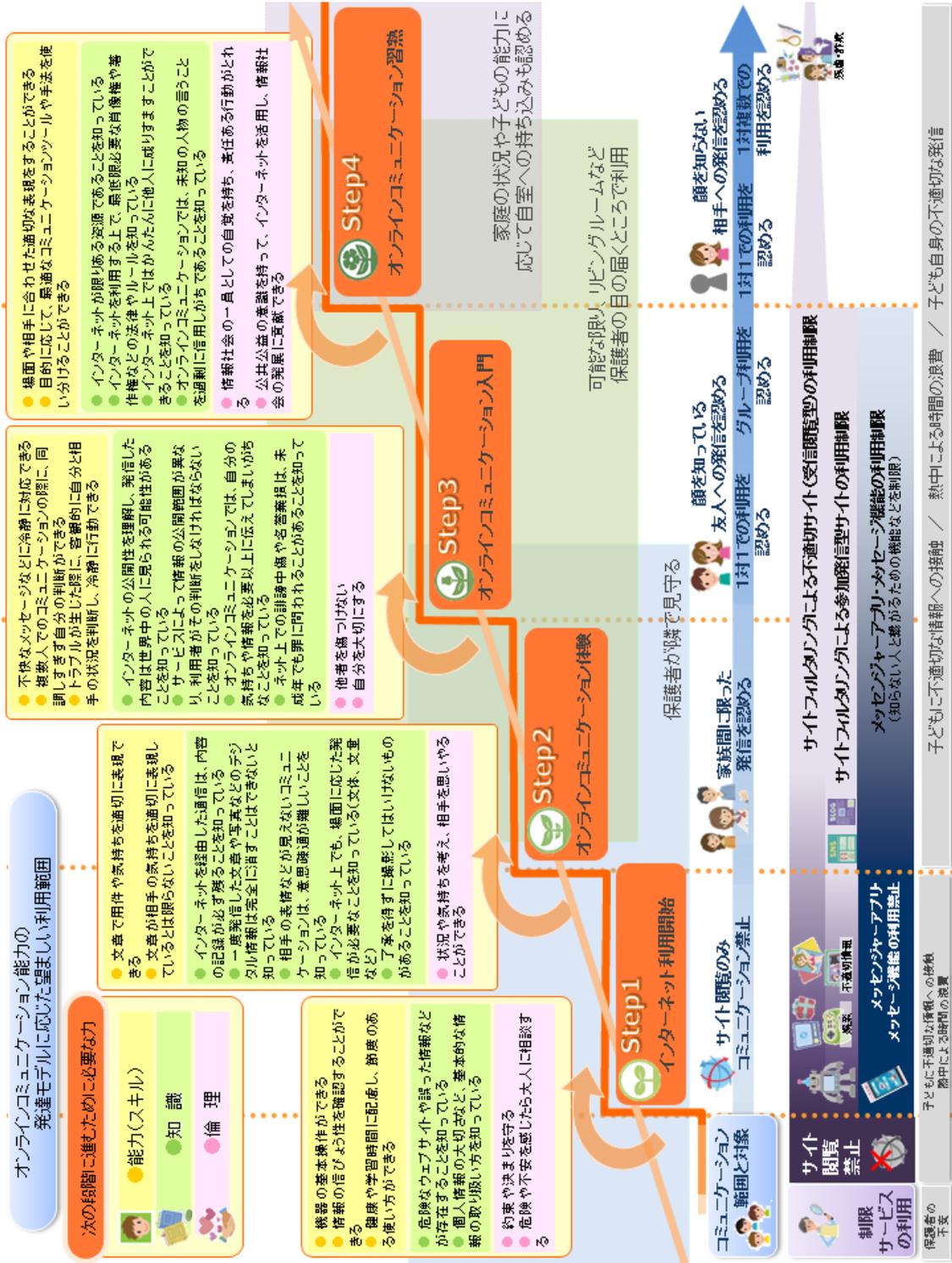


図 1 新しい段階的利用モデル³

³ 本報告書巻末に、拡大図を収録

3.2. 地域密着型教育啓発事業及び 教育啓発の評価指標モデル

本研究会では、「保護者向けの教育啓発のあり方」⁴の現地検証を目的として、第三期にあたる2011年度に「地域密着型教育啓発実証事業」を開始しました。4年目となる今年度も、引き続きこれに取り組みました。

このうち横浜市本牧地区⁵、東京都渋谷区については両自治体の後援を得て、今年度も保護者向け講座を開催することができました。また本研究会、県教育委員会、県PTA連合会の協働という枠組みで二年目となる秋田県での取り組み⁶については、新たに県内6会場にて連続型保護者講座を開催しました。

これらに加え、昨年度から始まった札幌市教委の地域密着型による教育啓発取り組み⁷については、今年度も本研究会としてカリキュラム作成などに協力しています。また新たに、青森県八戸市で始まった官民協働での教育啓発取り組みに対して、本研究会の連携団体である一般社団法人セーフターインターネット協会⁸を通じた運営協力を行いました。

いずれの地域においても、連続型講座に先立ち、対象地域の保護者を対象に、家庭でのインターネット利用の実態や安全・教育に関する意識を把握するためのアンケート調査を行っています。学校を経由した質問紙の配布回収方式での調査方法を採用しているため、ウェブアンケート方式よりも、各地域での青少年のインターネット利用実態などがより偏りなく把握できるものと考えています。今年度も、スマートフォンの普及やインターネットデビューの低年齢化の傾向が、大都市圏以外でも着実に進行していることが確認出来ました。

この、中学校区程度のコンパクトな範囲を単位として教育啓発の働きかけを多面的に行うという「地域密着型教育啓発」の考え方は、4年間の実践の中で、自治体や学校などの関係者からも、一定以上の効果が期待できるという評価を得るに至っています。

今年度はさらに受講後の保護者の行動変容の予測のための調査項目も加えることで、研修会開催の効果検証にも取り組みを始めました。その結果、多くの会場において、家庭での具体的な取り組みの必要性（知識の習得と行動への意欲）については高い水準で理解が得られているものの、子どもへの働きかけなどの行動（行動を支えるさまざまな技術面）についてはまだ自信が持てないという傾向が見られました。本研究会の開発・提供しているカリキュラム・教材等が目指してきた「構造や背景も含めた課題の理解」はある程度達成出来ているものの、その先の保護者の行動支援については、まだ不足しているところが少なくないことが確認出来ました。

⁴ 第三期報告書「子どもたちのインターネット利用を支える保護者向け教育啓発のあり方」
<http://www.child-safenet.jp/activity/documents/report03.pdf>

⁵ 地域密着型教育啓発への実践取り組み 自治体（横浜市）での採用例 <http://www.child-safenet.jp/case/case03.html>

⁶ 本報告書のP.61以降に、秋田県での今年度「地域サポーター養成講座」で使用した教材や、秋田県主催のインターネットセーフティ推進委員会に提出した事業振り返り資料を収録

⁷ <http://child-safenet.jp/activity/131204.html>

⁸ 一般社団法人セーフターインターネット協会（SIA）公式サイト <http://www.saferinternet.or.jp/>

4. 第六期活動の振り返りと今後の取組

4.1. 第六期活動成果の活用

オンラインコミュニケーション能力のモデル化においては今後、研究会ウェブサイト
無償提供中のモデル教材「インターネットセーフティガイド」⁹などに新しい段階的利用モ
デルの考え方を反映させた上で、各地で進めている教育啓発実践の中で、その効果検証に
も取り組んでいきます。

また、地域密着型教育啓発事業及び教育啓発の評価指標モデルでは、今後も地方自治
体との協働を基盤とした保護者向け教育啓発の実践や支援を続けるとともに、より具体的
に保護者の行動支援につながるような、カリキュラムや教材の一層の充実に努めていきま
す。

4.2. 謝辞

今期の調査検討および教育啓発実践のいずれの取り組みにおいても、各地方自治体の担当
者や学校・PTA 関係者、地元立地企業の関係者などによる、本研究会の活動趣旨への理解
と献身的な関わり無しには、最後までたどり着くことの出来ないものばかりでした。ここ
にあらためて御礼を申し上げます。

また、地域密着型教育啓発実践については、横浜市・東京都渋谷区での事業推進につい
ては株式会社ミクシィ¹⁰、秋田県の「地域サポーター養成講座」への講師派遣について
は、ヤフー株式会社¹¹ならびに株式会社ミクシィに、それぞれ取り組み内容へのご賛同と
ご協賛をいただき、誠にありがとうございました。

本研究会では、連携団体である一般社団法人セーフターインターネット協会と役割を分
担しながら、現場での実践に裏付けられた研究団体、専門家会議として、今後も「半歩先
の取り組み」を続けていく所存です。引き続きのご支援とご指導のほど、何とぞよろしく
お願い申し上げます。

⁹ 教材一覧ページ <http://www.child-safenet.jp/material/>

¹⁰ 株式会社ミクシィ <http://mixi.co.jp/>

¹¹ ヤフー株式会社 <http://www.yahoo.co.jp/>

ヤフーと秋田県との取り組みについて「Good Internet Life for Children」
<http://csr.yahoo.co.jp/report/volume8/index.html>

第二章 オンラインコミュニケーション能力のモデル化

1. 選定テーマ（第六期での実施概要）について

1.1. 段階的利用モデルの評価と環境の変化

本研究会は、これまで第二期（2009年度）の調査検討の結果として「段階的利用モデル」¹²を提唱してきました。

いわゆる違法有害情報への接触、オンラインゲームなどの長時間利用、不適切な書き込み（発信）など、インターネット利用リスク自体の認識や、それらリスクの捉え方によって、家庭での子どもへのインターネットの与え方は、ともすれば「使わせるか使わせないか」の二択になりがちです。しかし、リスクを避けようとするあまり、子どもをインターネットから引き離しているだけでは、18歳になった時点で大人と同様に安全に活用することはむしろ難しくなります。またもちろん、大人と同じ使わせ方を発達途上の未熟な段階で子どもに認めてしまえば、犯罪の被害者・加害者になる可能性や、子ども同士のトラブルが必要以上に拡大する可能性が高まってしまいます。

本来は、子どもの能力発達と経験に応じて「段階的に利用範囲を広げて行く」あり方こそが望ましいものです。これが本研究会において「段階的なインターネット利用」を具体化し、保護者に示してきた背景です。

「段階的利用モデル」は、「危ないから一切与えるべきではない」、「慣れるしかないのだから制限は不要」といった方針のいずれもが、子どもたちの理想的なインターネットデビューからはほど遠いという考え方を出発点にしています。その上で、学校現場で採用されている情報モラル指導の原則との整合性を保ちながら、機器の置き場所やフィルタリングサービスの利用など、一般の保護者でも容易に実現できる手段を組み合わせることで、「メール送受信」「ウェブサイト閲覧」「ブログ作成」「チャット」「SNS利用」など利用させてもよいサービス種別を大きく四段階に分けて提示してきました。こうした考え方は、学校現場はともかくとして、保護者向けに使いやすい表現になっているものが少ないため、「段階的利用モデル」は、教育啓発の現場でも紹介されるようになりました。

しかし同モデルの発表当時と現在では、前提となる利用環境が大きく変わりました。たとえば、子どもたちのインターネットデビューは、パソコンや携帯電話ではなく、携帯型ゲーム機に移っています。また、子どもたちに一人一台のパソコンを与える家庭はきわめ

¹² 第二期報告書「段階的利用モデルの提案と、小・中学生の子どもをもつ保護者向けの段階的利用モデル教材の制作」 <http://www.child-safenet.jp/activity/documents/report02.pdf>
及び段階的利用モデル http://www.child-safenet.jp/material/guide01_model.html

て少数でしたが、パソコンと同様の能力を持つスマートフォンについては、子ども専用として与えることが珍しくなくなっています。これらに加え、コミュニケーションに用いられるツールが、青少年の間ではメールからメッセージャーに移行したという指摘が多くなされるようになってきました。その一方で、携帯電話でのインターネット利用では人気の高かったホームページやプロフィールなどの単機能型サービスは、その相対的な魅力が大きく低下しています。

本研究会として提唱してきた「段階的なデビュー」という考え方の重要性に変わりはありません。しかし、こうした状況の変化に合わせて、各段階の区切り方やその内容を見直す時期に至ったと考えました。

1.2. 第六期の検討範囲

一般に、オンラインでのコミュニケーションに必要な力としては、機器が操作・設定出来る、検索できるなど「情報へのアクセス・操作能力」、危険の判断や情報の取捨選択ができる知識や背景の理解など「受信・解釈能力」、目的にふさわしい手段が選択できる、適切な表現ができるなどの「発信能力」を上げることができます。また、これらを支える倫理や道徳、責任感など広い意味での「社会性」が備わっていることが前提となります。こうした視点での検討は、広くオンライン版メディアリテラシーとは何かという議論にもつながります。

しかし、今期の本研究会の検討では、より範囲を絞り込み、青少年間の1対1またはグループでのコミュニケーションツールとして頻繁に使われているメッセージャーアプリや、Twitterなどのソーシャルメディアの利用場面を前提として、現状の把握と活用に必要な要素の整理に限って検討を行うこととしました。

また、その結果導き出されたオンラインコミュニケーション能力を高めるための「教育のあり方」については来年度以降の検討に譲ることにしました。

2. インターネット利用実態調査の実施

2.1. 調査のねらい

掲示板や交流サイトなど公開された場でのやりとりと比べ、1対1、グループ利用のいずれについても、オンラインコミュニケーションの実態は、当事者以外には分かりにくいものです。そこで、どのような機器・ツールを使い、どのような相手と、どのくらいの頻度でオンラインコミュニケーションをしているのかを把握する目的で、アンケート調査をすることにしました。

これらに加え、利用者が対面など日常的なコミュニケーションとは異なるとされる、オンラインコミュニケーションの特性をどの程度理解しているのかや、オンラインコミュニケーションについての自信の度合い、不安の中身といった点についても把握を試みました。

2.2. 調査方法

費用と網羅性の観点から、調査方法にはウェブアンケート方式を選びました。また、実査はFastask¹³に委託しました。調査期間は2014年9月19日から22日まででした。

高校1年生から大学4年生¹⁴の男女を調査対象とし、計552件の有効回答を得ました。また利用実態の差を比較するため、青少年だけでなく、保護者も調査対象としました。保護者については、青少年に合わせ、第一子に高校生または大学生の子どもを持ち、オンラインでのコミュニケーション経験を持つ保護者（男女）を調査対象とし、計554件の有効回答を得ました。

なおウェブアンケート実施に先立ち、調査票作成の準備段階として、調査仮説策定のためにインターネット利用やオンラインでのコミュニケーションに関するグループインタビューを実施しました。インタビューの開催は計二回で、対象は首都圏近郊の大学生¹⁵としました。

2.3 調査の結果

準備段階であるグループインタビューを実施した段階で、青少年層のオンラインコミュニケーションの特徴として、次に挙げる四つの仮説にまとめました。

- (ア) 親しい相手とのカジュアルな利用が多く、初対面の相手などとのあらたまった場面でのオンラインコミュニケーション経験は少ないのではないか
- (イ) スマートフォン利用者はメールよりもメッセージの利用頻度が著しく高いのではないか
- (ウ) 一定程度の不安感や難しさを感じながら利用しているのではないか
- (エ) オンラインコミュニケーションの特性については、利用経験を積むほどに理解が深まるのではないか

¹³ Fastask（運営会社：株式会社ジャストシステム） <http://monitor.fast-ask.com/>

¹⁴ 調査の趣旨や青少年のオンラインコミュニケーション実態からは、小学生（高学年）や中学生もアンケート調査の対象とすべきところではあるが、小中学生の段階では、自分の利用実態などを客観的に振り返るのは難しいと考えられること、また今回利用したウェブアンケート方式では、これらの学齢層を適切に調査対象とすることは困難なため、高校生および大学生のみを対象とした。

¹⁵ 本研究会の玉田委員および七海委員の協力を得て、グループインタビューは江戸川大学および相模女子大学の大学生を対象に実施した。

これらを踏まえ、ウェブアンケート方式による本調査を実施した結果、

- (ア) 親しい相手とのカジュアルな利用が多く、初対面の相手などとのあらたまった場面でのオンラインコミュニケーション経験は少ないのではないか
- (イ) スマートフォン利用者はメールよりもメッセージャーの利用頻度が著しく高いのではないか
- (ウ) 一定程度の不安感や難しさを感じながら利用しているのではないか

の三点については、それぞれアンケート調査の結果からおおむね定量的に説明することが出来ました。その一方、

- (エ) オンラインコミュニケーションの特性については、利用経験を積むほどに理解が深まるのではないか

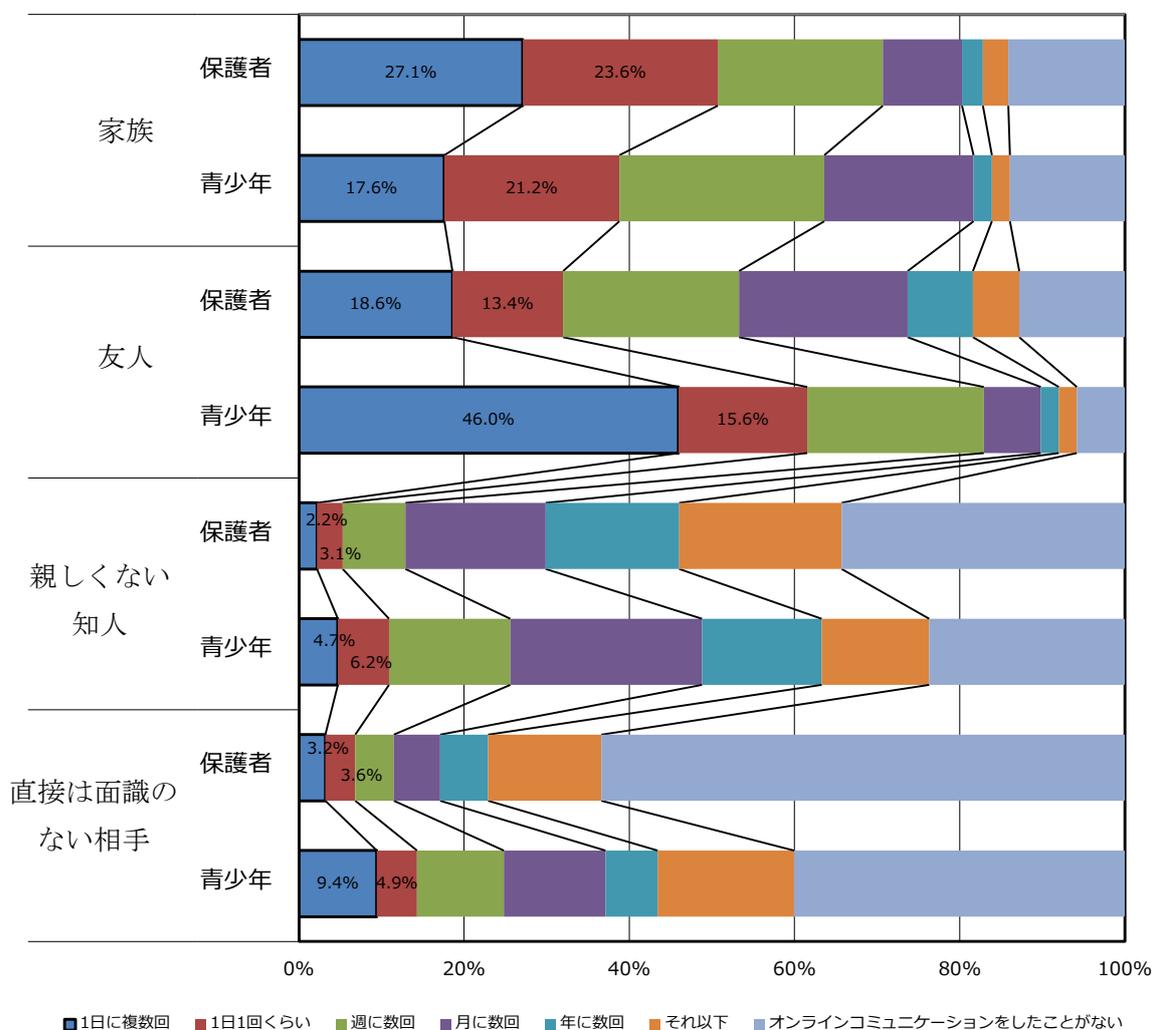
については、定量的な裏付けとなるような調査結果を得ることは出来ませんでした。

以下、それぞれ関連する具体的な調査結果を列挙します。

(ア) 親しい相手とのカジュアルな利用が多く、初対面の相手などとのあらたまった場面でのオンラインコミュニケーション経験は少ないのではないかと

- ・ 実際に青少年層にオンラインコミュニケーション頻度を聞いた質問では、密度の濃いコミュニケーション（1日に複数回または1日1回）をとっている相手として、友人（1日に複数回 46.0%、1日1回くらい 15.6%の合計で 61.6%）が最も多く、これに家族（同合計 38.8%）が続きました。親しくない知人（同合計 10.9%）、直接面識はない相手（14.3%）とは大きく差が開きました。（グラフ 1）

あなたは次にあげる相手と、どのくらいの頻度でオンラインコミュニケーションをしていますか？当てはまるものをお答えください。（単一回答）（n=554）

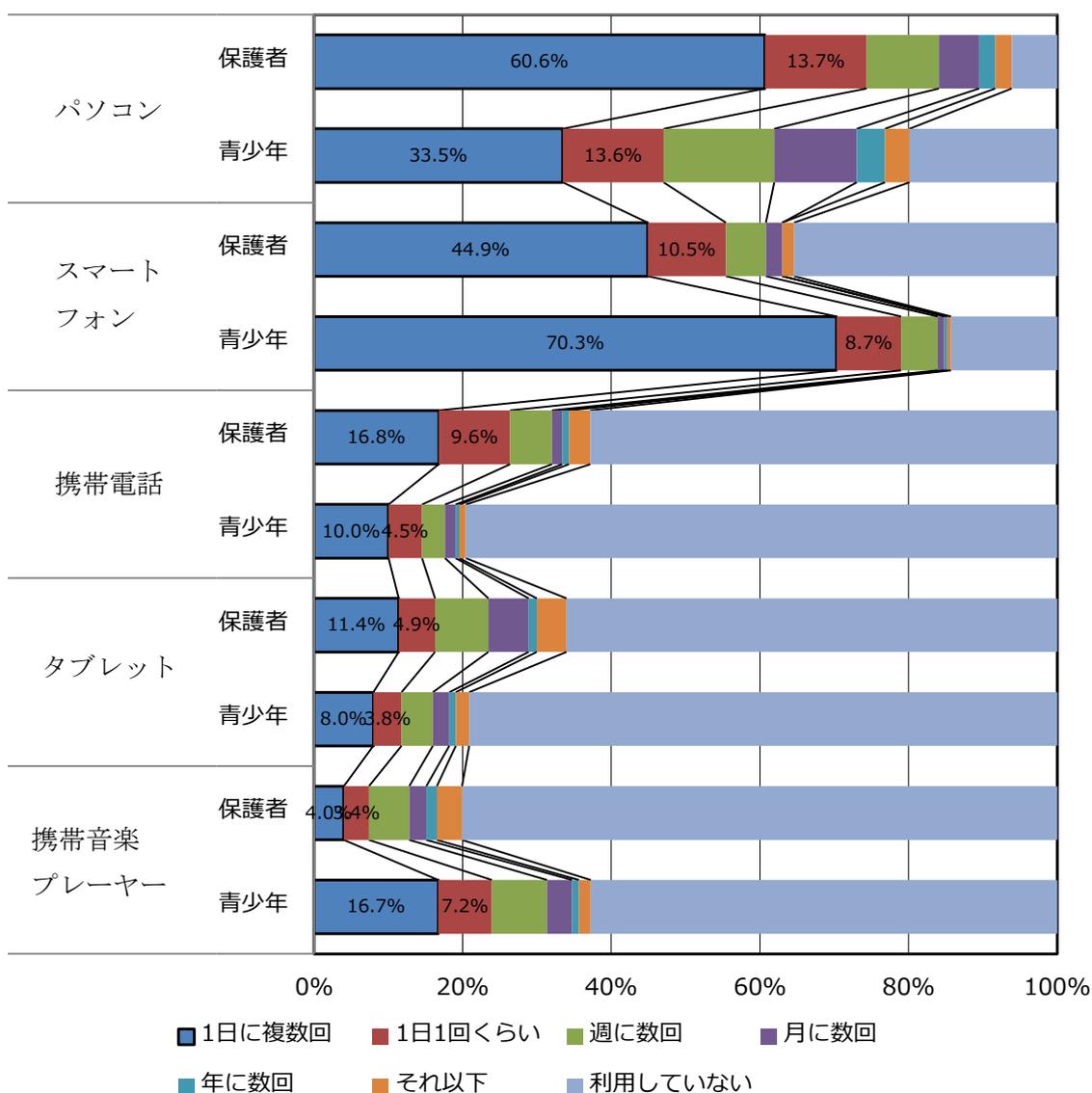


グラフ 1

(イ) スマートフォン利用者はメールよりもメッセージの利用頻度が著しく高いのではないかと

- ・ オンラインコミュニケーションで利用する利用機器は、青少年層ではスマートフォン（1日に複数回 70.3%、1日1回くらい 8.7%の合計で 79.0%）が最多で、パソコン（同合計 47.1%）、携帯音楽プレーヤー（同合計 23.9%）がこれに続きました。（グラフ 2）

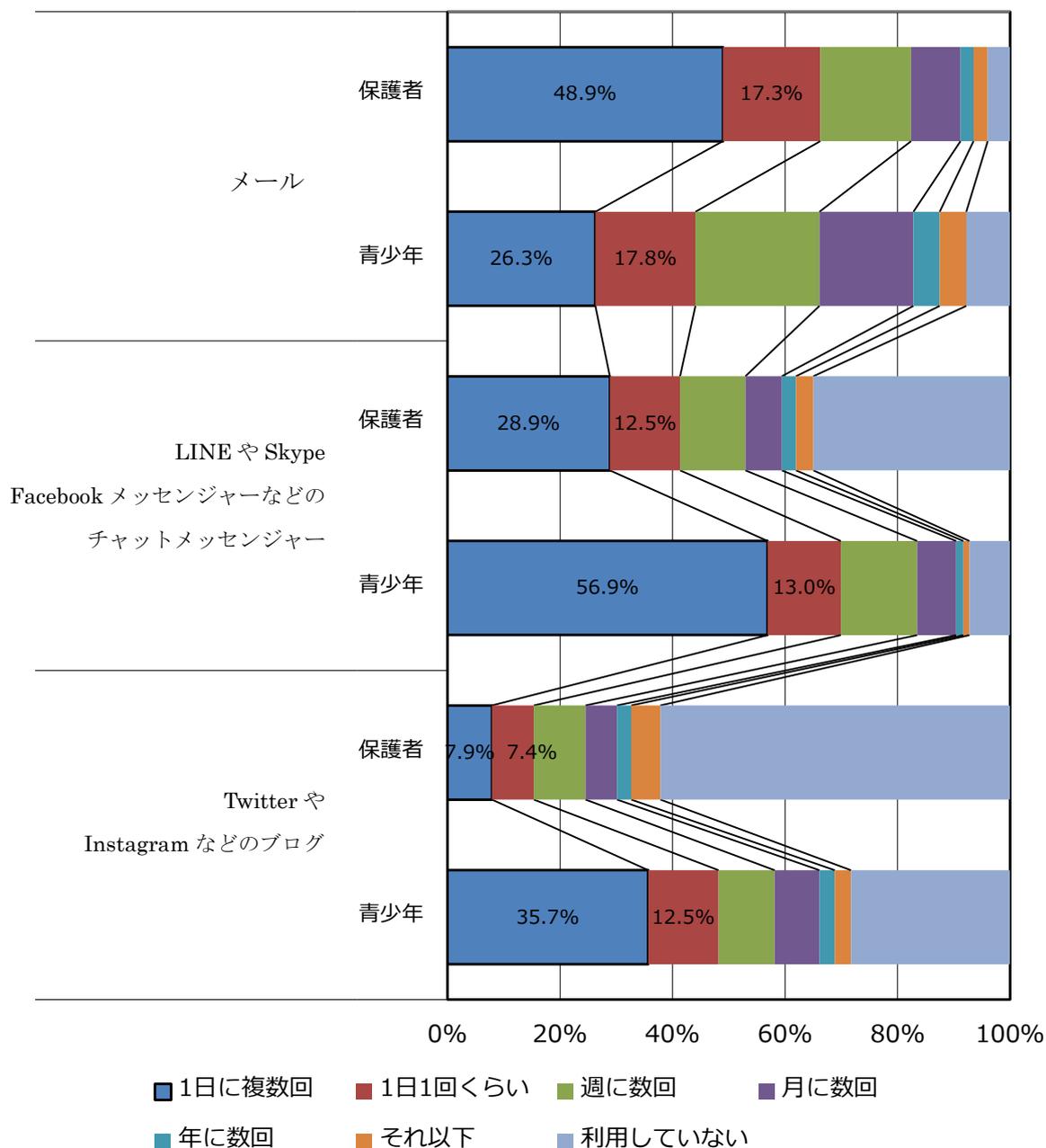
あなたが現在、オンラインコミュニケーションをする際に利用している機器と利用頻度について当てはまるものをお答えください。（単一回答）（n=554）



グラフ 2

- ・ オンラインコミュニケーションの際の利用ソフトウェア（アプリ）について、青少年層ではメッセージャー（同合計 69.9%）や Twitter などのブログ（同合計 48.2%）がメール（同合計 44.1%）よりも多用される傾向が確認できました。（グラフ 3）

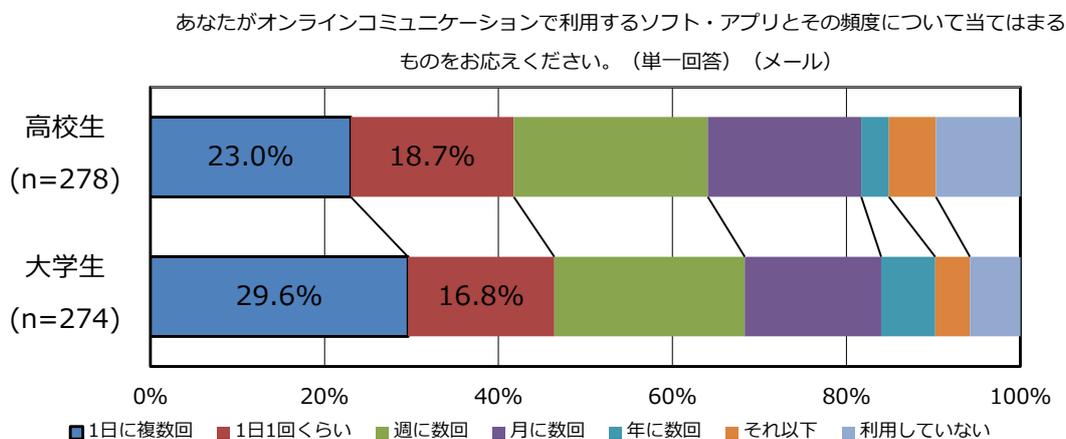
あなたがオンラインコミュニケーションで利用するソフト・アプリとその頻度について当てはまるものをお答えください。（単一回答）（n=554）



グラフ 3

- ・メールとメッセージの利用頻度について、青少年層をさらに高校生（n=278）と大学生（n=274）に分けてみると、メールについては大学生（同合計 46.4%）と高校生（同合計 41.7%）でそれほど大きな差は見られませんでした。一方、メッセージの利用頻度は大学生（同合計 63.1%）と高校生（同合計 76.6%）で違いが見られました。特に「1日に複数回」メッセージを利用するとの回答は高校生（65.8%）と大学生（47.8%）の差が大きくなりました¹⁶。また Twitter などのブログについては、同じ青少年層でも女子（同合計 55.1%）の方が男子（同合計 41.3%）に比べて利用頻度が約 14 ポイントも高くなりました。（グラフ 4）、（グラフ 5）、（グラフ 6）
- ・また、メールの利用頻度は、スマートフォン非利用者（「1日に複数回」利用が 14.3%）と、スマートフォン利用者（同 26.2%）の差は 2 倍以内に納まりましたが、メッセージの利用頻度は、スマートフォン非利用者（「1日に複数回」利用が 25.0%）と、スマートフォン利用者（同 62.2%）の間での差がきわめて大きくなっていることがわかりました。（グラフ 7）、（グラフ 8）

・メールの利用頻度

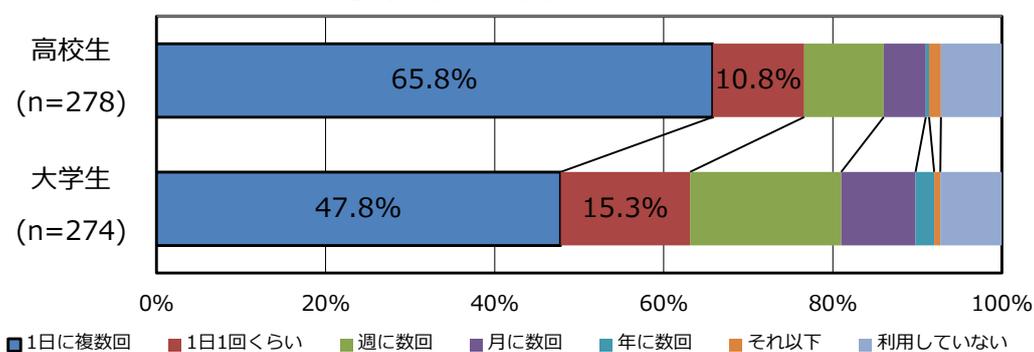


グラフ 4

¹⁶初めて接した機器がスマートフォンか携帯電話かという世代差や、大学の講義に関連してメールの利用が求められることが多いなどが要因として考えられる。

・LINE や Skype ・ Facebook メッセンジャーなどのチャット・メッセンジャーの利用

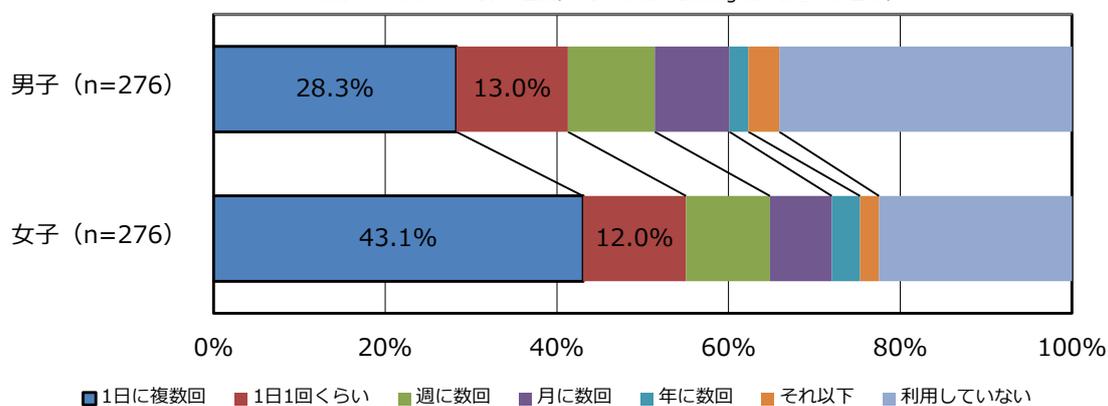
あなたがオンラインコミュニケーションで利用するソフト・アプリとその頻度について当てはまるものをお応えください。(単一回答) (LINEやSkype・Facebookメッセンジャーなどのチャット・メッセンジャー)



グラフ 5

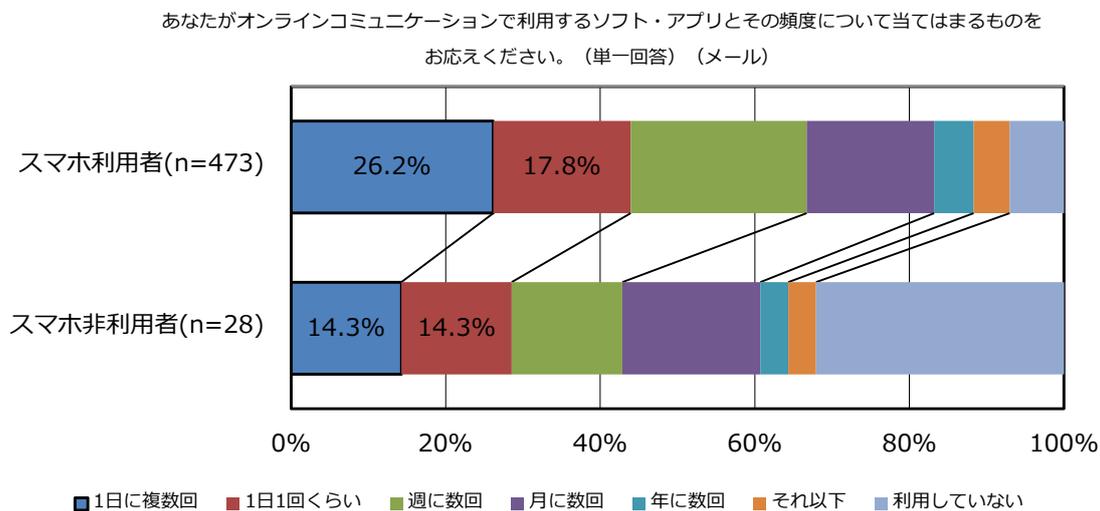
・Twitter や Instagram などのブログの利用

あなたがオンラインコミュニケーションで利用するソフト・アプリとその頻度について当てはまるものをお応えください。(単一回答) (TwitterやInstagramなどのブログ)



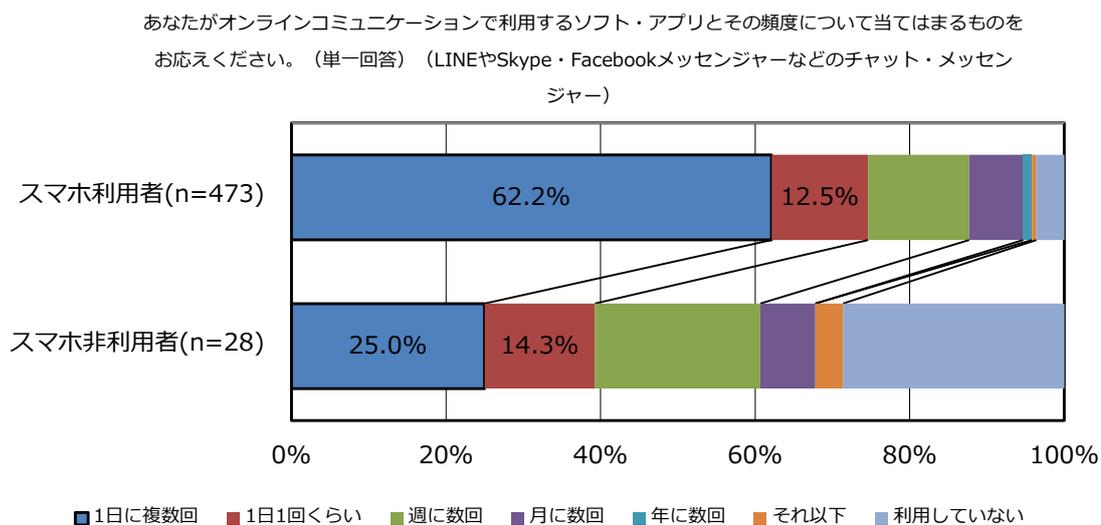
グラフ 6

・スマートフォン利用の有無によるメール利用頻度



グラフ 7

・スマートフォン利用の有無によるメッセージング利用頻度

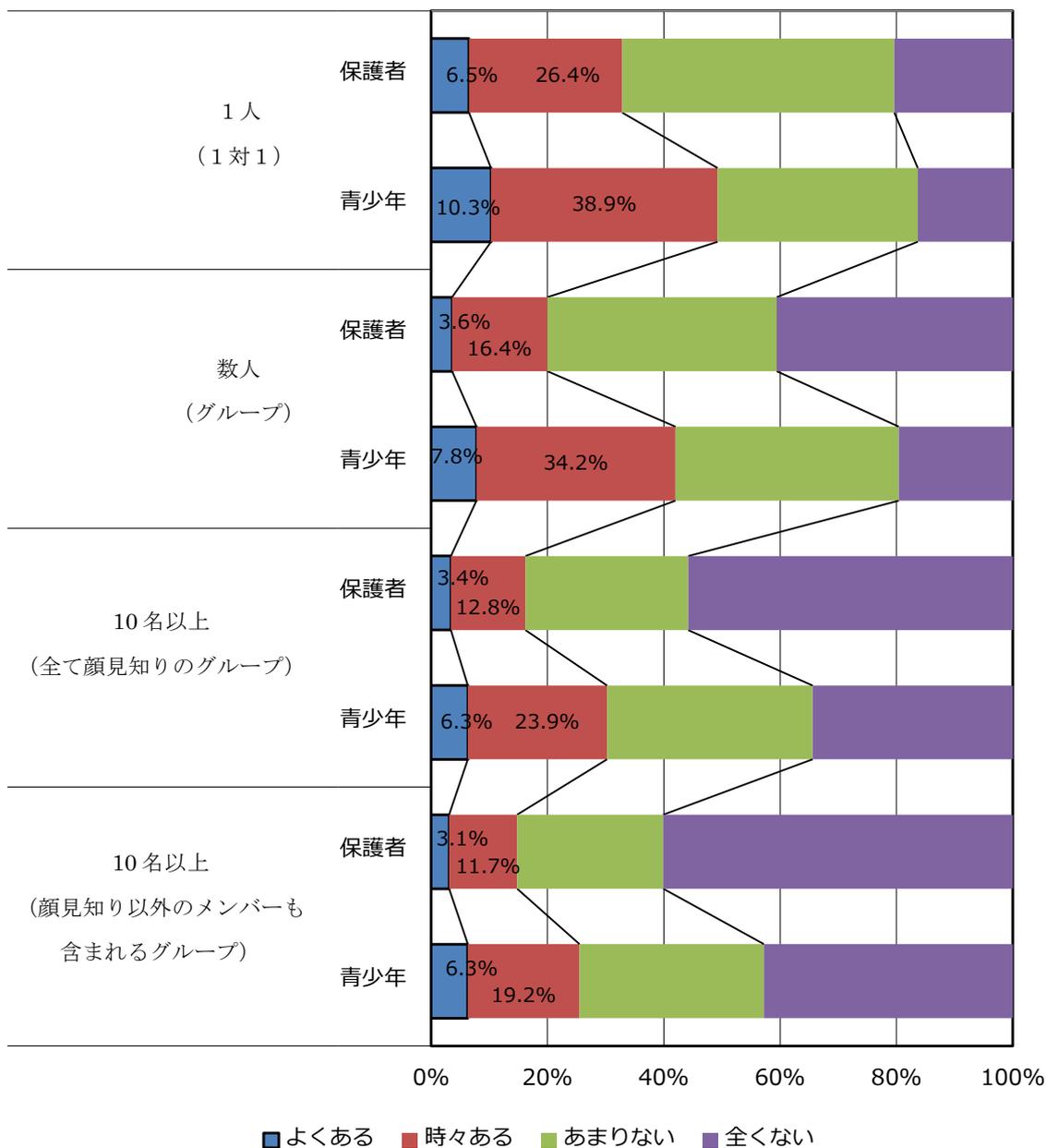


グラフ 8

(ウ) 一定程度の不安感や難しさを感じながら利用しているのではないか

- ・ オンラインコミュニケーションにおいて、相手との意思疎通がうまくいかずに困った、嫌な思いをしたという経験の有無について、「よくある」または「時々ある」と回答した青少年は、1対1の場合で49.2%、数人グループ利用で42.0%となりました。「全くない」という回答は少数派でした。(グラフ 9)

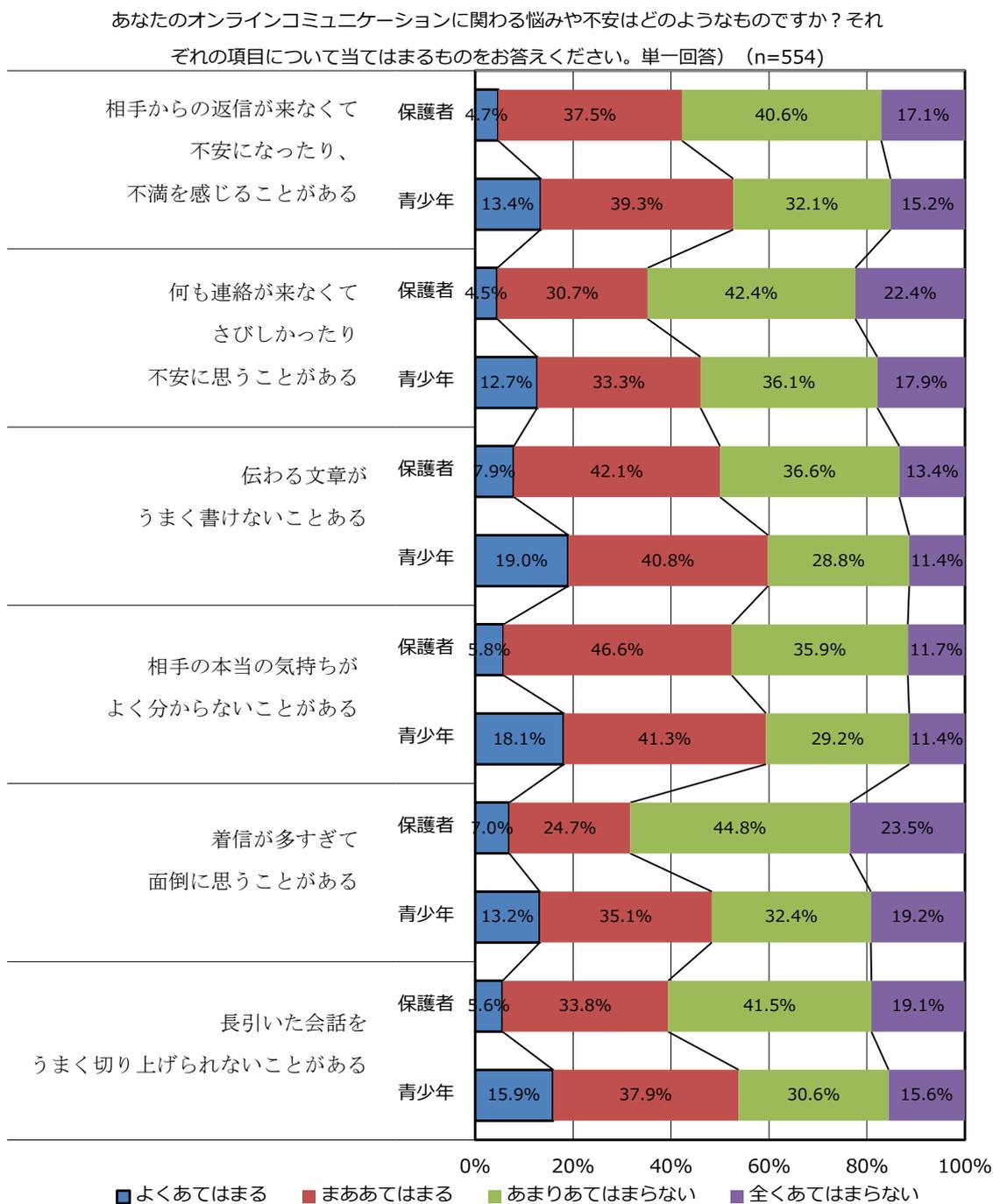
あなたは、オンラインコミュニケーションで、相手との意思疎通がうまくいかずに困ったこと、嫌な思いをしたことはありますか？それぞれの項目について当てはまるものをお答えください。（単一回答）（n=554）



グラフ 9

- ・ オンラインコミュニケーションに関わる悩みや不安について、当てはまるものを青少年に聞いた質問では「伝わる文章がうまく書けないことがある」（「よくあてはまる」と「まああてはまる」の合計で 59.8%）、「相手の本当の気持ちがよく分からないことがある」（同合計 59.4%）を筆頭に、「長引いた会話をうまく切り上げられな

いことがある」（同合計 53.8%）「相手からの返信が来なくて不安になったり不満を感じることもある」（同合計 52.7%）が続きました。（グラフ 10）

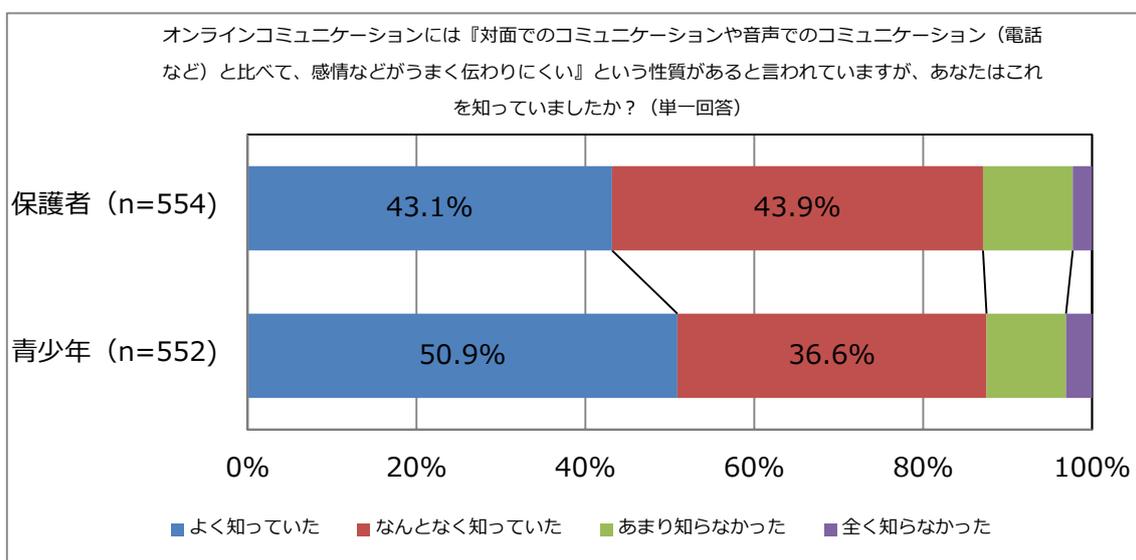


グラフ 10

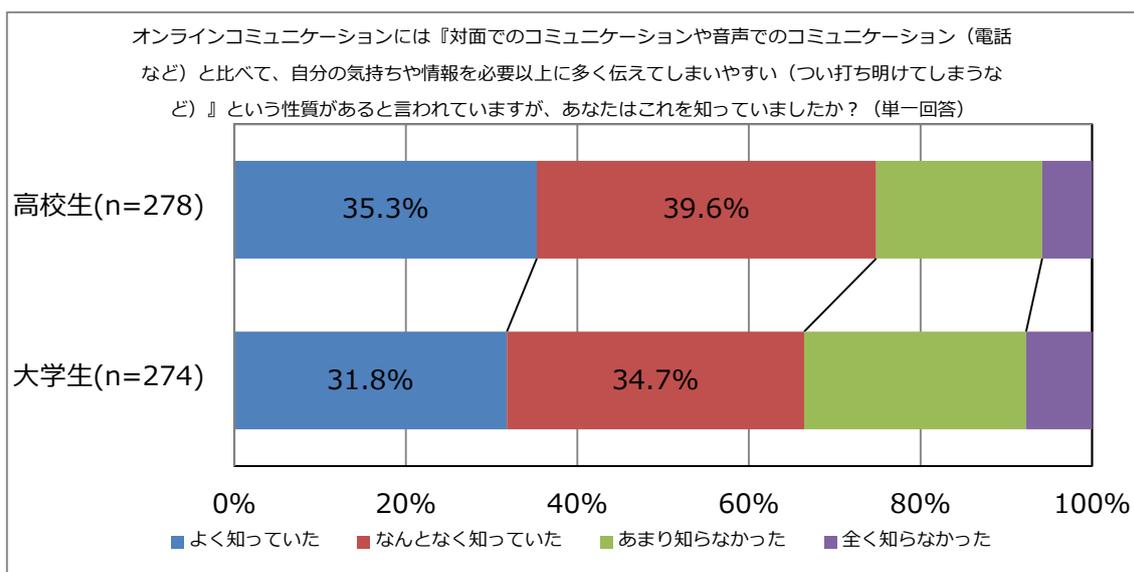
一方、

(エ) オンラインコミュニケーションの特性については、利用経験を積むほどに理解が深まるのではないか

については、全体の9割近くが、感情の伝わりにくさについて「知っていた」（「よく知っていた」と「なんとなく知っていた」の合計）と回答し、また自己開示の促進傾向については、同じ青少年層の中でも、利用経験が相対的に少ないと考えられる高校生が大学生よりも10ポイント近く上回る約75%も「知っていた」とするなど、事前の仮説を裏付けるような結果にはなりませんでした。（グラフ 11）（グラフ 12）

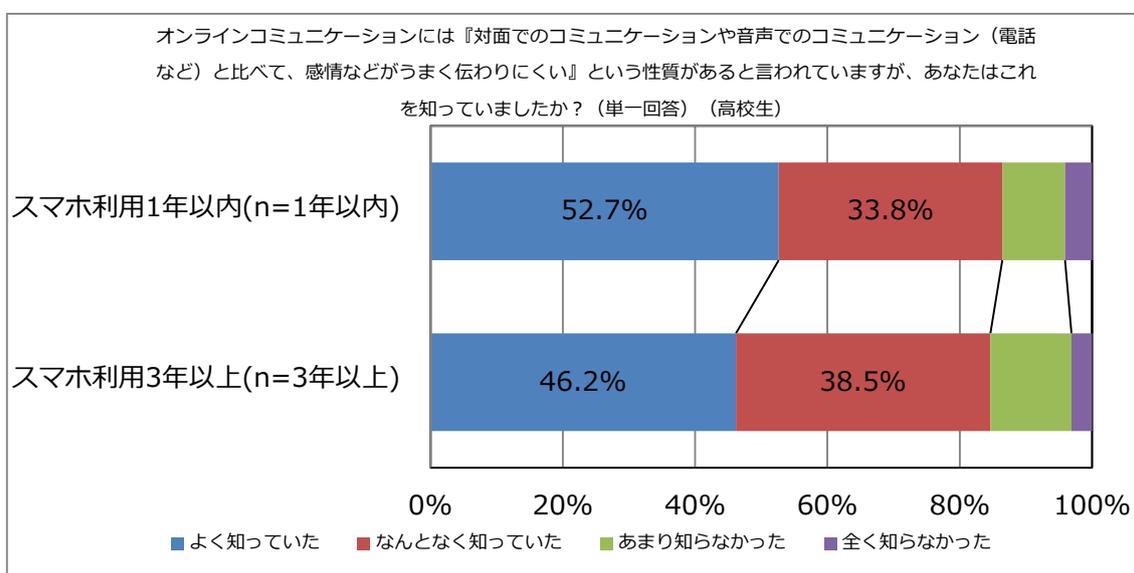


グラフ 11

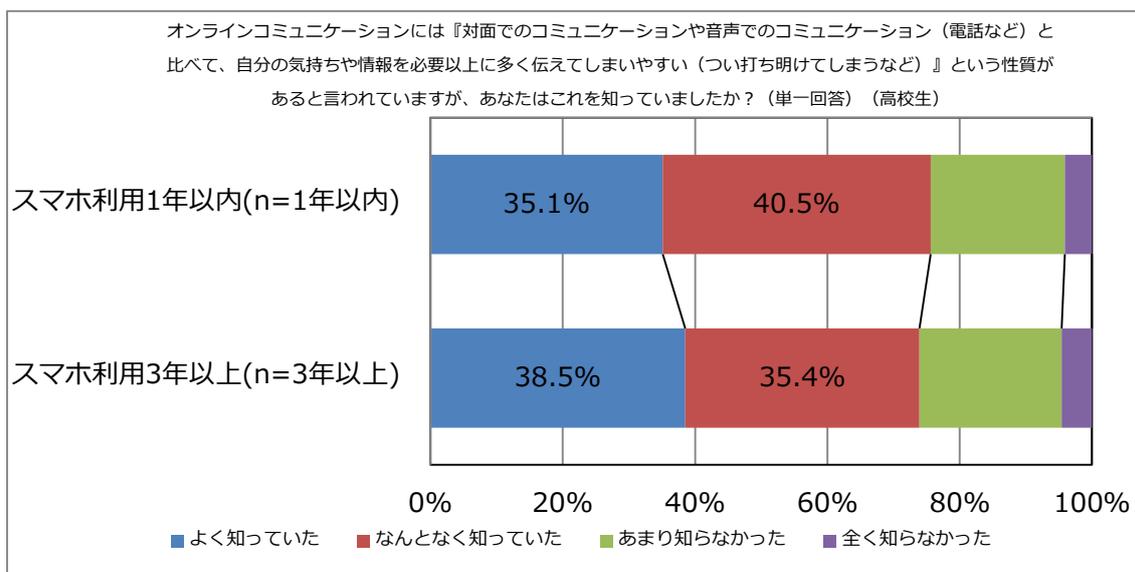


グラフ 12

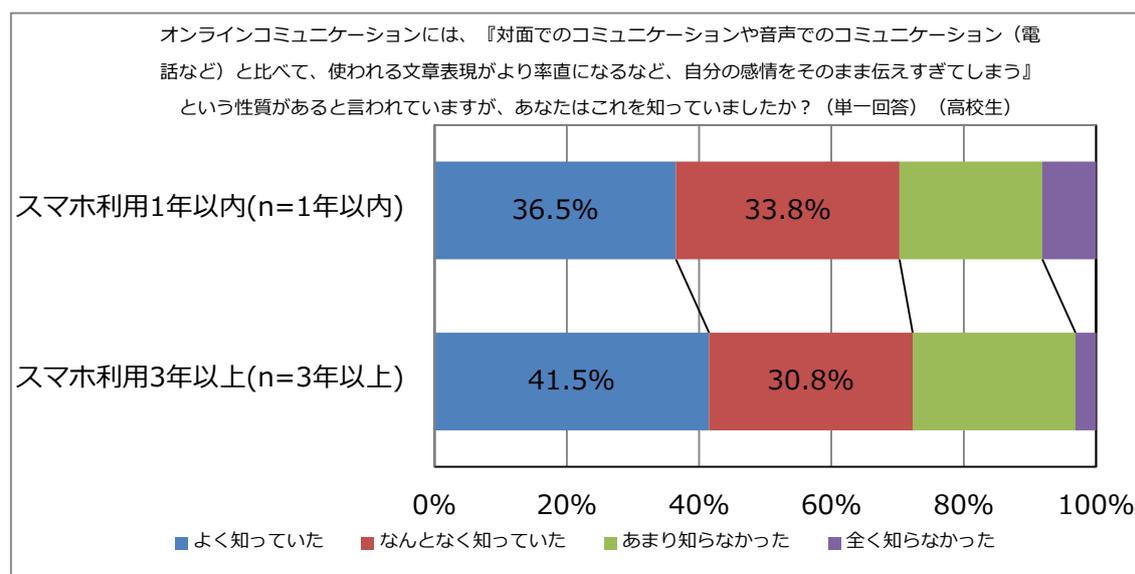
また、オンラインコミュニケーションの諸特性の理解度と、スマートフォンの利用経験開始時期（3年以上前と1年以内、高校生のみでクロス集計）との相関関係を確認しましたが、利用開始時期に関わらずほぼ同様の回答傾向となり、有意な差は認められませんでした。（グラフ 13）、（グラフ 14）、（グラフ 15）



グラフ 13



グラフ 14



グラフ 15

仮説（エ）が定量的に裏付けられなかったことについては、本来、調査設計時点で、回答者の自己評価だけでなく、客観的に理解度や態度行動などをはかる質問を組み込むべきところ、検討と配慮が欠けていたことが最大の理由と考えられます。

また青少年の場合、使われるサービスやソフトウェア（アプリ）がインターネット利用を本格的に始める時期によって大きく異なるなど世代差が見られること、中学・高校への進学時などに一斉にデビューすること、オンラインに限らずコミュニケーション能力が急速に発達する時期であり、個人差も大きいことなども影響している可能性があります。

この点については今後、あらためて同一年齢（学年）の青少年間での比較を試みるなど、より詳細の調査と検討が必要です。

また、青少年層の方が「（自分の）オンラインコミュニケーションはうまく出来ている」との回答率が保護者層よりも高めの結果となりました。この結果には、一般に青少年の方が、オンラインコミュニケーションに抵抗がなく、実質的な利用時間も長く経験が豊富であることが影響していると考えられますが、前提となる「コミュニケーションがうまく出来ている」という認識自体についての保護者層との定義のズレや、「コミュニケーション」そのものについての理解の浅さが隠れているという可能性も残ります。こうした点についても、より掘り下げた分析と教育啓発場面での配慮が必要です。

なお、調査質問項目および結果の全文については、四章（本報告書P.50）に収録しています。

2.4 考察

「感情の伝わりにくさ」や「必要以上の自己開示をしがち」など、オンライン特有のコミュニケーションの難しさについては、保護者層についても青少年層と同様の悩みや不安を感じつつ利用していました。発達途上の青少年に限った話ではなく、まだ歴史の浅いオンラインコミュニケーションを利用する際の根源的な問題でもあることが、確認できたといえます。

ただし、オンラインコミュニケーションの特性への配慮不足から、スマートフォンの持ち始めの時期に、同級生間でのメッセージング利用トラブルが急増しているという学校現場の声を聞くことが多い中でも、今回のウェブアンケート調査の対象となった、ある程度利用経験を持つと考えられる高校生・大学生多くの青少年については、そうした特性について把握している回答者が多かったことは、好材料と見ることができます。

今後は、小学校高学年や中学1年生など、地域ごとに多くの青少年がスマートフォンデビューをする時期に合わせて、予めオンラインコミュニケーションの特性の理解を促すような教育啓発の機会を増やすことで、トラブル抑制の効果も期待できそうです。ただしその際、「知識」としては分かっている、実際の行動に結びつかないというギャップを埋める工夫が求められます。

一方、回答者のオンラインコミュニケーション経験の多くが、家族、親しい友人など「身内」感覚で付き合える相手に留まっていた。距離的・時間的・社会的な制約が少ないコミュニケーション手段という、インターネットの本来の特徴を生かすためには、顔を知らない相手とのコミュニケーションの経験が必要不可欠です。今後、社会全体でのインターネット活用を考える際には、オンラインコミュニケーション経験に留まらず、対面や電話などインターネットを利用しない形態も含めた、多面的なコミュニケーションの場

面をどのように増やし、適切な経験を積みながら能力を伸ばしていくのかという視点が欠かせません。

最後に、オンラインコミュニケーションの際に使われるソフトウェア・アプリや機器のいずれについても、やはり大きく様変わりしていました。家庭での理想的なインターネットデビューについて考える土台となる「段階的利用モデル」を、そうした現実に合わせて修正すべきことを裏付ける結果となりました。

3. オンラインコミュニケーション能力モデルの提案

3.1. 検討の前提

オンラインでのコミュニケーションの難しさを自らも感じている大人は少なくありませんが、それを他者に具体的に説明するのはさらに難しいものです。そこで本研究会では、保護者や教育啓発の関係者の課題理解を助けることを目的に、適切なオンラインコミュニケーションに欠かせない能力要素を構造的に示す方法を検討することにしました。またその際、これまで本研究会が提唱してきた「段階的利用モデル」を修正し、これと統合的に説明することとしました。

もともと、段階的利用モデルは、学校現場での情報モラル指導の基本的なガイドラインである「情報モラル指導モデルカリキュラム表」¹⁷を、その趣旨を損なうことなく一般家庭でも参照可能とするためにわかりやすく簡略化するところに出発点がありました。

結果として、「サイト閲覧のみ」から始まり、「メール利用の開始」「自分のページでの発信利用」、より高度な「チャットや交流サイトの利用」までを、利用可能なサービス種別ごとに四段階で区分した上で、その区切りをパソコンなど情報の置き場所やフィルタリングによる行き先の制限によって実現するという枠組みを提案するに至りました。

また、安全かつ効率的にインターネットを利用するためには「モラル・コミュニケーション能力面で必要な力」と「知識・スキル面で必要な力」の二種類をバランスよく身につける必要があると指摘し、四つの段階ごとに満たされるべきポイントを例示しました。

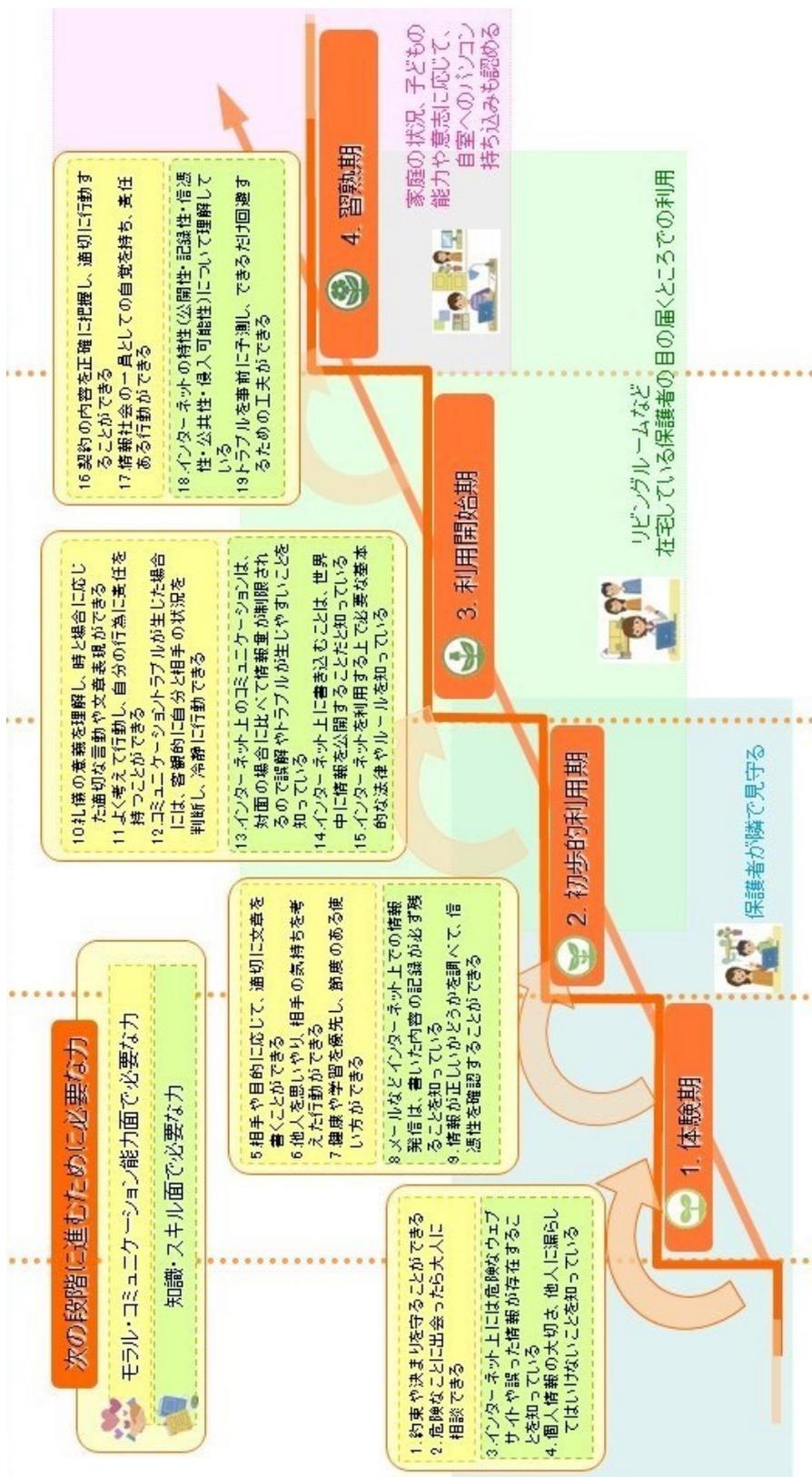
(図 2)

今回のオンラインコミュニケーション能力についての検討でも、こうした「利用可能な範囲を段階分け」した上で、「それぞれの段階ごとに必要な能力要素を例示する」という段階的利用モデルの基本的な構造を踏襲することにしました。また、学校現場での情報モラル指導の基本となっている「情報モラル指導モデルカリキュラム表」やそこで使われているキーワード等を基本としながらも、ソーシャルメディア利用の一般化など、新しい利用環境に関わる部分については、これにとらわれず、現実に即した形で独自に検討することとしました。

¹⁷ 文部科学省 情報モラル指導モデルカリキュラム表
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2010/09/07/1296869.pdf

図 2

これまでの段階的利用モデル抜粋 (2009 年度発表)



3.2. 段階分けの検討

前章で紹介した通り、利用実態調査の結果で確認できた大きな変化の一つが、かつては存在していた「メール」「プロフィールページ」「ホームページ」「交流（コミュニティ）サイト」といったサービス種別ごとのステップアップ的な使い分けは、現在ではほとんど意味を持たず、インターネットへのデビューと同時に参加発信型利用が当たり前化しているという点でした。

一方、参加発信利用とはいっても、家族や親しい友人など、近い間柄での利用がほとんどであり、より難度が高いと考えられる「顔を知らない相手」とのコミュニケーションはそれほど盛んではありませんでした。

こうした現実を受け、今回のオンラインコミュニケーション能力についての検討では、参加発信型のサービスを提供種別ごとに位置づけるのではなく、「家族など信頼できる大人」、「顔を知っている友人」、「顔を知らない相手」の三段階に分けてコミュニケーションの範囲＝相手を限定することで、能力発達にふさわしい適切な経験を積んでいくべきという考え方を採ることにしました。

またもちろん「受信閲覧型」の利用と比べると「参加発信型」の利用リスクが高いことには変わりはありません。最終的に段階的利用モデルへの統合の段階では、インターネット利用開始の第一段階として「サイト閲覧（のみ）を認める」を位置づけています。

また、各段階の区切りをつけるための具体的な手段としては、フィルタリングなど、情報機器に搭載されている保護者管理機能の利用と、家庭内での情報機器の利用場所や保護者の関わり方を示しました。

こうした検討の結果、オンラインコミュニケーションを認める前段階として、比較的安全度の高い「サイトの閲覧」利用に必要な能力要素を挙げ、インターネット利用を始めるにあたって「サイトの閲覧のみを認める（Step1）」、オンラインコミュニケーションを体験するための「家族など信頼できる大人のみへのオンラインコミュニケーションを認める（Step2）」、オンラインコミュニケーションの入門期にあたる「顔を知っている友人への発信を認める（Step3）」、オンラインコミュニケーションへの習熟をはかる「顔を知らない相手への発信を認める（Step4）」の四段階で区分することにしました。

なおこのうち「Step3」については、顔を知っている友人への発信を、さらに「1対1での利用」「グループでの利用」の二段階に分けて、難易度の差を補助的に表現しています。顔を知っている友人間であっても、複数の相手と同時並行的にコミュニケーションが進むメッセージングアプリなどのグループ利用では、全体としてのコミュニケーションの流れを自分で制御することが難しくなり、トラブルも増える現実を反映させています。

また「Step4」についても、顔を知らない相手宛の発信や相手との交流を、同様の二段階に分けています。

3.3 求める力の検討

続いて、各段階でのインターネット利用に求められる力をどのように整理、表現するかについて検討します。

既に述べた通り、以前の「段階的利用モデル」(図 2)では、「モラル・コミュニケーション能力面で必要な力」と「知識・スキル面で必要な力」という大きな二つの区分を示した上で、各段階ごとに満たしているべきポイントを列挙していました。この、二つの力をバランスよく伸ばしていくことが大切という説明は分かりやすく、説得力があります。

しかし、より詳細に検討をしていくと、たとえば、やや方向感の異なる「モラル」と「コミュニケーション能力」をまとめていることについては、時に分かりにくさも感じられました。また、「知識」と「スキル」についても同様に、「知っている」と「できる」の差をより明確に表現すべきではないかと考えられるものでもありました。

そこで今回の検討では、求められる力を「能力(スキル)」「知識」「倫理」の三つに区分し直すとともに、段階ごとに特有のトラブルを挙げた上で、その克服や予防・抑制に必要な具体的な要素をそれぞれ列挙、例示していくこととしました。(図 1 参照)

「Step1」

まずサイト閲覧のみを認める「Step1」では、フィルタリングなどで一定程度の予防は可能¹⁸なものの、ウイルス感染や架空請求詐欺、個人情報窃取など悪意のあるサイトへの接触の懸念があります。また意図的かそうでないかに関わらず、信憑性の低い情報や、攻撃的な文章、残虐な画像・動画が掲載されたページなどに出会う可能性もあります。サイト側の問題だけでなく、利用者自らが面白い動画などを繰り返し閲覧したり、次々と探し回ることなどで利用が長時間化することも少なくありません。こうしたトラブルを防ぐためには、「能力」面で「機器の基本操作ができる」他、「情報の信ぴょう性を確認することができる」「健康や学習時間に配慮し、節度のある使い方ができる」ことが求められます。また「知識」面ではインターネット上には「危険なウェブサイトや誤った情報などが存在することを知っている」や「個人情報の大切さなど、基本的な情報の取り扱い方知っている」ことが大切になります。さらに、「倫理」面については、「約束や決まりを守る」「危険や不安を感じたら大人に相談する」といった点を満たしていることが必要でしょう。

¹⁸ デビュー時期にあたる Step1 ではかなり多くの分野をフィルタリングの制限対象とすることになるが、その後、利用者(青少年)の能力などの向上に応じて、対象分野を減らしていくなど「フィルタリングを徐々に緩めていく」ことになる。ただし、残虐画像・動画が掲載されたページや詐欺サイトなど、大人でも望まない分野については、利用者側が自らの身を守る目的で、Step4 やそれ以降でも、フィルタリングによる制限対象とし続けることも効果的と考えられる。

「Step2」

次の段階では、家族など信頼できる大人のみへの発信を認め、オンラインコミュニケーションを体験させます。メッセージアプリやメールなどを利用して、初めて自分の考えを文章や写真・動画として他者に発信するようになることから、不適切な内容を送る、相手の都合を考えずに使う、所期の目的を達成する文章がうまく書けないといった失敗が想定されます。

したがって「能力」面では、「文章で用件や気持ちを適切に表現できる」「文章が相手の気持ちを適切に表現しているとは限らないことを知っている」といった点について、それぞれ基礎的な段階には達している必要があるでしょう。また「知識」面では、「インターネットを経由した通信は内容の記録が必ず残ることを知っている」「一度発信した文章や写真などのデジタル情報は完全に消すことはできないと知っている」「相手の表情などが見えないコミュニケーションは意思疎通が難しいことを知っている」「インターネット上でも、場面に応じた発信が必要なことを知っている（文体、分量など）」「了承を得ずに撮影してはいけないものがあることを知っている」ことが前提となります。加えて「倫理」面でも「状況や気持ちを考え、相手を思いやる」ことがどこまで出来ているのか、試されるようになります。

「Step3」

その次の段階ではいよいよ、顔を知っている友人宛のみ発信を認めることとなります。いわば、オンラインコミュニケーション入門期にあたります。同級生など仲が良い友だちが相手であっても、メッセージなどの利用に伴う対人トラブルが頻発しがちです。その多くはちょっとした行き違いや、その行き違いを恐れるが故にスマートフォンなどの情報機器が手放せなくなるという影響に留まりますが、中には、攻撃的な言葉を投げつけたり、グループ機能を用いた仲間はずれや陰口の応酬、嫌がらせの文章や写真・動画を投稿するなどの不適切な利用も見られます。また、メッセージのように閉じた空間ではなく、本来開放されている空間である Twitter などのブログや掲示板でも、プライベートなコミュニケーションをする青少年が少なくありません。そういった場に不適切な文章や写真・動画を投稿してしまうと、第三者の目にとまり、批判的なコメントが殺到したり、本人を特定され、プライバシーがインターネット上に拡散してしまうなどの取り返しのつかない結果にもつながります。

そのため、この段階では「能力」面としては「オンラインコミュニケーション体験期」での各要素をより高い水準で求められるようになる上、「不快なメッセージなどに冷静に対応できる」「複数人でのコミュニケーションの際に、同調しすぎず自分の判断ができる」「トラブルが生じた際に、客観的に自分と相手の状況を判断し、冷静に行動できる」ことも必要になります。また、「知識」面では「インターネットの公開性を理解し、発信

した内容は世界中の人に見られる可能性があることを知っている」「サービスによって情報の公開範囲が異なり、利用者がその判断しなければならないことを知っている」「オンラインコミュニケーションでは、自分の気持ちや情報を必要以上に伝えてしまいがちなことを知っている」「ネット上での誹謗中傷や名誉毀損は、未成年でも罪に問われることがあることを知っている」などが重要になってきます。「倫理」面では「他者を傷つけない」と「自分を大切にすること」をうまく両立させることが大切になります。

「Step4」

顔を知らない相手宛の発信や相手との交流を認めることで、オンラインコミュニケーションへの習熟をはかる最終段階では、いよいよ本当の意味でのオンラインコミュニケーションが始まります。インターネットを経由した他者との関わりには、地理的な差にとらわれない意見交換や交流などの大きな魅力がある反面、インターネット上での交流が性犯罪被害のきっかけになるなど、発達途上の青少年の未熟さにつけ込んだ攻撃を悪意のある大人から受ける懸念があります。また、発信内容がさまざまな価値観を持つ他者の目に触れることで、好ましくない結果を招く場合もあります。

したがってこれまでの三段階でそれぞれ求められた三つの力の各要素をさらに高める必要があるのはもちろん、「能力」面では、「場面や相手に合わせた適切な表現をすることができる」ことや「目的に応じて、最適なコミュニケーションツールや手法を使い分けることができる」ことが必要になってきます。また「知識」面では「インターネットが限りある資源であることを知っている」「インターネットを利用する上で、最低限必要な肖像権や著作権などの法律やルールを知っている」「インターネット上ではかんたんに他人に成りすますことができることを知っている」「オンラインコミュニケーションでは、未知の人物の言うことを過剰に信用しがちであることを知っている」ことが大切になります。さらに「倫理」面では、「情報社会の一員としての自覚を持ち、責任ある行動がとれる」「公共公益の意識を持ってインターネットを活用し、情報社会の発展に貢献できる」といったことも求められる段階です。

3.4. 新しい「段階的利用モデル」の課題

ここまで、オンラインコミュニケーションの範囲（相手）を元にした新しい「段階的利用モデル」での段階分けおよびそれぞれの段階で求める力について検討をしてきました。早い段階からの個人別情報機器の所有やメッセージングアプリの利用など、最新の利用状況を踏まえ、より安全なインターネットデビューのために求められる力と段階的な利用範囲を整理することができました。

ただし、家庭において保護者などが各段階を区切るための具体的な手段が乏しいことが課題です。以前の「段階的利用モデル」（図 2）では、掲示板や交流サイトなどのサービス種別を段階ごとに位置づけていました。こうした区分であれば、フィルタリングや機器ごとの保護者管理機能によって、利用を容易に制限することができます。また、パソコンでの利用開始を前提として、保護者が隣で見守る、家庭内の目の届くところに機器を設置するなどの手段も併用することを推奨していました。

しかし今回の新しい「段階的利用モデル」では、サービスの種別や外形的な差ではなく、「それらのサービスを利用して誰とコミュニケーションを行うのか」に着目して、利用段階を区分しています。

残念ながら、現状のフィルタリングや機器ごとの保護者管理機能では、その仕組み上、そうした制限はかなり限定的にしかなれません。また、技術的には、各ソフトウェア（アプリ）やサービス側にて利用範囲を設定できる²⁰ことが最も自然ですが、現時点でそうした区分や、保護者がその種の設定を管理できる²¹ようになっているサービスはほとんど見当たりません。

そのため、コミュニケーション相手を誰にするのかなど、各段階で認められる利用範囲については、青少年と保護者がともにその意義を共有した上で、自律的に運用する必要があります。

また、設置場所が固定されるパソコンとは異なり、スマートフォンなど携帯型情報機器の利用が当たり前になっている中、家庭内での利用場所による制限についても、段階の区切り方を親子でのルール化などに頼るしかありません。

さらには、子どもたちの能力（スキル）や知識、倫理面での力がどの段階にあるのか、どう伸ばしていくのかについては、保護者がよく注視し、子どもの気質なども踏まえて判断することが前提となっています。

今回の新しい「段階的利用モデル」には、そうした限界が存在していることに留意する必要があります。

²⁰ たとえばメッセージングアプリのコミュニケーションの相手を「家族」「顔を知っている友人」「顔を知らない相手」などに分けて管理した上で、それぞれ利用できる機能を分けるなど。

²¹ コミュニケーション相手の登録機能を暗証番号などで保護した上で、新規追加の際にはその都度保護者等の承認を必要とするなどが考えられる。

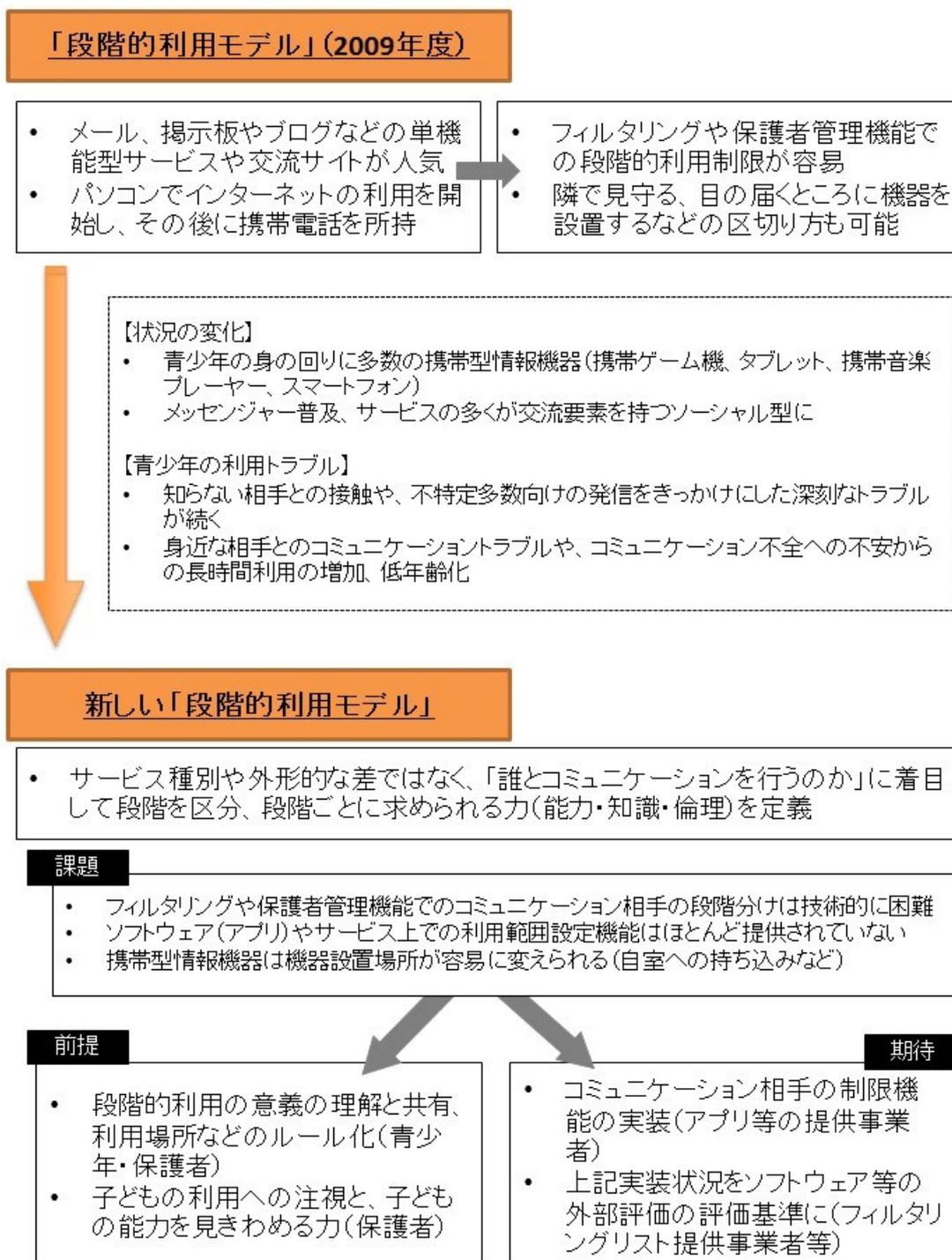


図 4 新しい段階的利用モデルの課題

4. 今後に向けて

4.1. 調査検討の残課題と研究会の今後の取り組み、関係先への期待

今期の調査検討「オンラインコミュニケーション能力のモデル化」では、本研究会が提供するモデル教材や、教育啓発実践の基本となってきた、「段階的利用モデル（2009年度発表）」の再検討を行いました。今後、モデル教材の改訂を進めるとともに、来年度からの教育啓発実践においては、新しい段階的利用モデルを基本としたカリキュラムでの講座運営を行う予定です。

その他、関係省庁や地方自治体、保護者団体などにも、教育啓発の場面において、特定のアプリの利用に伴うトラブルなど、表面的な部分にとらわれがちなところ、オンラインコミュニケーション能力発達の本質について伝え、考えてもらう必要があることを伝えながら、本検討結果の活用や応用を働きかけていきます。

一方、事前のグループインタビューの段階では仮説とされながらも、ウェブアンケート調査の結果だけでは定量的な説明が難しかった、利用経験とオンラインコミュニケーションの特性の理解の相関、オンラインコミュニケーションとオフラインコミュニケーションの力の相関については、次年度以降、機会を見つけて調査と検討を進めていきます。

さらに、オンラインコミュニケーション能力を構成する要素が、新しい段階的利用モデルの中で説明されたことを受け、今後、各段階で求められる力の見きわめ方の例示などを含め、そうした能力を向上させるための教育のあり方についても、検討を加えていきます。

なお、今年度改訂を行った「段階的利用モデル」では、「オンラインコミュニケーションの相手を利用者との関係の遠近や信頼の度合いに合わせて段階的に拡大していく」ことを、適切なインターネットデビューの前提に位置づけています。

ところが、現実にはほとんどのソフトウェア（アプリ）やサービスでそうした機能が提供されておらず、既存のフィルタリングや外部アプリや情報機器上の保護者管理機能のみで、この点を克服することは技術的にも困難と考えられます。

そこで、青少年に利用されることが多いオンラインコミュニケーション用のソフトウェア（アプリ）やサービスの提供事業者には、「青少年保護・バイ・デザイン」の観点から、今回の「段階的利用モデル」の提案を参考に、保護者または青少年自身にてコミュニケーション相手の範囲を制限することができる仕組みを実装することを求めます。

また将来的にはそうした仕組みの有無や使いやすさが、フィルタリングリスト提供事業者や第三者機関などがソフトウェア（アプリ）やサービス上を外部評価する際の評価基準の一部となることを期待しています。

第三章 地域密着型教育啓発事業及び 教育啓発の評価

指標モデルの実践

1. 第五期提言の概要振り返り

子どもたちのインターネット安全利用についての教育啓発の機会が増加する反面、その実績を計る指標は、開催の回数や受講者数といった量的なものか、受講者の満足度をその都度測定する程度に留まるものがほとんどであり、研修会開催の効果を直接計るための手法の開発、普及は大幅に立ち遅れています。そのため、昨年度（第五期）の本研究会では、教育啓発の評価指標のあり方について検討しました。²²

研修会開催の効果を測定する際、最も理想的なのは、研修会受講者の行動の変化を追跡することですが、主催者・受講者への負担を考えるとこの手法は現実的ではありません。そこで本研究会では、それに代わるものとして、研修会受講時点での受講者の行動意図とその後の行動変化の実際を測定する小規模な実証実験を行い、その結果から評価指標モデルを提案しました。

今後、より大規模な測定を行いこのモデル自体の改良をしていくことも必要ですが、その前に、実際の研修会開催場面での同モデルを用いた効果測定が直近の課題となっていたため、今期の本研究会の教育啓発実践では、研修会後のアンケート項目に、行動意図を聞くための質問を追加し、小規模ながら、効果測定を試みることにしました。

²² 第五期報告書「啓発教育の評価指標のあり方と地域密着型教育啓発の実践」 <http://www.child-safenet.jp/activity/documents/report05.pdf>

2. 今期の各地での取り組みの実際

2.1 取り組みの全体像

今年度は、計5地域での教育啓発実践に取り組みました。

自治体名 (協働先など)	本研究会の立場	実施校/地域	研修会 対象者	研修会の財源
横浜市 (横浜市教育委員会後援)	主催	本牧地区1会場 (中学校2校/小学校4校合同での取組)	保護者	協賛 (株式会社ミクシィ)
東京都渋谷区 (渋谷区教育委員会後援)	主催	小学校区2会場	保護者	協賛 (株式会社ミクシィ)
秋田県 (秋田県教育委員会主催)	協働	中学校区6会場 (県北部/中央/南部から各2会場)	保護者 教職員 (一部地域)	協賛 (ヤフー株式会社および株式会社ミクシィ)
札幌市 (札幌市教育委員会主催)	協力	中学校区2会場	保護者 教職員 児童生徒	市費 (委託事業)
八戸市 (八戸IT・テレマーケティング未来創造協議会主催)	協力 (SIA経由)	中学校区1会場	保護者 教職員 児童生徒	協議会予算

表 2

このうち、横浜市、東京都渋谷区、秋田県と札幌市については、それぞれの枠組みにおいては、昨年度とおおむね同様の取り組みとなりました。

横浜・渋谷・秋田については、協賛企業の費用面での支援により、計32回の講座全てに本研究会から講師を派遣し、利用状況の変化に合わせたカリキュラムの見直し、企画運営部分の改善を主な目的として取り組みを進めました。

また、札幌市の取り組みは市の委託事業として、平成25年度から実証的に行われているもので、今年度は市内の二つの地域(中学校区)を会場に、保護者・教職員・児童生徒

子どもたちのインターネット利用について考える研究会
第六期報告書

のそれぞれに対する研修会や特別授業を実施しました。本研究会では、教材の制作などの面から、同事業および同事業を受託した民間事業者への協力を行いました。



写真 1 札幌市内での児童向け講座のようす



写真 2 札幌市内での保護者向け講座のようす

「全県規模・自治体主導・民間との協働」が特徴となる、秋田県の保護者向け教育啓発の取り組みについては、内閣府や文部科学省など、中央省庁の進める各種の情報発信の中でも先進事例の一つとして取り上げられる²³ようになりました。

このうち、本研究会が直接講師を派遣する地域サポーター養成講座²⁴については、1回あたり120分というボリュームの講座を会場ごとに4回連続で開催しました。その他、県職員が講師として行われる「県庁出前講座」にも、本研究会のモデル教材が活用されている他、一般の保護者向けの情報発信の内容についても本研究会としてご協力を行いました。

また、昨年度の地域サポーター養成講座の受講者を対象としたフォローアップ講座も開催されました。

²³ 文部科学省の主催する平成26年度全国家庭教育支援研究協議会において、秋田県教育委員会による事例発表が行われた。http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/katei/1353687.htm

²⁴ 本報告書 P.81 以降に教材や振り返り資料、各種アンケートの質問紙、今年度取組結果の振り返り資料などを収録した。

子どもたちのインターネット利用について考える研究会
第六期報告書



写真 3 秋田県内での保護者向け講座のようす

2.2. 新たな取り組み

今年度からの新たな取り組みである、八戸 IT・テレマーケティング未来創造協議会²⁵による「子供を守るインターネットセーフティ活動」に対しては、本研究会の連携団体である一般社団法人セーフターインターネット協会が、本研究会のモデル教材「インターネットセーフティガイド」を元にした教材の作成、保護者・教職員・生徒それぞれに向けた研修会への講師派遣の協力を行いました。

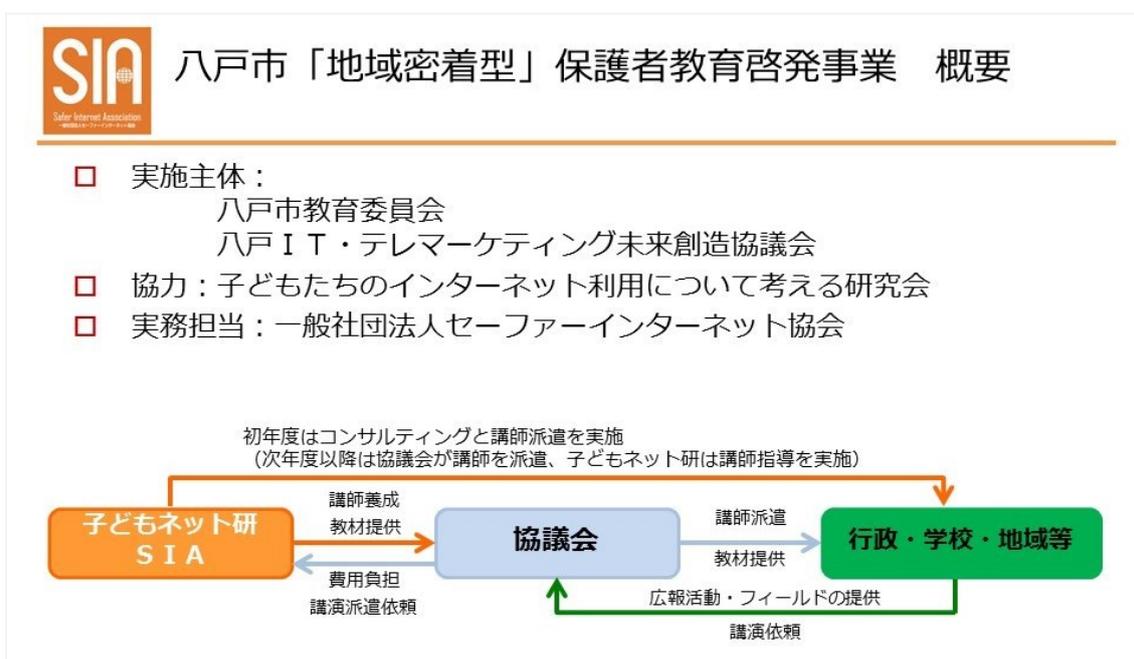


図 5 事業概要

(セーフターインターネット協会 事業概要資料より引用)

この八戸での取り組みの特徴は、行政機関や学校だけでなく、地元立地の複数の民間企業で構成される協議会が事業の主体となっている点にあります。

また、第五期での取り組み残課題の一つとして挙げられていた「地域に根ざした講師養成」が初めから視野に入っていることも特徴となります。協議会構成企業の中にインターネット関連事業者が複数含まれていることから、そうした事業者の従業員の基礎的な IT スキルの高さを生かし、地域内の学校などで開かれる研修会の講師として育成するための準備も始まっています。さらには、こうした担い手の特徴を生かした形で、インターネット上での安全の確保だけでなく、具体的なインターネット活用の場面にも目を向けた親子講座を開催するなど、教育啓発のコンテンツ面でも独自の試みが含まれています。

²⁵ 八戸市役所と、八戸市に進出している IT・テレマ関連の誘致企業にて構成され、地域の理解・認知度向上と事業者の持続的な発展、八戸地域の雇用機会のさらなる創出と八戸市の活性化を目的に設立された団体

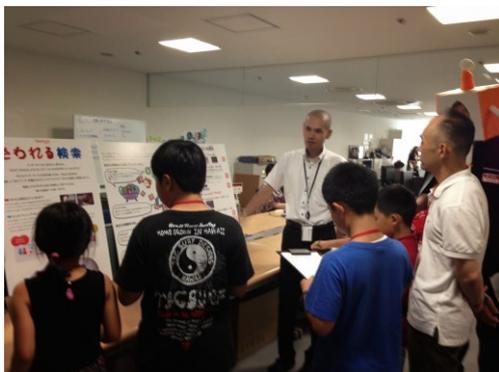


写真 4 夏休みに行われた親子講座の様子

3. 行動変容期待度測定の試行

今年度の取り組みの全ての地域の保護者向け研修会において、受講者の行動変容期待を測定するための項目を、受講者アンケートの一部として組み込みました。²⁶

具体的には、「今日学んだことをご家庭でお子さんと話してみようと思いますか？」や「今日学んだことを配偶者や周囲の保護者などと話してみようと思いますか？」といった、行動意図を聞く質問項目と、「今日学んだことをお子さんと話すのはどのくらい簡単ですか？」や「今日学んだことを配偶者や周囲の保護者と話すのはどのくらい簡単ですか？」といった、行動の容易さの認識を聞く質問項目を「そう思う」または「とても簡単」から「そう思わない」または「とても出来そうにない」までの四段階で回答してもらいました。

その結果、行動の意図を聞いた質問項目については、いずれの研修会会場においても、高い割合で、四段階最も前向きな回答が集まりました。しかし、行動の容易さの認識については、「少しそう思う」「まあまあ簡単」というやや前向きな回答が最多となりました。

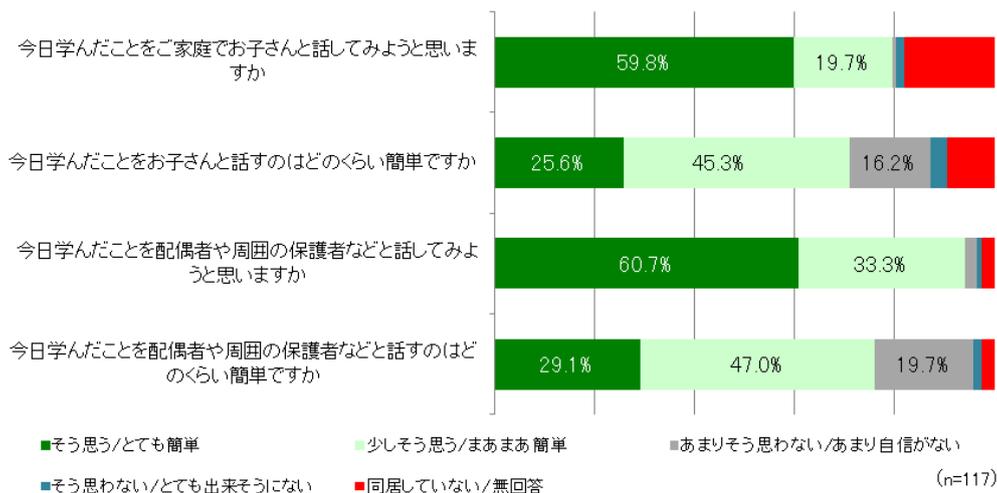
こうした結果から、教材および講座運営のいずれについても、本研究会が設立以来重視してきた「構造や背景を含めた課題の理解＝適切なリスク意識の醸成」については一定の成果が得られていることが期待できるものの、「受講者の行動変容支援」については、まだ改善の余地が大きいことが明らかになりました。

²⁶ 行動変容の測定指標については、第五期報告書 4章 4「効果検証指標ワーキンググループ報告書 (P.18)」に記載 <http://www.child-safenet.jp/activity/documents/report05.pdf>



地域サポーター養成講座 第一回講座の効果(行動変容)

サブタイトル 子どもたちのインターネット問題を正しく知ろう
主な内容 機器の多様化、参加発信利用リスクへの着目、四つの特性



<http://www.child-safenet.jp>

図 6

4. 今後に向けて

4.1. 残課題と研究会の今後の取り組み、関係先への期待

保護者向け教育啓発の実践では、前期の残課題として挙げられた二点のうち、「地域に根ざした講師の養成」については、八戸市での新たな取り組みについては、地元立地の関係事業者の社員活用という手がかりが見いだされましたが、その他の地域での明示的な前進には至りませんでした。また、より低い年齢層の子どもを持つ保護者向けの教育啓発のあり方についても、具体的な取り組みには至りませんでした。

来年度以降、本研究会の教育啓発実践では、これらの課題の解決と探求により重点を置いて進めていきます。

第四章 資料等

1. 体制（第六期）

委員（座長以下50音順・敬称略）

- ・ 坂元 章
（お茶の水女子大学 大学院人間文化創成科学研究科 人間科学系 教授）◎座長
- ・ 井島 信枝（子どもねっと会議所 代表）
- ・ 笹井 宏益（国立教育政策研究所 生涯学習政策研究部長）○座長代理
- ・ 新谷 珠恵（一般社団法人 東京都小学校PTA協議会顧問）
- ・ 玉田 和恵（江戸川大学 メディアコミュニケーション学部 情報文化学科 教授）
- ・ 七海 陽（相模女子大学 学芸学部 子ども教育学科 准教授）

フェロー（50音順・敬称略）

- ・ 漆 紫穂子（品川女子学院 校長）
- ・ 下田 博次（国立大学法人群馬大学 名誉教授）
- ・ 竹島 正（国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 精神保健計画研究部長
同研究所自殺予防総合対策センター長）

アソシエイトフェロー（敬称略）

- ・ 宮田 佳代子（フリーキャスター／城西国際大学客員教授／桐光学園寺尾みどり幼稚園・読み聞かせ専科講師）

事務局体制

運営企業：ヤフー株式会社、ネットスター株式会社

アルプス システム インテグレーション株式会社

運営協力企業：ピットクルー株式会社

2. 開催

第一回 本会	
日時	2014年7月11日
会場	ネットスター株式会社 会議室（東京都港区白金台）
検討内容	第6期調査研究活動主テーマ検討 地域密着型教育啓発事業進捗報告

第二回 本会	
日時	2014年10月22日
会場	ネットスター株式会社 会議室（東京都港区白金台）
検討内容	第6期主テーマ進捗状況の報告 地域密着型教育啓発事業進捗報告

第三回 本会	
日時	2015年1月29日
会場	ネットスター株式会社 会議室（東京都港区白金台）
検討内容	報告書案等とりまとめ

第四回 本会	
日時	2015年2月26日
会場	ネットスター株式会社 会議室（東京都港区白金台）
検討内容	報告書案等とりまとめ

3. 調査研究および教育実践のご協力先一覧（50音順） （ご協力先一覧）

秋田県教育委員会
秋田県 PTA 連合会
大館市立大館東中学校
大館市立桂城小学校
大館市立長木小学校
大館市立有浦小学校
北秋田市立鹿角中学校
北秋田市立鷹巣西小学校
北秋田市立鷹巣東小学校
北秋田市立綴子小学校
湯沢市立山田中学校
湯沢市立山田小学校
東成瀬村立東成瀬中学校
東成瀬村立東成瀬小学校
男鹿市立男鹿南中学校
男鹿市立船川第一小学校
男鹿市立船川南小学校
八郎潟町立八郎潟中学校
八郎潟町立八郎潟小学校
横浜市立大鳥中学校
横浜市立本牧中学校
横浜市立大鳥小学校
横浜市立本牧小学校
横浜市立本牧南小学校
横浜市立間門小学校
横浜市教育委員会
渋谷区立中幡小学校
渋谷区立猿楽小学校
渋谷区教育委員会
札幌市教育委員会
札幌市立啓明中学校
札幌市立緑丘小学校

札幌市立幌西小学校
札幌市立二条小学校
札幌市立幌東中学校
札幌市立幌東小学校
札幌市立東橋小学校
札幌市立上白石小学校
八戸市役所
八戸市教育委員会
八戸 IT・テレマーケティング未来創造協議会
八戸市立下長中学校
八戸市立下長小学校
八戸市立城北小学校
八戸市立高館小学校
学校法人江戸川学園 江戸川大学
学校法人相模女子大学
株式会社ミクシィ
ヤフー株式会社

4. その他資料

1 オンラインコミュニケーションのインターネット調査 調査票及び単純集計結果

▼保護者調査

子供の学齢 (n (554))

	高校生	大学生
総数	276	278
(%)	49.8%	50.2%

性・年代別 (n (554))

	n	男性 30 ～39 歳	男性 40 ～49 歳	男性 50 ～59 歳	女性 30 ～39 歳	女性 40 ～49 歳	女性 50 ～59 歳
総数	554	8	122	147	11	162	104
(%)	100.0%	1.4%	22.0%	26.5%	2.0%	29.2%	18.8%

Q1 あなたはいつ頃からスマートフォンを利用していますか？ (n (554)) (%)

1年以内	2年前	3年前	4年前	それ以前	スマートフォンは利用して いない
14.6%	23.8%	14.3%	6.1%	8.7%	32.5%

Q2 あなたが現在、オンラインコミュニケーションをする際に利用している機器と利用頻度について当てはまるものをお答えください。 (n (554)) (%)

	1日に複数 回	1日1回 くらい	週に数回	月に数回	年に数回	それ以下	利用して いない
パソコン	60.6%	13.7%	9.7%	5.4%	2.2%	2.2%	6.1%
タブレット	11.4%	4.9%	7.2%	5.4%	1.1%	4.0%	66.1%
スマートフ ォン	44.9%	10.5%	5.4%	2.2%	0.0%	1.6%	35.4%
携帯電話	16.8%	9.6%	5.6%	1.4%	0.9%	2.9%	62.8%
携帯音楽プ レーヤー	4.0%	3.4%	5.4%	2.3%	1.4%	3.4%	80.0%
その他の機 器	2.0%	0.9%	1.8%	0.2%	0.9%	2.5%	91.7%

子どもたちのインターネット利用について考える研究会
第六期報告書

Q3 あなたは次にあげる相手と、どのくらいの頻度でオンラインコミュニケーションをしていますか？当てはまるものをお答えください。(n (554)) (%)

	1日に複数回	1日1回くらい	週に数回	月に数回	年に数回	それ以下	オンラインコミュニケーションをしたことがない
家族	27.1%	23.6%	20.0%	9.6%	2.5%	3.1%	14.1%
友人	18.6%	13.4%	21.3%	20.4%	7.9%	5.6%	12.8%
親しくない知人	2.2%	3.1%	7.6%	17.0%	16.2%	19.7%	34.3%
直接は面識のない相手	3.2%	3.6%	4.7%	5.6%	5.8%	13.7%	63.4%

Q4 あなたが1回のオンラインコミュニケーションの中で会話をする人数は何人ですか？当てはまるものをすべてお答えください。(n (554)) (%)

	1日に複数回	1日1回くらい	週に数回	月に数回	年に数回	それ以下	オンラインコミュニケーションをしたことがない
1人(1対1)	33.4%	19.9%	17.5%	8.3%	3.1%	3.4%	14.4%
数人(グループ)	7.6%	7.4%	11.6%	12.3%	6.9%	7.8%	46.6%
10名以上(全て顔見知りのグループ)	2.3%	2.7%	5.8%	6.9%	4.5%	8.8%	69.0%
10名以上(顔見知り以外のメンバーも含まれるグループ)	2.3%	2.0%	2.9%	3.2%	3.4%	9.2%	76.9%

子どもたちのインターネット利用について考える研究会
第六期報告書

Q5 あなたがオンラインコミュニケーションで利用するソフト・アプリとその頻度について当てはまるものをお応えください。(n (554)) (%)

	1日に複数回	1日1回くらい	週に数回	月に数回	年に数回	それ以下	利用していない
メール	48.9%	17.3%	16.1%	8.8%	2.3%	2.5%	4.0%
LINE や Skype ・ Facebook メッセージャーなどのチャット・メッセージャー	28.9%	12.5%	11.6%	6.5%	2.5%	3.1%	35.0%
Twitter や Instagram などのブログ	7.9%	7.4%	9.2%	5.6%	2.5%	5.2%	62.1%
その他	2.9%	3.6%	3.1%	2.2%	1.1%	4.9%	82.3%

Q6 オンラインコミュニケーションには『対面でのコミュニケーションや音声でのコミュニケーション（電話など）と比べて、感情などがうまく伝わりにくい』という性質があると言われていますが、あなたはこれを知っていましたか？(n (554)) (%)

よく知っていた	なんとなく知っていた	あまり知らなかった	全く知らなかった
43.1%	43.9%	10.6%	2.3%

Q7 オンラインコミュニケーションには『対面でのコミュニケーションや音声でのコミュニケーション（電話など）と比べて、自分の気持ちや情報を必要以上に多く伝えてしまいやすい（つい打ち明けてしまうなど）』という性質があると言われていますが、あなたはこれを知っていましたか？(n (554)) (%)

よく知っていた	なんとなく知っていた	あまり知らなかった	全く知らなかった
24.9%	44.4%	25.5%	5.2%

Q8 オンラインコミュニケーションには、『対面でのコミュニケーションや音声でのコミュニケーション（電話など）と比べて、使われる文章表現がより率直になるなど、自分の感情をそのまま伝えすぎてしまう』という性質があると言われていますが、あなたはこれを知っていましたか？(n (554)) (%)

よく知っていた	なんとなく知っていた	あまり知らなかった	全く知らなかった
25.3%	44.4%	24.9%	5.4%

子どもたちのインターネット利用について考える研究会
第六期報告書

Q9 あなたは、パソコンや携帯電話、スマートフォンなどを使い、各種の連絡や気持ちの伝達など、コミュニケーションをうまく進めることが出来ていますか？それぞれの項目について当てはまるものをお答えください。(n (554)) (%)

	とてもうまく 出来ている	まあうまく 出来ている	あまりうまく 出来ていない	全くうまく 出来ていな い	オンラインでのコミュニ ケーションをしたことが ない
家族	20.2%	63.4%	6.3%	0.7%	9.4%
友人	11.9%	67.0%	10.5%	0.7%	9.9%
親しくな い知人	4.2%	38.4%	13.9%	4.7%	38.8%
直接は面 識のない 相手	3.8%	26.4%	7.2%	4.0%	58.7%

Q10 あなたは、対面や電話でのコミュニケーションを日頃からうまく進められているという自信がありますか？(n (554)) (%)

とても自信がある	まあ自信がある	あまり自信がない	全く自信がない
7.6%	51.3%	37.0%	4.2%

Q11 あなたは、オンラインコミュニケーションで、相手との意思疎通がうまくいかずに困ったこと、嫌な思いをしたことはありますか？それぞれの項目について当てはまるものをお答えください。(n (554)) (%)

	よくある	時々ある	あまりない	全くない
1人 (1対1)	6.5%	26.4%	46.8%	20.4%
数人 (グループ)	3.6%	16.4%	39.4%	40.6%
10名以上 (全て顔見知りのグループ)	3.4%	12.8%	28.0%	55.8%
10名以上 (顔見知り以外のメンバーも含ま れるグループ)	3.1%	11.7%	25.1%	60.1%

子どもたちのインターネット利用について考える研究会
第六期報告書

Q12 あなたのオンラインコミュニケーションに関わる悩みや不安はどのようなものですか？それぞれの項目について当てはまるものをお答えください。(n(554)) (%)

	よくあてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
相手からの返信が来なくて不安になったり、不満を感じることもある	4.7%	37.5%	40.6%	17.1%
何も連絡が来なくてさびしかったり、不安に思うことがある	4.5%	30.7%	42.4%	22.4%
伝わる文章がうまく書けないことがある	7.9%	42.1%	36.6%	13.4%
相手の本当の気持ちがよく分からないことがある	5.8%	46.6%	35.9%	11.7%
着信が多すぎて面倒に思うことがある	7.0%	24.7%	44.8%	23.5%
長引いた会話をうまく切り上げられないことがある	5.6%	33.8%	41.5%	19.1%

▼青少年調査

性・年代別(n=552) (%)

	男性 19歳以下	男性 20～29歳	女性 19歳以下	女性 20～29歳
総数	190	86	181	95
(%)	34.4%	15.6%	32.8%	17.2%

Q1 あなたの学年を教えてください。(n=552) (%)

高校1年生	高校2年生	高校3年生	大学1年生	大学2年生	大学3年生	大学4年生
11.8%	17.0%	21.6%	12.3%	12.9%	12.0%	12.5%

Q2 あなたはいつ頃からスマートフォンを利用していますか？(n=552) (%)

1年以内	2年前	3年前	4年前	それ以前	スマートフォンは利用していない
118	192	119	38	16	69
21.4%	34.8%	21.6%	6.9%	2.9%	12.5%

Q3 あなたが現在、オンラインコミュニケーションをする際に利用している機器と利用頻度について当てはまるものをお答えください。(n=552) (%)

	1日に複数回	1日1回くらい	週に数回	月に数回	年に数回	それ以下	利用していない
パソコン	33.5%	13.6%	14.9%	11.1%	3.8%	3.3%	19.9%
タブレット	8.0%	3.8%	4.2%	2.2%	0.9%	1.8%	79.2%
スマートフォン	70.3%	8.7%	4.9%	0.9%	0.4%	0.5%	14.3%
携帯電話	10.0%	4.5%	3.1%	1.4%	0.5%	0.9%	79.5%
携帯音楽プレーヤー	16.7%	7.2%	7.4%	3.4%	0.9%	1.6%	62.7%
その他の機器	4.0%	3.3%	2.7%	1.3%	1.3%	1.6%	85.9%

Q4 あなたは次にあげる相手と、どのくらいの頻度でオンラインコミュニケーションをしていますか？当てはまるものをお答えください。(n=552) (%)

	1日に複数回	1日1回くらい	週に数回	月に数回	年に数回	それ以下	オンラインコミュニケーションをしたことがない
家族	17.6%	21.2%	24.8%	18.1%	2.2%	2.2%	13.9%
友人	46.0%	15.6%	21.4%	6.9%	2.2%	2.2%	5.8%
親しくない知人	4.7%	6.2%	14.7%	23.2%	14.5%	13.0%	23.7%
直接は面識のない相手	9.4%	4.9%	10.5%	12.3%	6.3%	16.5%	40.0%

子どもたちのインターネット利用について考える研究会
第六期報告書

Q5 あなたが1回のオンラインコミュニケーションの中で会話をする人数は何人ですか？当てはまるものをすべてお答えください。(n=552) (%)

	1日に複数回	1日1回くらい	週に数回	月に数回	年に数回	それ以下	オンラインコミュニケーションをしたことがない
1人(1対1)	44.2%	19.4%	20.3%	7.8%	1.8%	1.6%	4.9%
数人(グループ)	23.9%	15.8%	22.5%	14.7%	5.4%	6.2%	11.6%
10名以上(全て顔見知りのグループ)	8.0%	7.8%	17.4%	17.6%	7.2%	10.0%	32.1%
10名以上(顔見知り以外のメンバーも含まれるグループ)	4.5%	4.3%	9.8%	10.9%	6.2%	12.9%	51.4%

Q6 あなたがオンラインコミュニケーションで利用するソフト・アプリとその頻度について当てはまるものをお答えください。(n=552) (%)

	1日に複数回	1日1回くらい	週に数回	月に数回	年に数回	それ以下	利用していない
メール	26.3%	17.8%	22.1%	16.7%	4.7%	4.7%	7.8%
LINEやSkype・Facebookメッセージやチャット・メッセージ	56.9%	13.0%	13.6%	6.9%	1.3%	1.1%	7.2%
TwitterやInstagramなどのブログ	35.7%	12.5%	10.0%	8.0%	2.7%	2.9%	28.3%
その他	5.6%	4.2%	4.7%	4.2%	2.2%	4.0%	75.2%

Q7 オンラインコミュニケーションには『対面でのコミュニケーションや音声でのコミュニケーション（電話など）と比べて、感情などがうまく伝わりにくい』という性質があると言われていますが、あなたはこれを知っていましたか？ (n=552) (%)

よく知っていた	なんとなく知っていた	あまり知らなかった	全く知らなかった
50.9%	36.6%	9.4%	3.1%

Q8 オンラインコミュニケーションには『対面でのコミュニケーションや音声でのコミュニケーション（電話など）と比べて、自分の気持ちや情報を必要以上に多く伝えてしまいやすい（つい打ち明けてしまうなど）』という性質があると言われていますが、あなたはこれを知っていましたか？ (n=552) (%)

よく知っていた	なんとなく知っていた	あまり知らなかった	全く知らなかった
33.5%	37.1%	22.6%	6.7%

Q9 オンラインコミュニケーションには、『対面でのコミュニケーションや音声でのコミュニケーション（電話など）と比べて、使われる文章表現がより率直になるなど、自分の感情をそのまま伝えすぎてしまう』という性質があると言われていますが、あなたはこれを知っていましたか？ (n=552) (%)

よく知っていた	なんとなく知っていた	あまり知らなかった	全く知らなかった
32.2%	37.5%	24.1%	6.2%

Q10 あなたは、パソコンや携帯電話、スマートフォンなどを使い、各種の連絡や気持ちの伝達など、コミュニケーションをうまく進めることが出来ていますか？それぞれの項目について当てはまるものをお答えください。 (n=552) (%)

	とてもうまく出来ている	まあうまく出来ている	あまりうまく出来ない	全くうまく出来ない	オンラインでのコミュニケーションをしたことがない
家族	28.1%	54.0%	9.1%	0.9%	8.0%
友人	23.7%	60.3%	10.1%	1.3%	4.5%
親しくない知人	11.1%	44.4%	17.9%	4.3%	22.3%
直接は面識のない相手	9.8%	35.3%	14.1%	3.1%	37.7%

子どもたちのインターネット利用について考える研究会
第六期報告書

Q11 あなたは、対面や電話でのコミュニケーションを日頃からうまく進められているという自信がありますか？(n=552) (%)

とても自信がある	まあ自信がある	あまり自信がない	全く自信がない
9.1%	42.0%	39.9%	9.1%

Q12 あなたは、オンラインコミュニケーションで、相手に気持ちが伝わらなくて困ったこと、嫌な思いをしたことはありますか？それぞれの項目について当てはまるものをお答えください。(n=552) (%)

	よくある	時々ある	あまりない	全くない
1人(1対1)	10.3%	38.9%	34.4%	16.3%
数人(グループ)	7.8%	34.2%	38.4%	19.6%
10名以上(全て顔見知りのグループ)	6.3%	23.9%	35.3%	34.4%
10名以上(顔見知り以外のメンバーも含まれるグループ)	6.3%	19.2%	31.7%	42.8%

Q13 あなたのオンラインコミュニケーションに関わる悩みや不安はどのようなものですか？それぞれの項目について当てはまるものをお答えください。(n=552) (%)

	よくあてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
相手からの返信が来なくて不安になったり、不満を感じることもある	13.4%	39.3%	32.1%	15.2%
何も連絡が来なくてさびしかったり、不安に思うことがある	12.7%	33.3%	36.1%	17.9%
伝わる文章がうまく書けないことがある	19.0%	40.8%	28.8%	11.4%
相手の本当の気持ちがよく分からないことがある	18.1%	41.3%	29.2%	11.4%
着信が多すぎて面倒に思うことがある	13.2%	35.1%	32.4%	19.2%
長引いた会話をうまく切り上げられないことがある	15.9%	37.9%	30.6%	15.6%

▼青少年クロス集計

Q6 あなたがオンラインコミュニケーションで利用するソフト・アプリとその頻度について当てはまるものをお応えください。(単一回答) (LINE や Skype・Facebook メッセンジャーなどのチャット・メッセージ)

	1日に複数回	1日1回くらい	週に数回	月に数回	年に数回	それ以下	利用していない
高校生(n=278)	65.8%	10.8%	9.4%	5.0%	0.4%	1.4%	7.2%
大学生(n=274)	47.8%	15.3%	17.9%	8.8%	2.2%	0.7%	7.3%

Q6 あなたがオンラインコミュニケーションで利用するソフト・アプリとその頻度について当てはまるものをお応えください。(単一回答) (Twitter や Instagram などのブログ)

	1日に複数回	1日1回くらい	週に数回	月に数回	年に数回	それ以下	利用していない
男子 (n=276)	28.3%	13.0%	10.1%	8.7%	2.2%	3.6%	34.1%
女子 (n=276)	43.1%	12.0%	9.8%	7.2%	3.3%	2.2%	22.5%

Q6 あなたがオンラインコミュニケーションで利用するソフト・アプリとその頻度について当てはまるものをお応えください。(単一回答) (メール)

	1日に複数回	1日1回くらい	週に数回	月に数回	年に数回	それ以下	利用していない
スマホ利用者 (n=473)	26.2%	17.8%	22.8%	16.5%	5.1%	4.7%	7.0%
スマホ非利用者 (n=28)	14.3%	14.3%	14.3%	17.9%	3.6%	3.6%	32.1%

Q6 あなたがオンラインコミュニケーションで利用するソフト・アプリとその頻度について当てはまるものをお応えください。(単一回答) (LINE や Skype・Facebook メッセンジャーなどのチャット・メッセージ)

	1日に複数回	1日1回くらい	週に数回	月に数回	年に数回	それ以下	利用していない
スマホ利用者(n=473)	62.2%	12.5%	13.1%	7.0%	1.1%	0.6%	3.6%
スマホ非利用者 (n=28)	25.0%	14.3%	21.4%	7.1%	0.0%	3.6%	28.6%

子どもたちのインターネット利用について考える研究会
第六期報告書

Q7 オンラインコミュニケーションには『対面でのコミュニケーションや音声でのコミュニケーション（電話など）と比べて、感情などがうまく伝わりにくい』という性質があると言われていますが、あなたはこれを知っていましたか？（高校生）

	よく知っていた	なんとなく知っていた	あまり知らなかった	全く知らなかった
スマホ利用1年以内 (n=1年以内)	52.7%	33.8%	9.5%	4.1%
スマホ利用3年以上 (n=3年以上)	46.2%	38.5%	12.3%	3.1%

Q8 オンラインコミュニケーションには『対面でのコミュニケーションや音声でのコミュニケーション（電話など）と比べて、自分の気持ちや情報を必要以上に多く伝えてしまいやすい（つい打ち明けてしまうなど）』という性質があると言われていますが、あなたはこれを知っていましたか？（高校生）

	よく知っていた	なんとなく知っていた	あまり知らなかった	全く知らなかった
スマホ利用1年以内 (n=1年以内)	35.1%	40.5%	20.3%	4.1%
スマホ利用3年以上 (n=3年以上)	38.5%	35.4%	21.5%	4.6%

Q9 オンラインコミュニケーションには、『対面でのコミュニケーションや音声でのコミュニケーション（電話など）と比べて、使われる文章表現がより率直になるなど、自分の感情をそのまま伝えすぎてしまう』という性質があると言われていますが、あなたはこれを知っていましたか？（高校生）

	よく知っていた	なんとなく知っていた	あまり知らなかった	全く知らなかった
スマホ利用1年以内 (n=1年以内)	36.5%	33.8%	21.6%	8.1%
スマホ利用3年以上 (n=3年以上)	41.5%	30.8%	24.6%	3.1%

2 秋田県 地域サポーター養成講座 資料

(ア) 事業概要

主催：秋田県教育委員会（事務局：生涯学習課）

協働：子どもたちのインターネット利用について考える研究会、秋田県 PTA 連合会

協賛（地域サポーター養成講座の運営）：ヤフー株式会社、株式会社ミクシィ

講師派遣等の実務担当：ピットクルー株式会社

三か年計画「大人が支える！インターネットセーフティの推進」の一環として、県内全域を網羅的に対象とする保護者向け教育啓発を、「地域サポーター養成講座」として実施しました。

秋田県内全9地域のうち、昨年度の「鹿角」「横手」「秋田」に続き、今年度は新たな三地域を対象として事業を展開しました。各地域ごとに二カ所ずつ選定された「大館東中学校」「鹿角中学校区」「八郎潟中学校区」「男鹿南中学校区」「山田中学校区」「東成瀬中学校区」の会場ごとに一回あたり120分間、計4回構成の連続講座を開催²⁷しました。

会場には、各地域の事情に合わせ、公民館や小中学校が選ばれました。また、仕事を持つ保護者が参加出来るようにとの配慮から、今年度も秋田県内での保護者講座は全て18時または18時半開始の時間帯での開催となりました。

モデル会場（学校区）の全保護者を対象として、家庭でのインターネット利用実態などを聞く、アンケート調査²⁸も実施しました。調査は「地域サポーター養成講座」が開催される前と後にそれぞれ行われ、状況把握および事業実施の効果測定に役立てられます。

事業全体の情報共有や、関係機関による協議の場として「インターネットセーフティ推進委員会」が、年2回開催²⁹されました。

また、「地域密着型」教育啓発手法による研修会（地域サポーター養成講座）の開催以外にも、一回開催型の研修会として、従来からの「県庁出前講座」が継続的に実施されました。さらには「アウトリーチ型教育啓発コンテンツの開発・提供」として、学校ごとのメール配信システムを利用した、保護者向けの教育啓発コンテンツ配信も進行中です。

本研究会では、地域サポーター養成講座の運営の他に、推進委員会にも参加し、教育啓発コンテンツについては県教育委員会との共同開発を行いました。

²⁷ 教材および振り返り資料などを本報告書 P.81 に収録

²⁸ 調査票全文を本報告書 P.76 に収録

²⁹ 本年度第2回推進委員会への報告資料を本報告書 P.63 に収録

子どもたちのインターネット利用について考える研究会
 第六期報告書

(イ) 開催日と会場

地域	中学校区	会場	回数			
			①	②	③	④
県北地区	大館東中学校	大館市北区コミュニティセンター	7月24日 (木)	7月31日 (木)	8月5日 (火)	9月4日 (木)
	鷹巣中学校	北秋田市中央公民館/ 北秋田市交流センター	7月30日 (水)	8月4日 (月)	9月3日 (水)	10月3日 (金)
中央地区	八郎潟中学校	八郎潟町農村環境改善センター/ 八郎潟待立八郎中学校	8月30日 (土)	9月17日 (水)	10月1日 (水)	11月19日 (水)
	男鹿南中学校	男鹿市総合体育館	8月28日 (木)	9月18日 (木)	10月2日 (木)	11月20日 (木)
県南地区	山田中学校	山田地区センター	8月26日 (火)	9月11日 (木)	10月14日 (火)	11月18日 (火)
	東成瀬中学校	東成瀬小学校ランチルーム	8月27日 (水)	10月21日 (火)	10月29日 (水)	11月26日 (水)

▽[地域密着]秋田県推進委員会報告資料



子どもたちのインターネット利用について考える研究会

「大人が支える！ インターネット セーフティの推進」
平成26年度 第2回インターネットセーフティ推進委員会 資料

地域サポーター養成講座 今年度成果と課題

平成27年1月15日

高橋大洋

(子どもたちのインターネット利用について考える研究会事務局)

<http://www.child-safenet.jp>



地域サポーター養成講座

昨年度からの変化・改善点

- 利用実態調査
 - デビュー低年齢化の進行
(携帯ゲーム機、スマートフォン、メッセージアプリ)
- 教材・指導方法
 - メッセージアプリ普及と利用トラブル増への対応
(「オンラインコミュニケーションの特性」の解説)
 - 受講後の行動支援の強化(120分制によるワークショップ時間の確保、講座最終回にワークシート導入、携帯ゲーム機実機投影の追加)

2

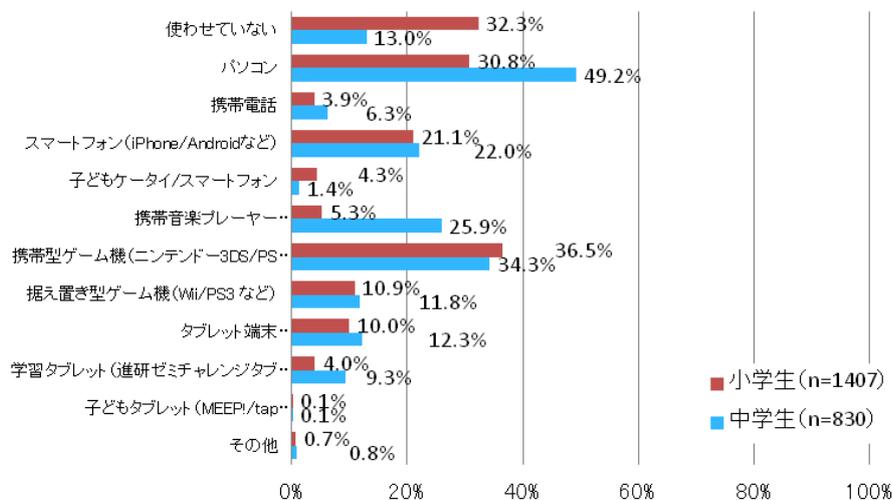
<http://www.child-safenet.jp>



地域サポーター養成講座／利用実態調査結果

子どもたちのインターネット利用機器

問:ご自宅などでインターネット利用※(に使うことがある機器を教えてください。(複数回答可)
※メール/メッセージ、検索・閲覧・投稿、オンラインゲーム、ショッピング、動画閲覧など



出所:本年度地域サポーター養成講座開催の各中学校区(大館東、鷹巣、八郎潟、男鹿南、山田、東成瀬)の保護者を対象としたアンケート調査結果

3

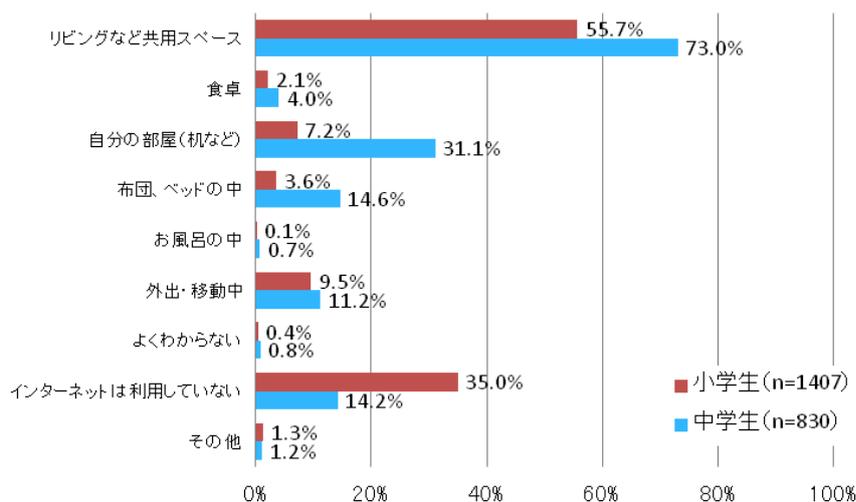
<http://www.child-safenet.jp>



地域サポーター養成講座／利用実態調査結果

子どもたちのインターネット利用場所

問: お子さんはどこでインターネットを利用していますか? (複数回答可)



出所: 本年度地域サポーター養成講座開催の各中学校区(大館東、鷹巣、八郎潟、男鹿南、山田、東成瀬)の保護者を対象としたアンケート調査結果

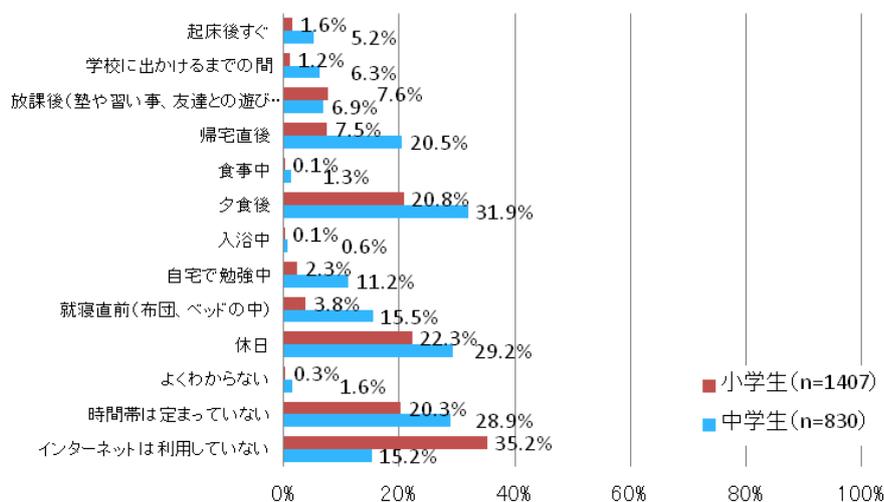
<http://www.child-safenet.jp>



地域サポーター養成講座／利用実態調査結果

子どもたちのインターネット利用時間帯

問: お子さんは、いつもどのような時間帯にインターネットを利用していますか? (複数回答可)



出所: 本年度地域サポーター養成講座開催の各中学校区(大館東、鷹巣、八郎潟、男鹿南、山田、東成瀬)の保護者を対象としたアンケート調査結果

<http://www.child-safenet.jp>



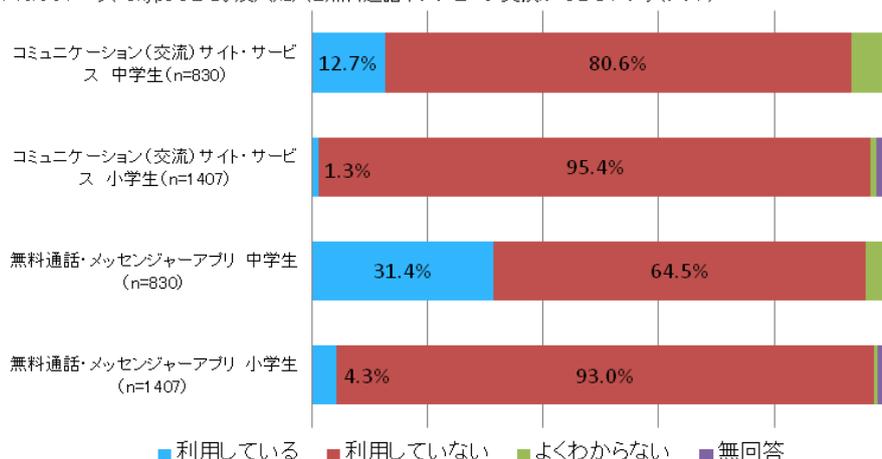
地域サポーター養成講座／利用実態調査結果 参加発信型サービス利用状況

問: お子さんは、コミュニケーション(交流)サイト・サービス※を日常的に利用していますか？

※Twitter, Facebook, mixiなど、自分の日常を書き込み、他者とのやりとりやメッセージ交換ができるサービス

問: お子さんはLINE(ライン)などの無料通話・メッセージングアプリ※を日常的に使っていますか？

※他にカカオトーク、Skypeなども。友人知人と無料通話やメッセージ交換ができるアプリ(ソフト)



出所: 本年度地域サポーター養成講座開催の各中学校区(大館東、鷹巣、八郎潟、男鹿南、山田、東成瀬)の保護者を対象としたアンケート調査結果

<http://www.child-safenet.jp>

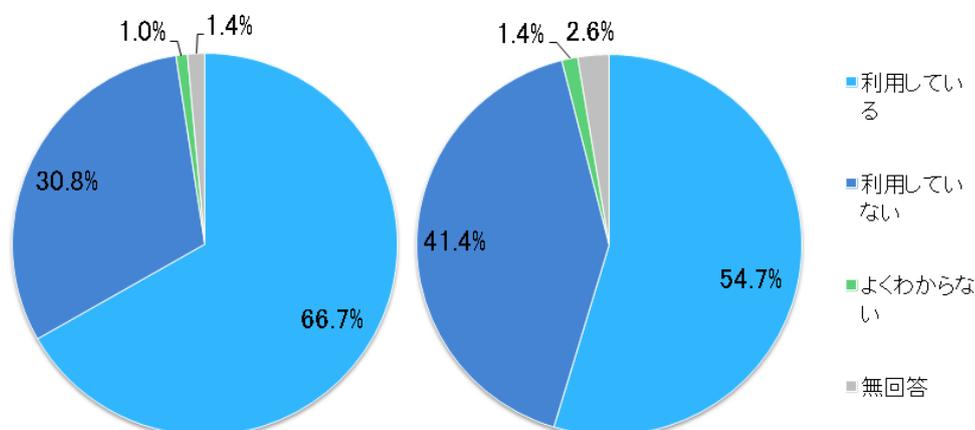


地域サポーター養成講座／利用実態調査結果 家庭での無線LAN(Wi-Fi)利用状況

問: ご自宅では無線LAN(Wi-Fi)によるインターネット接続を利用されていますか？

【中学生のいる家庭(n=830)】

【小学生のいる家庭(n=1407)】



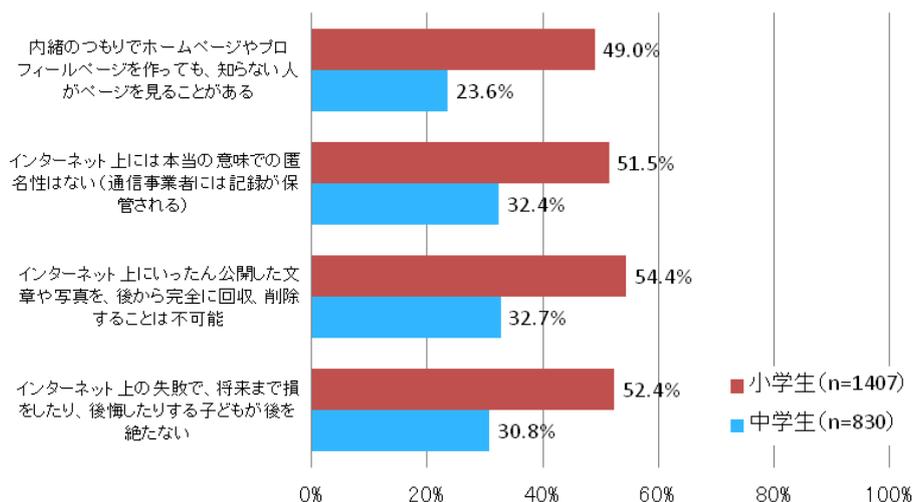
出所: 本年度地域サポーター養成講座開催の各中学校区(大館東、鷹巣、八郎潟、男鹿南、山田、東成瀬)の保護者を対象としたアンケート調査結果

<http://www.child-safenet.jp>



地域サポーター養成講座／利用実態調査結果 インターネットの特性の理解

問: 以下の中で、お子さんが正しく理解できていないと思われることはありますか？(複数回答可)



出所: 本年度地域サポーター養成講座開催の各中学校区(大館東、鷹巣、八郎潟、男鹿南、山田、東成瀬)の保護者を対象としたアンケート調査結果

<http://www.child-safenet.jp>

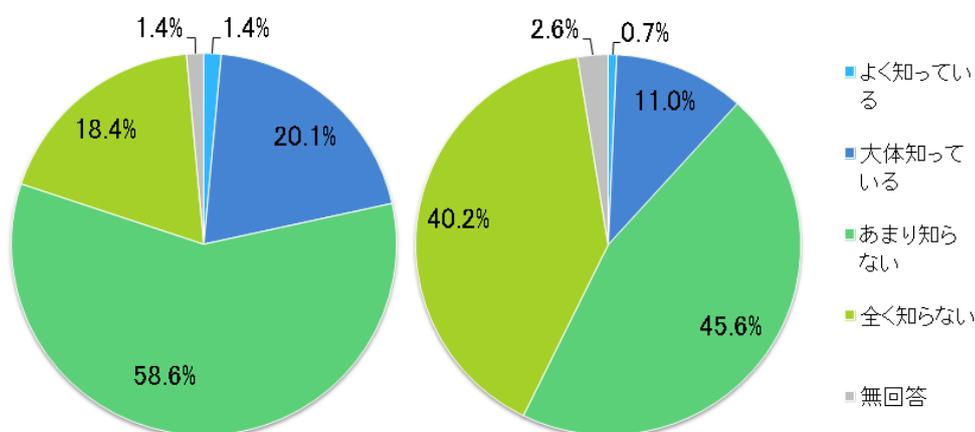


地域サポーター養成講座／利用実態調査結果 学校でのインターネット教育の理解

問: お子さんが、学校でインターネットの利用に関してどんな授業を受けているかご存知ですか？

【中学生のいる家庭(n=830)】

【小学生のいる家庭(n=1407)】



出所: 本年度地域サポーター養成講座開催の各中学校区(大館東、鷹巣、八郎潟、男鹿南、山田、東成瀬)の保護者を対象としたアンケート調査結果

<http://www.child-safenet.jp>

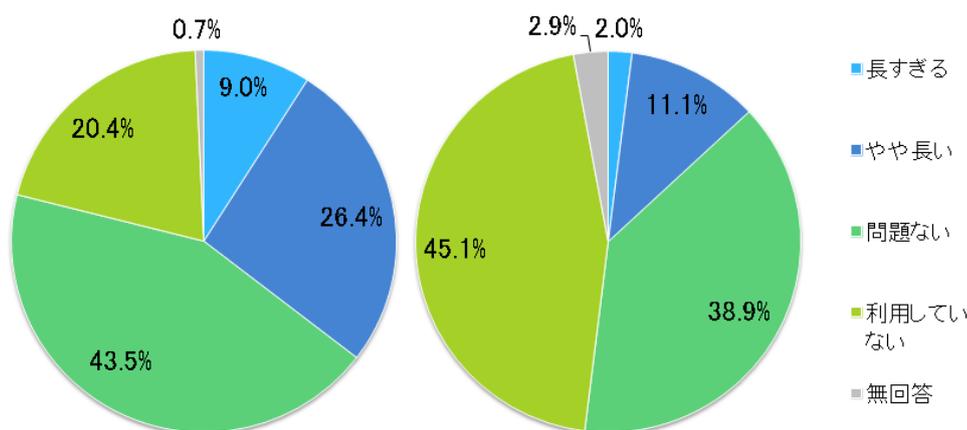


地域サポーター養成講座／利用実態調査結果 子どものインターネット利用時間

問: お子さんの毎日のインターネット利用時間についてどう思いますか？

【中学生のいる家庭(n=830)】

【小学生のいる家庭(n=1407)】



出所: 本年度地域サポーター養成講座開催の各中学校区(大館東、鷹巣、八郎潟、男鹿南、山田、東成瀬)の保護者を対象としたアンケート調査結果

10

<http://www.child-safenet.jp>

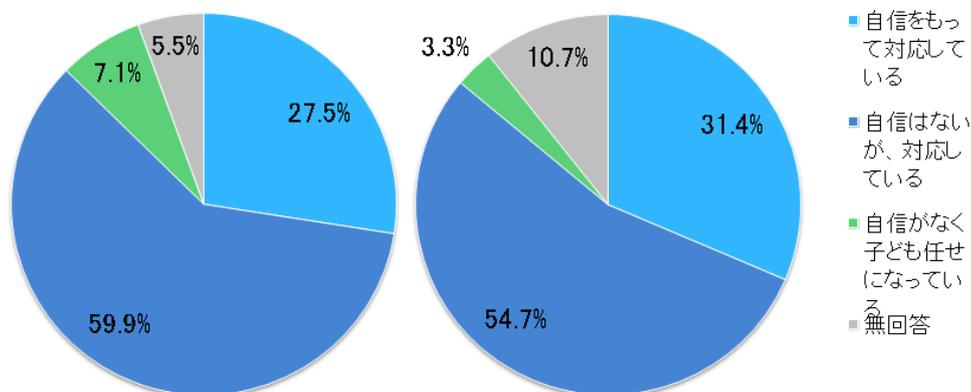


地域サポーター養成講座／利用実態調査結果 子どもとの向き合い方

問: 利用のルールやマナー、機器の適切な与え方など、インターネット利用に関するあなたの子どもとの向き合い方について、最も近いものをお選びください。

【中学生のいる家庭(n=830)】

【小学生のいる家庭(n=1407)】



出所: 本年度地域サポーター養成講座開催の各中学校区(大館東、鷹巣、八郎潟、男鹿南、山田、東成瀬)の保護者を対象としたアンケート調査結果

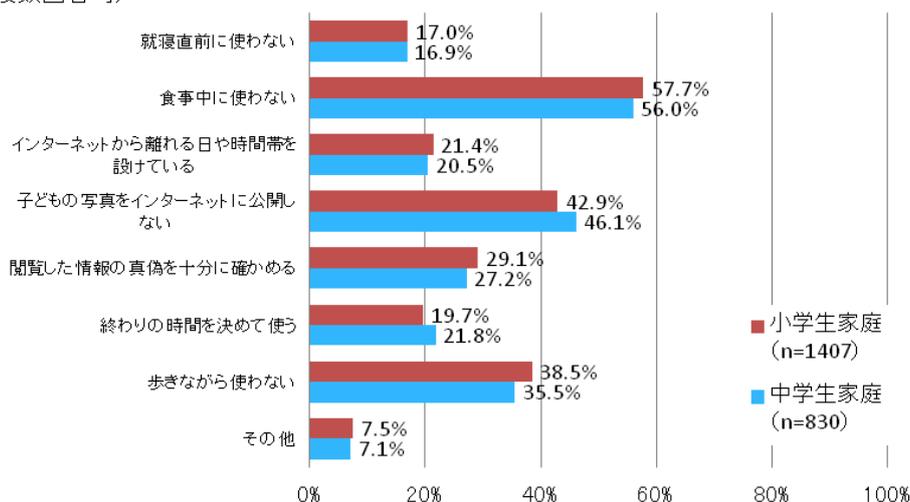
11

<http://www.child-safenet.jp>



地域サポーター養成講座／利用実態調査結果 保護者が自ら注意している点

問:あなたがインターネット利用時に注意している点について、当てはまるものをお答えください。
(複数回答可)



出所:本年度地域サポーター養成講座開催の各中学校区(大館東、鷹巣、八郎潟、男鹿南、山田、東成瀬)の保護者を対象としたアンケート調査結果

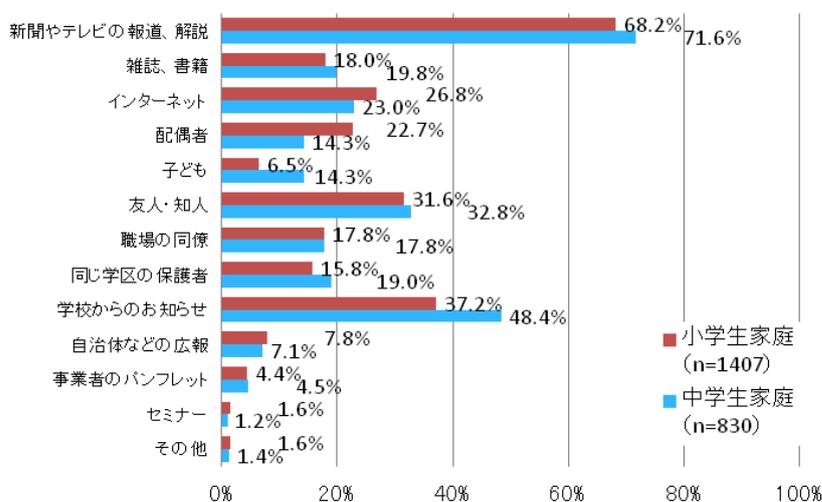
12

<http://www.child-safenet.jp>



地域サポーター養成講座／利用実態調査結果 インターネット安全利用の情報源

問:お子さんの安全・安心なインターネット利用について、あなたの情報源は何ですか？(複数回答可)



出所:本年度地域サポーター養成講座開催の各中学校区(大館東、鷹巣、八郎潟、男鹿南、山田、東成瀬)の保護者を対象としたアンケート調査結果

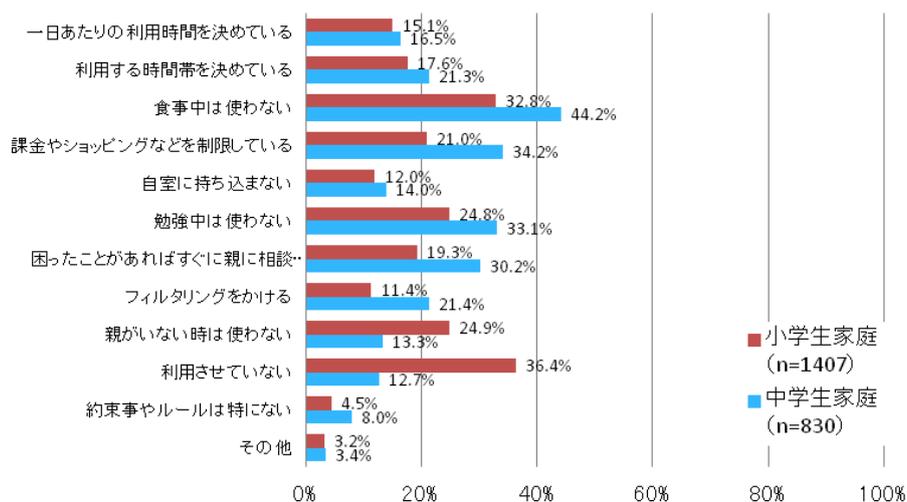
13

<http://www.child-safenet.jp>



地域サポーター養成講座／利用実態調査結果 インターネット利用のルール

問：インターネット利用についてのお子さんとの約束事やルールで、当てはまるものをお答えください。
(複数回答可)



出所：本年度地域サポーター養成講座開催の各中学校区(大館東、鷹巣、八郎潟、男鹿南、山田、東成瀬)の保護者を対象としたアンケート調査結果

14

<http://www.child-safenet.jp>

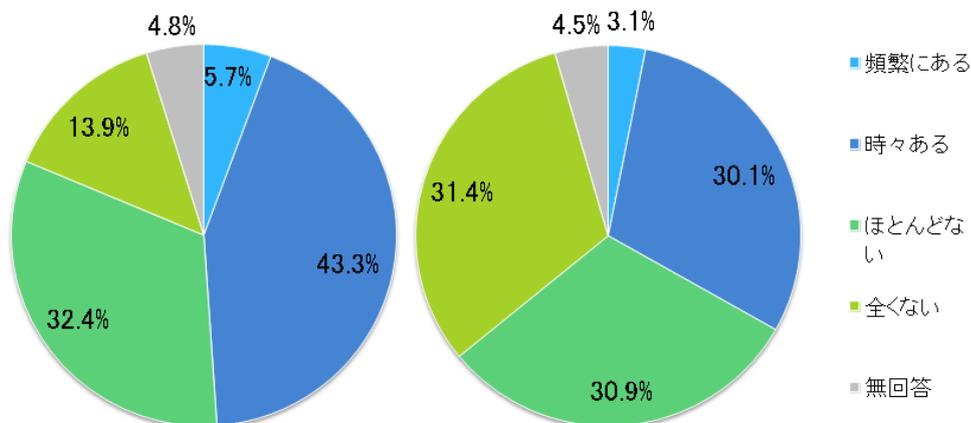


地域サポーター養成講座／利用実態調査結果 子どもとの話し合い

問：インターネット利用について注意すべき点や、トラブルに遭った際の対処方法などについて、
お子さんと話し合うことがありますか？

【中学生がいる家庭(n=830)】

【小学生がいる家庭(n=1407)】



出所：本年度地域サポーター養成講座開催の各中学校区(大館東、鷹巣、八郎潟、男鹿南、山田、東成瀬)の保護者を対象としたアンケート調査結果

15

<http://www.child-safenet.jp>

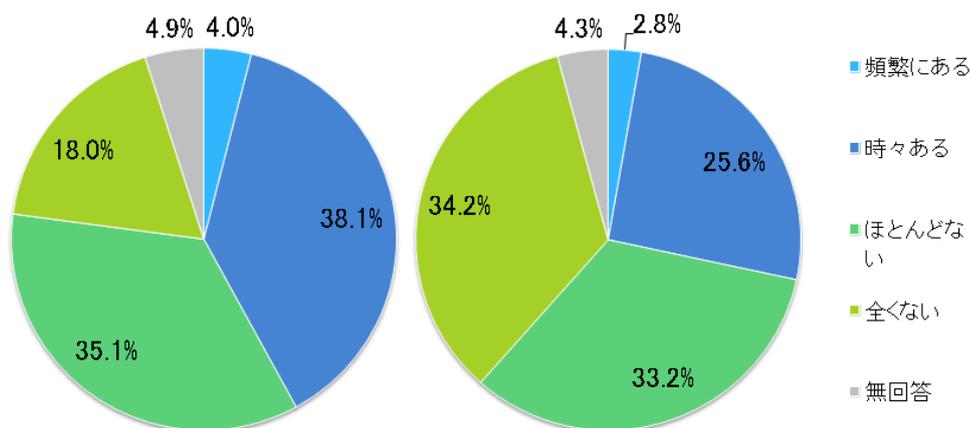


地域サポーター養成講座／利用実態調査結果 利用経験からのアドバイス

問: インターネットによるコミュニケーション(メール、メッセージ、交流サイトなど)について、あなたの失敗経験やふだん注意している点などを、お子さんに伝えたり、アドバイスしたりすることがありますか？

【中学生のいる家庭(n=830)】

【小学生のいる家庭(n=1407)】



出所: 本年度地域サポーター養成講座開催の各中学校区(大館東、鷹巣、八郎潟、男鹿南、山田、東成瀬)の保護者を対象としたアンケート調査結果

16

<http://www.child-safenet.jp>

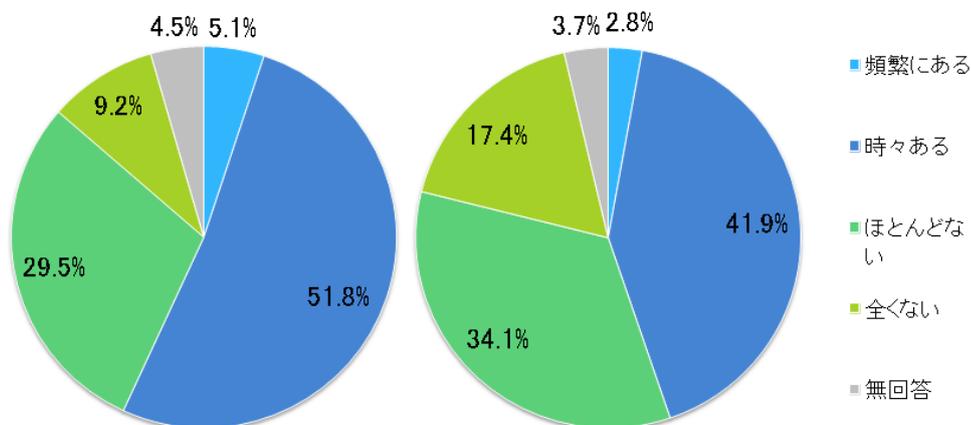


地域サポーター養成講座／利用実態調査結果 保護者間での情報交換

問: お子さんのインターネット利用状況や利用ルール、また、機器の与え方などについて、保護者間で話題になることがありますか？

【中学生のいる家庭(n=830)】

【小学生のいる家庭(n=1407)】



出所: 本年度地域サポーター養成講座開催の各中学校区(大館東、鷹巣、八郎潟、男鹿南、山田、東成瀬)の保護者を対象としたアンケート調査結果

17

<http://www.child-safenet.jp>

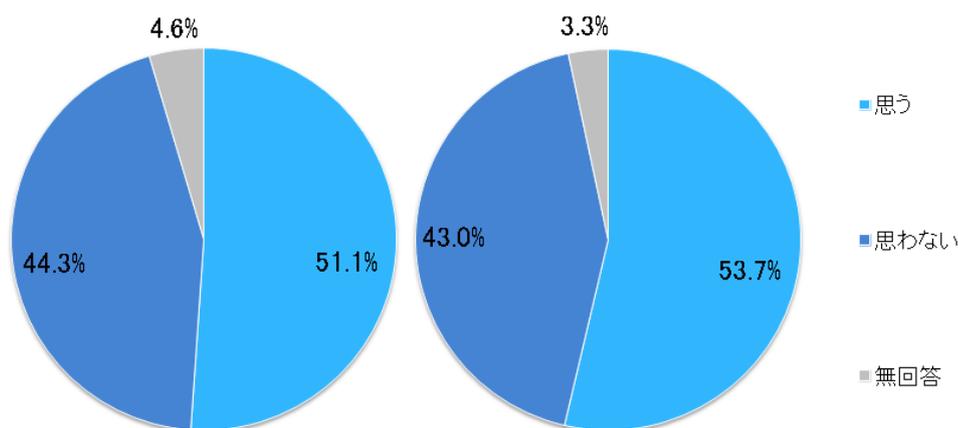


地域サポーター養成講座／利用実態調査結果 他の家庭での取り組みへの興味

問: 他の家庭でのインターネット利用状況やルールの内容などについて、知りたいと思いますか？

【中学生のある家庭(n=830)】

【小学生のある家庭(n=1407)】



出所:本年度地域サポーター養成講座開催の各中学校区(大館東、鷹巣、八郎潟、男鹿南、山田、東成瀬)の保護者を対象としたアンケート調査結果

18

<http://www.child-safenet.jp>

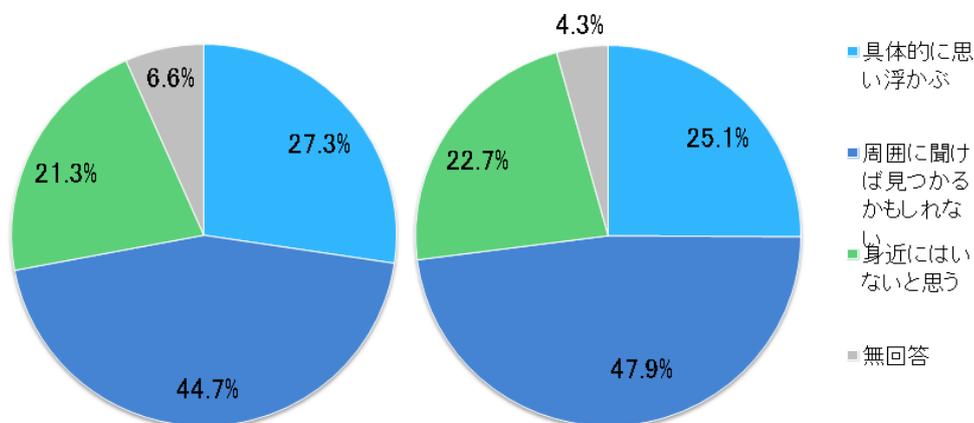


地域サポーター養成講座／利用実態調査結果 地域で相談できる相手先

問: お子さんのインターネット利用について、困った時に相談できそうな「少し詳しい人」は、お住まいの地域にいますか？

【中学生のある家庭(n=830)】

【小学生のある家庭(n=1407)】



出所:本年度地域サポーター養成講座開催の各中学校区(大館東、鷹巣、八郎潟、男鹿南、山田、東成瀬)の保護者を対象としたアンケート調査結果

19

<http://www.child-safenet.jp>



地域サポーター養成講座 効果測定の新たな試み

- 昨年度
 - 受講者の満足度・理解度→受講者アンケート結果
 - 地域全体の変化→全保護者向けアンケートの事前事後結果比較
 - 今年度
 - 受講者アンケート→行動変容に関する質問項目を追加
 - ・ 受講直後時点での「行動意図」、「行動の容易さ」を聞くことで行動変容を予測
 - 「子どもと話をしてみようと思う」など【行動意図】は総じて高スコア
 - 「どのくらい簡単か」など、【行動の容易さ】は中程度のスコア
- 行動支援ツール充実や、教材・指導方法の一部見直しを検討

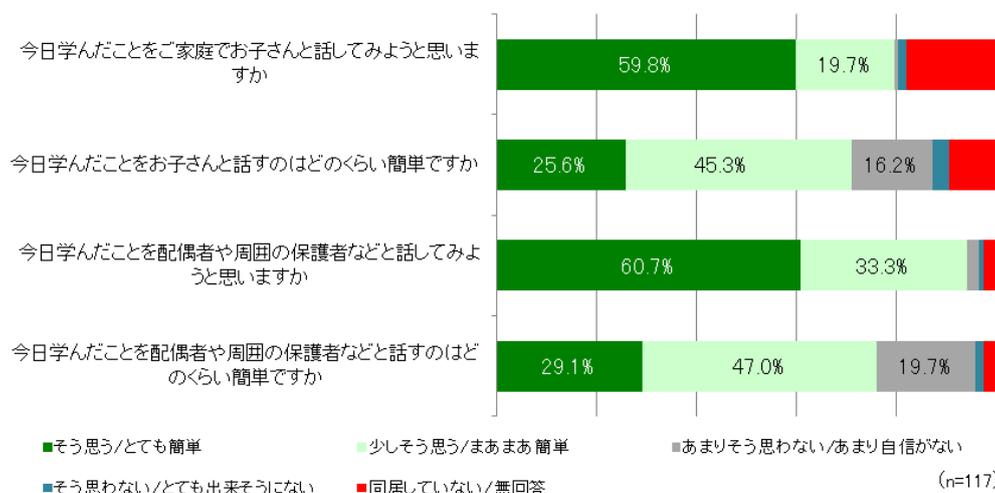
20

<http://www.child-safenet.jp>



地域サポーター養成講座 第一回講座の効果(行動変容)

サブタイトル 子どもたちのインターネット問題を正しく知ろう
主な内容 機器の多様化、参加発信利用リスクへの着目、四つの特性



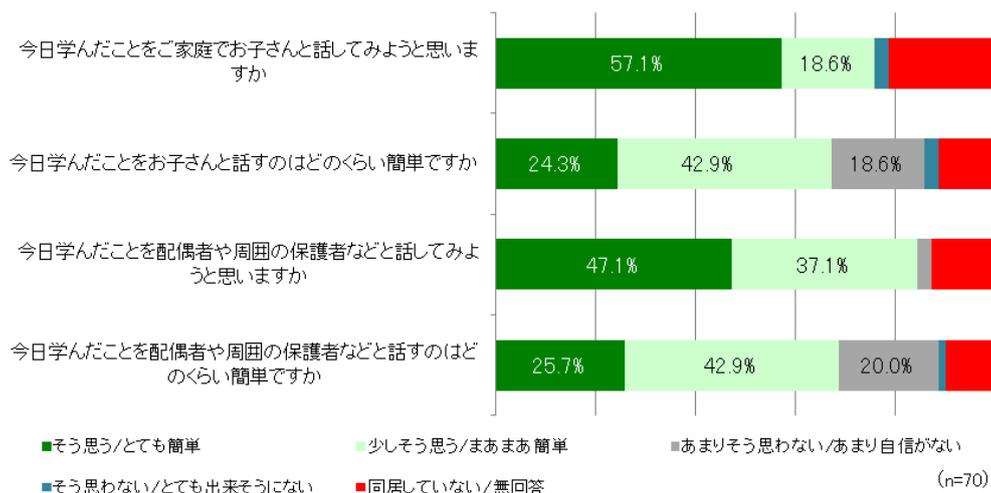
21

<http://www.child-safenet.jp>



地域サポーター養成講座 第二回講座の効果(行動変容)

サブタイトル 人気サービスの実際と理想的なインターネットデビュー
主な内容 サービスの実際、機器ごしコミュニケーション、理想のデビュー



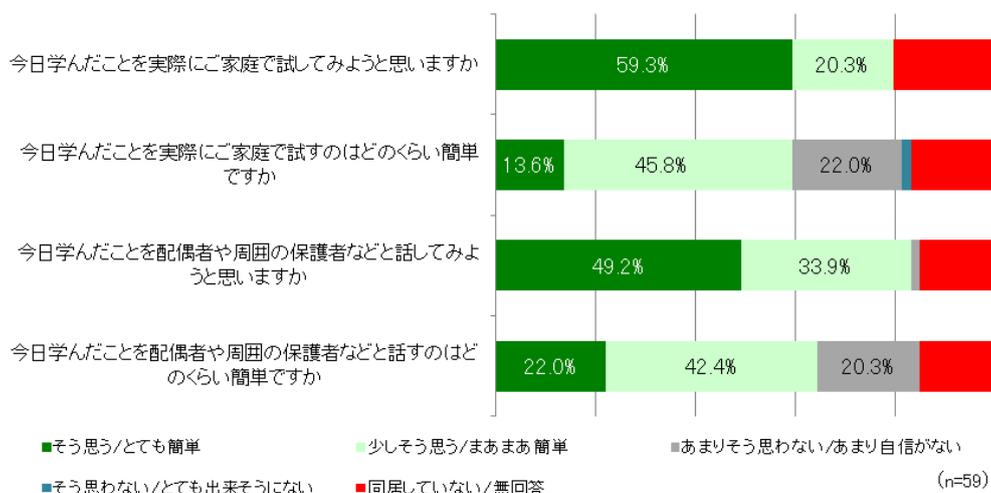
<http://www.child-safenet.jp>

22



地域サポーター養成講座 第三回講座の効果(行動変容)

サブタイトル 家庭での取り組みのヒント
主な内容 保護者管理機能、子どもとの接し方や機器の与え方



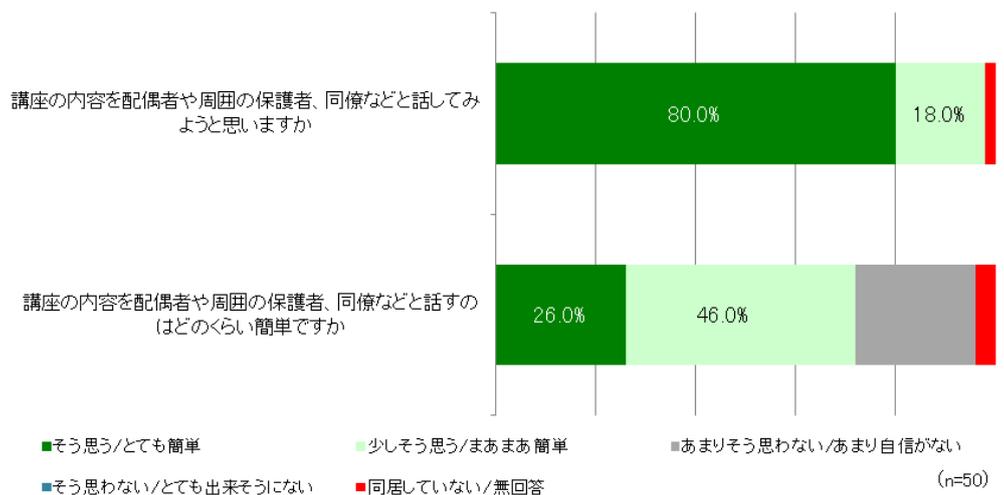
<http://www.child-safenet.jp>

23



地域サポーター養成講座 第四回講座の効果(行動変容)

サブタイトル 家庭・地域でのこれからの取り組み
主な内容 取り組み成功・失敗例の共有



<http://www.child-safenet.jp>

24



地域サポーター養成講座 成果と課題、解決の道筋

- 成果
 - 地域密着型手法および効果測定の実践、他地域への波及
 - 受講者発案による保護者学習会の追加開催(大館市城南児童会館)
- 課題と解決の道筋
 - 企画運営[受講者増努力]
 - 第一回のみ他イベントと併催(八郎湯中学校区)
 - セーフティの先にある「活用力向上」の講座への組み込みを検討
 - 講師養成[市町村での持続的取り組みの前提]
 - 青森県八戸市では地元IT企業社員の講師化を模索中
 - 財源安定化[学習機会の提供拡大]
 - 小規模協賛を可能にするための枠組の検討
 - フォローアップ[知識の更新、つながりの維持]
 - 昨年度実施地域向けに2月開講を決定(経産省委託事業を利用)

25

<http://www.child-safenet.jp>

子どもたちのインターネット利用について考える研究会
第六期報告書

▽[地域密着]受講者アンケート調査票 (事前)

質問・回答用紙

以下それぞれの設問についていずれか一つ、複数回答可と指示がある設問については当てはまる全ての選択肢の□に印をつけてください。(全部で23問あります)

1. お子さんについて

※兄弟姉妹で在学中の場合、インターネット利用についてもっとも気になるお子さんお一人についてお答えください。

【お子さんの学年】 小1 小2 小3 小4 小5 小6 中1 中2 中3

【お子さんの性別】 男子 女子

2. ご自宅などでインターネット利用^{*}に使うことがある機器を教えてください。(複数回答可)

※メール/メッセージ、検索・閲覧・投稿、オンラインゲーム、ショッピング、動画閲覧など

【保護者(ご回答者)ご自身】 ※お仕事での利用は除きます。

自宅では利用していない パソコン 携帯電話 スマートフォン(iPhone/Android など)

携帯音楽プレーヤー(iPod Touch/Walkman F) タブレット端末(iPad/Android/Surface/Kindle など)

【お子さん】

使わせていない パソコン 携帯電話 スマートフォン(iPhone/Android など)

子どもケータイ/スマートフォン 携帯音楽プレーヤー(iPod Touch/Walkman F)

携帯型ゲーム機(ニンテンドー3DS/PS Vita など) 据え置き型ゲーム機(Wii/PS3 など)

タブレット端末(iPad/Android/Surface/Kindle) 学習タブレット(進研ゼミチャレンジタブレットなど)

子どもタブレット(MEEP!/tap me/Rainbow Pad) その他()

3. お子さんはどこでインターネットを利用していますか？(複数回答可)

リビングなど共用スペース 食卓 自分の部屋(机など) 布団、ベッドの中

お風呂の中 外出・移動中 よくわからない インターネットは利用していない その他()

4. お子さんは、いつもどのような時間帯にインターネットを利用していますか？(複数回答可)

起床後すぐ 学校に出かけるまでの間 放課後(塾や習い事、友達との遊びの途中)

帰宅直後 食事中 夕食後 入浴中 自宅で勉強中 就寝直前(布団、ベッドの中) 休日

よくわからない 時間帯は定まっていない インターネットは利用していない

5. お子さんはコミュニケーション(交流)サイト・サービス^{*}を日常的に利用していますか？

※Twitter、Facebook、mixi など、自分の日常を書き込み、他者とのやりとりやメッセージ交換ができるサービス

利用している 利用していない よくわからない

6. お子さんは LINE(ライン)などの無料通話・メッセージアプリ※を日常的に使っていますか？

※他にカカオトーク、Skype など。友人知人と無料通話やメッセージ交換ができるアプリ(ソフト)

使っている 使っていない よくわからない

7. あなたはコミュニケーション(交流)サイト・サービスを日常的に利用していますか？

利用している 利用していない よくわからない

8. あなたは LINE(ライン)などの無料通話・メッセージアプリを日常的に使っていますか？

使っている 使っていない よくわからない

9. ご自宅では無線 LAN(Wi-Fi)によるインターネット接続を利用されていますか？

利用している 利用していない よくわからない

10. ご自宅の近所に、お子さんが無料で利用できる無線 LAN(Wi-Fi) サービスはありますか？(複数回答可)

ない ある(コンビニエンスストア) ある(ファミリーレストランやカフェ、ファーストフード店)

ある(図書館など公共施設) ある(ショッピングモールやスーパーマーケット) よくわからない

11. 以下の中で、お子さんが正しく理解できていないと思われることはありますか？(複数回答可)

内緒のつもりでホームページやプロフィールページを作っても、知らない人がページを見ることがある

インターネット上には本当の意味での匿名性はない(通信事業者には記録が保管される)

インターネット上にいったん公開した文章や写真を、後から完全に回収、削除することは不可能

インターネット上の失敗で、将来まで損をしたり、後悔したりする子どもが後を絶たない

12. お子さんが、学校でインターネットの利用に関してどんな授業を受けているかご存知ですか？

よく知っている 大体知っている あまり知らない 全く知らない

13. お子さんの毎日のインターネット利用時間についてどう思いますか？

長すぎる やや長い 問題ない 利用していない

14. 利用のルールやマナー、機器の適切な与え方など、インターネット利用に関するあなたの子どもの向き合い方について、最も近いものをお選びください。

自信をもって対応している 自信はないが、対応している 自信がなく子ども任せになっている

15. あなたがインターネット利用時に注意している点について、当てはまるものをお答えください。(複数回答可)

就寝直前に使わない 食事中に使わない インターネットから離れる日や時間帯を設けている 子どもの

の写真をインターネットに公開しない 閲覧した情報の真偽を十分に確かめる

終わりの時間を決めて使う 歩きながら使わない その他()

子どもたちのインターネット利用について考える研究会
第六期報告書

16. お子さんの安全・安心なインターネット利用について、あなたの情報源は何ですか？（複数回答可）

- 新聞やテレビの報道、解説 雑誌、書籍 インターネット 配偶者 子ども
友人・知人 職場の同僚 同じ学区の保護者 学校からのお知らせ
自治体などの広報 事業者のパフレット セミナー
その他()

17. インターネット利用についてのお子さんとの約束事やルールで、当てはまるものをお答えください。

（複数回答可）

- 一日あたりの利用時間を決めている 利用する時間帯を決めている 食事中は使わない
課金やショッピングなどを制限している 自室に持ち込まない 勉強中は使わない
困ったことがあればすぐ親に相談する フィルタリングをかける 親がいない時は使わない
利用させていない 約束事やルールは特にない その他()

18. インターネット利用について注意すべき点や、トラブルに遭った際の対処方法などについて、お子さんと話し合うことがありますか？

- 頻繁にある 時々ある ほとんどない 全くない

19. インターネットによるコミュニケーション（メール、メッセージ、交流サイトなど）について、あなたの失敗経験やふだん注意している点などを、お子さんに伝えたり、アドバイスしたりすることがありますか？

- 頻繁にある 時々ある ほとんどない 全くない

20. お子さんのインターネット利用状況や利用ルール、また、機器の与え方などについて、保護者で話題になることがありますか？

- 頻繁にある 時々ある ほとんどない 全くない

21. 他の家庭でのインターネット利用状況やルールの内容などについて、知りたいと思いますか？

- 思う 思わない

22. お子さんのインターネット利用について、困った時に相談できそうな「少し詳しい人」は、お住まいの地域にいますか？

- 具体的に思い浮かぶ 周囲に聞けば見つかるかもしれない 身近にはいないと思う

23. その他、お子さんのインターネット利用について不安に思われることや、家庭での対応の仕方についての質問などがあればお知らせください。（自由記述）

アンケート調査は以上です。ご回答ありがとうございました。

▽[地域密着]受講者アンケート調査票（事後）

質問・回答用紙(全 12 問あります)

各設問いずれか一つ(複数回答可の設問については当てはまる全ての選択肢)の□に印をつけてください。

Q1 お子さんについて

※兄弟姉妹で在学中の方は、インターネット利用(メール/メッセージ、検索・閲覧・投稿、オンラインゲーム、ショッピング、動画閲覧など)がもっとも気になるお子さんお一人についてお答えください。

【学年】 小1 小2 小3 小4 小5 小6 中1 中2 中3

【性別】 男子 女子

Q2 インターネットセキュリティに関する「地域サポーター養成講座」が本校(地区)で開催されることを、事前にご存知でしたか？

知らなかった 知っていたが興味を持てなかった 知っていたが参加はしなかった

参加した その他()

Q3 上記「地域サポーター養成講座」を受講された保護者はお知り合いの中にいらっしゃいますか？

いる【Q3-2 へ】 いない・わからない【Q4 へ】 自分自身が受講した【Q4 へ】

【上記質問 Q3で「いる」を選択された方は、以下の質問 Q3-2 にもお答えください】

Q3-2 受講された保護者の方と、地域サポーター養成講座での受講内容や、お子さんのインターネット利用などについて、話をする機会がありましたか？

複数回あった 一度はあった なかった わからない/おぼえていない

【以下の質問 Q4以降は全員お答えください】

Q4 お子さんのインターネット利用状況や利用ルール、また、お子さんへの機器の与え方などについて、保護者間で話題になることがありますか？

頻繁にある 時々はある ほとんどない 全くない

Q5 お子さんのインターネット利用について、困った時に相談できそうな「少し詳しい人」は、お住まいの地域にいますか？

具体的に思い浮かぶ 周囲に聞けば見つかると思う 見つかるかどうか分からない

身近には居ないと思う

Q6 インターネット利用にあたって注意すべき点、インターネット利用トラブルに遭った際の対応方法などについて、お子さんと話し合うことがありますか？

子どもたちのインターネット利用について考える研究会
第六期報告書

頻繁にある 時々はある ほとんどない 全くない

Q7 インターネット利用についてのお子さんとの約束事やルールで、当てはまるものをお答えください。(複数回答可)

一日あたりの利用時間を決めている 利用する時間帯を決めている 食事中は使わない
課金やショッピングなどを制限している 自室に持ち込まない 勉強中は使わない
困ったことがあればすぐ親に相談する フィルタリングをかける 親がいない時は使わない
利用させていない 約束事やルールは特にない その他()

Q8 お子さんは LINE(ライン)などの無料通話・メッセージアプリ※を日常的に使っていますか？

※他にカカオトーク、Skype なども。友人知人と無料通話やメッセージ交換ができるアプリ(ソフト)

使っている 使っていない よくわからない

Q9 お子さんは YouTube やニコニコ動画などの動画サイトを閲覧していますか？

よく閲覧している ときどき閲覧している 閲覧していない よくわからない

Q10 お子さんの毎日のインターネット利用時間についてどう思いますか？

長すぎる やや長い 問題ない 利用していない

Q11 利用のルールやマナー、機器の適切な与え方など、インターネット利用に関するあなたの子どもの向き合い方について、最も近いものをお選びください。

自信をもって対応している 自信はないが対応している 子ども任せになっている

Q12 その他、お子さんのインターネット利用や、家庭での対応の仕方について不安に思われていることなどがあればお知らせください。(自由記述)

アンケート調査は以上です。ご回答ありがとうございました。

▽[地域密着] 2014年8月28日男鹿南中会場 地域サポーター養成講座第1回 配布資料

男鹿南中学校区 地域サポーター養成講座 第一回

子どもたちのインターネット問題を 正しく知ろう

平成26年8月28日

主催: 秋田県教育委員会(事務局: 秋田県教育庁生涯学習課)

協働: 子どもたちのインターネット利用について考える研究会(子どもネット研)

協賛: **YAHOO!** ヤフー株式会社、**mixi** 株式会社ミクシィ

講師: 高橋大洋(ビットクルー株式会社 インターネット利用者行動研究室)



※本講座は秋田県教育委員会が進める「大人が支える！インターネットセーフティの推進」事業の一環として開催されるものです。

地域サポーター養成講座とは

- 120分間の講座 × 計4回構成の大人向け研修会
 - 第一回(8/28) : 子どもたちのインターネット問題を正しく知る
 - 第二回(9/18) : 人気サービスの実際とデビューの理想
 - 第三回(10/2) : 家庭での取り組みヒント
 - 第四回(11/20) : 取り組み実践の共有と地域での協働
- 子どものネットデビューを支えるのは大人の役割
 - ⇔「子どもに追いつける気がしない」が本音
- 大人の強み = 実人生の経験と助け合いの力
 - ポイントを掴んだ「少し詳しい」大人が周囲に必要

2

受講者のみなさんへの期待(地域サポーターとは)

- 正しい優先度づけ、着眼点を知る
- 実際に取り組んでみて、周囲に経験を伝える
 - 教えて回らなくてもよい
 - でも、困っている人の相談相手にはなってもらえると有り難いです



3

子どもたちのインターネット利用と トラブルの実際



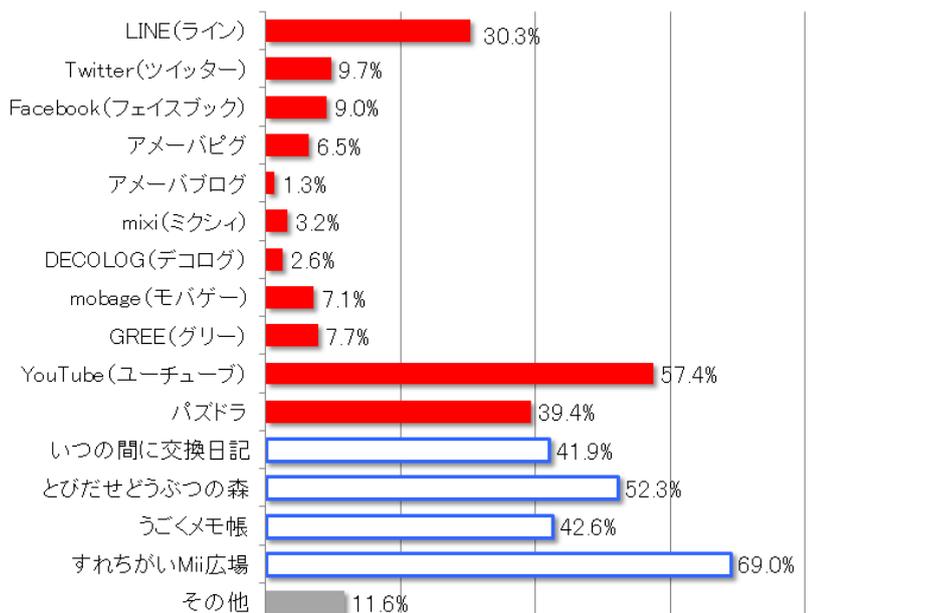
今どきの子どもたちのインターネット利用の「当たり前」

- 参加・発信型
 - 自身の日常を友人と共有
 - 受信閲覧利用に偏りがちな大人とのギャップ
- 写真や動画の撮影、共有
 - カメラ内蔵機器、共有を促すサービスの多さ
- 自分専用＝持ち運び利用
 - 一人一台、ケーブル不要のインターネット接続



参考:小学生の参加発信型インターネット利用の経験

質問:よく使っているアプリ(ソフト)やサービスはどれですか?(いくつでも)



出所:地方都市公立A小学校児童(3/4年生)へのアンケート結果、平成26年3月実査、n=155

6

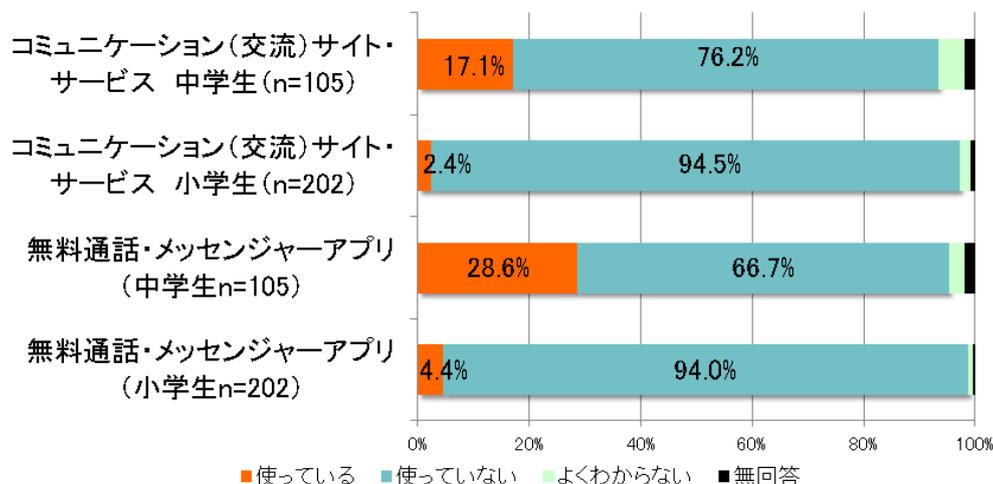
参考:小中学生のコミュニケーションサービス利用の実際

お子さんはコミュニケーション(交流)サイト・サービス※を日常的に利用していますか?

※Twitter、Facebook、mixiなど、自分の日常を書き込み、他者とのやりとりやメッセージ交換ができるサービス

お子さんはLINE(ライン)などの無料通話・メッセージアプリ※を日常的に使っていますか?

※他にカカオトーク、Skypeなども。友人知人と無料通話やメッセージ交換ができるアプリ(ソフト)



出所:男鹿南中学校および船川第一小学校、船川南小学校の保護者を対象としたアンケート調査結果(平成26年7月実査)

7

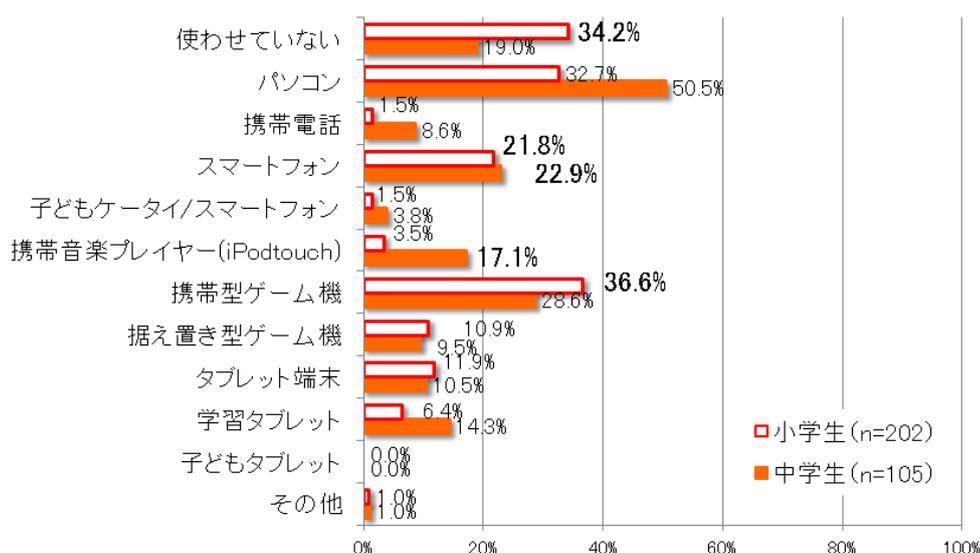
子どもを取り巻くインターネット環境の直近三年間での変化

- **機器の多様化**
 - 「隠れネット機器」増加
= **デビューの低年齢化**
 - 携帯ゲーム機、携帯音楽プレーヤー、学習タブレット
- **「無料接続」の拡がり**
 - 家庭内外での無線LAN(Wi-Fi)接続
= **利用をコストでは縛りにくく**
 - コンビニエンスストア、ファミリーレストラン、公共空間
 - モバイルルータ、テザリング

8

参考:小中学生のインターネット利用機器の実際

(お子さんが)ご自宅などでインターネット利用※に使うことがある機器を教えてください。(複数回答可)
※メール/メッセージ、検索・閲覧・投稿、オンラインゲーム、ショッピング、動画閲覧など

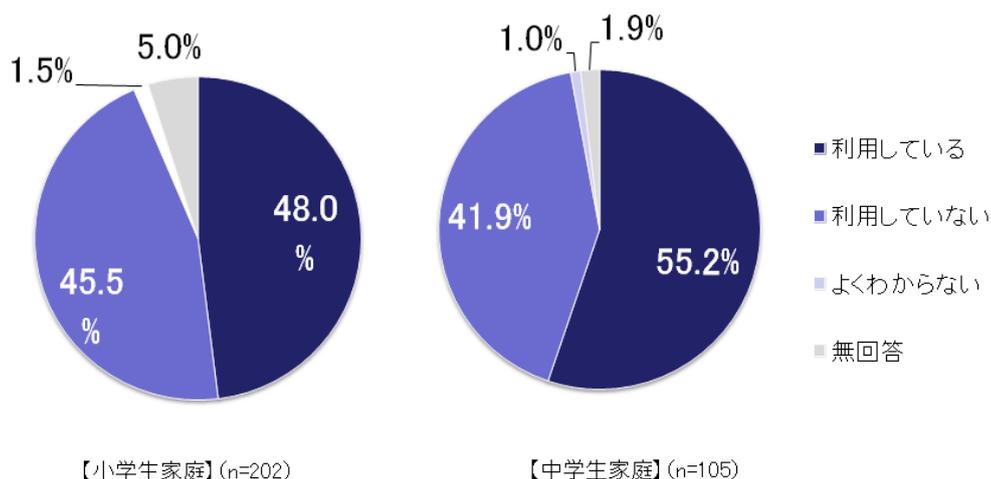


9

出所:男鹿南中学校および船川第一小学校、船川南小学校の保護者を対象としたアンケート調査結果(平成26年7月実査)

参考：家庭での無線LAN(Wi-Fi)利用状況

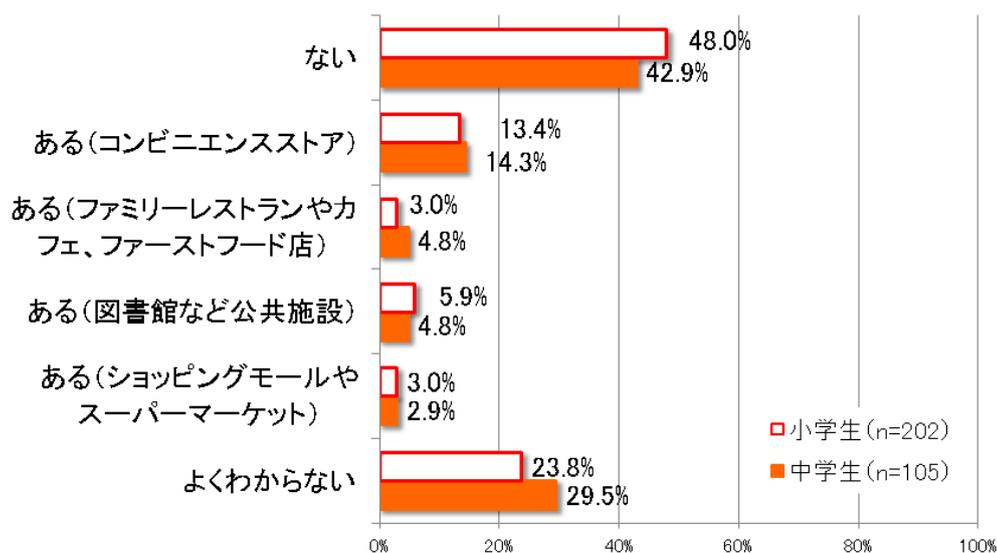
ご自宅では無線LAN(Wi-Fi)によるインターネット接続を利用されていますか？



出所：男鹿南中学校および船川第一小学校、船川南小学校の保護者を対象としたアンケート調査結果(平成26年7月実査)

参考：周囲にある公衆無線LANサービス

ご自宅の近所に、お子さんが無料で利用できる無線LAN(Wi-Fi)サービスはありますか？



出所：男鹿南中学校および船川第一小学校、船川南小学校の保護者を対象としたアンケート調査結果(平成26年7月実査)

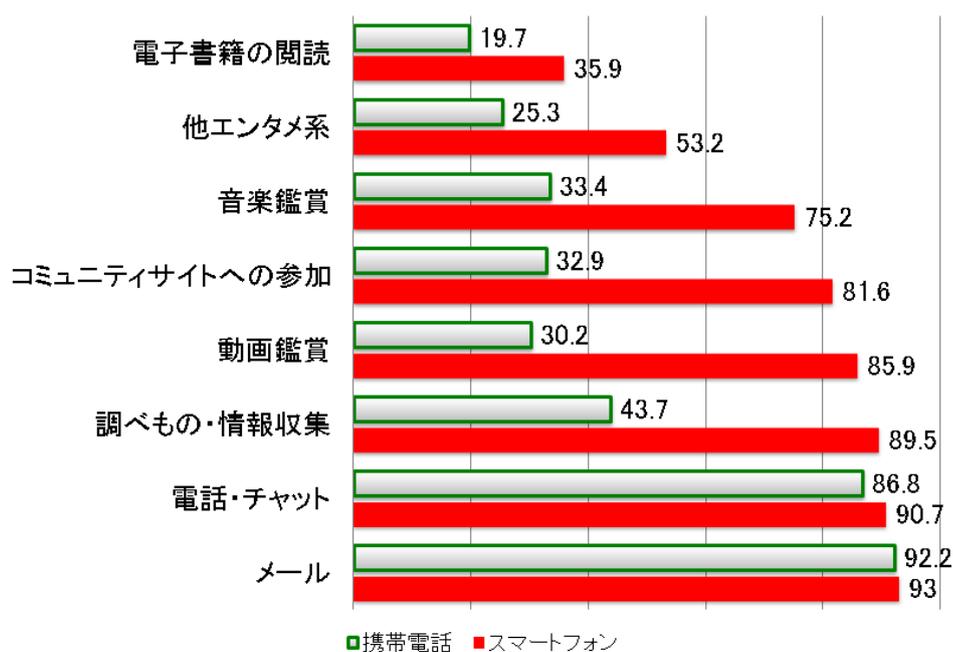
スマートフォンの本質と携帯電話からの移行の影響

- スマートフォンはパソコンの進化型
 - 携帯電話には出来なかったことを実現
 - パソコンよりも簡単に(誰でも)高度な利用
- 利用の長時間化
 - 用途の拡大
(検索、閲覧、娯楽、発信)
 - 同期利用の拡大
(「すぐ返信」の繰り返し)



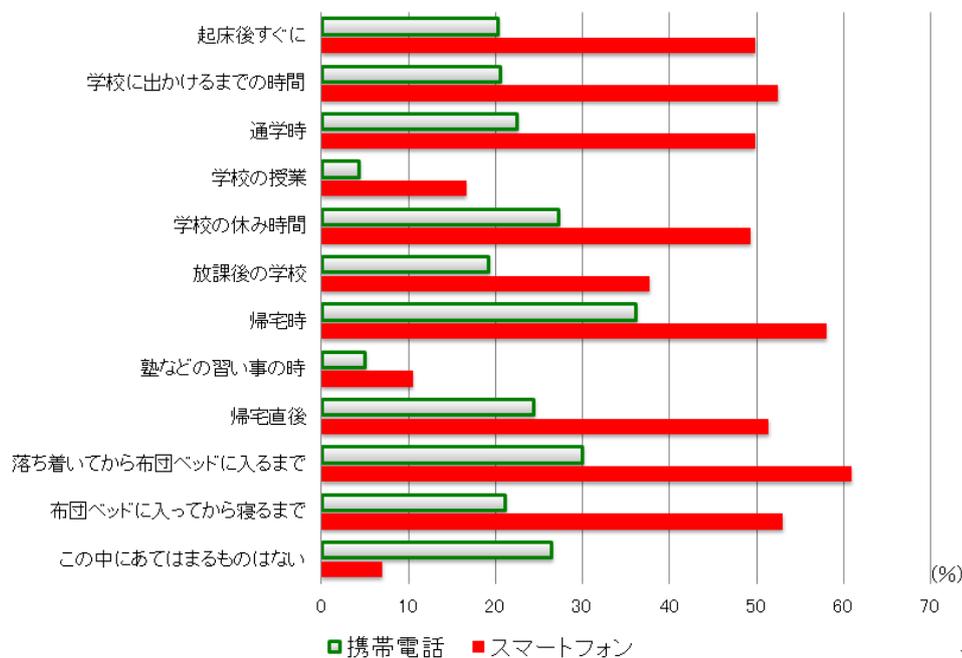
12

参考: 携帯電話とスマートフォンの用途の違い(高校生)



13

参考：携帯電話とスマートフォンの利用時間帯の違い(高校生)



出所：リクルート進学総研「高校生のWEB利用状況の実態把握調査2018」(スマートフォンn=440 携帯電話n=371)

14

「普通のサイト・サービス」で起きる要注意トラブル

- **大人が思いつく「インターネットの危険」**
 - アダルトなど不適切コンテンツ掲載サイト
 - 架空請求詐欺やセキュリティ被害

- **優先的に対処すべき危険**
 - 身体生命の危機に直結するもの
 - 出会い意図が無いままの性犯罪被害例
 - 不適切発信からのプライバシー情報拡散
 - 第三者による私的制裁→長期にわたる不利益

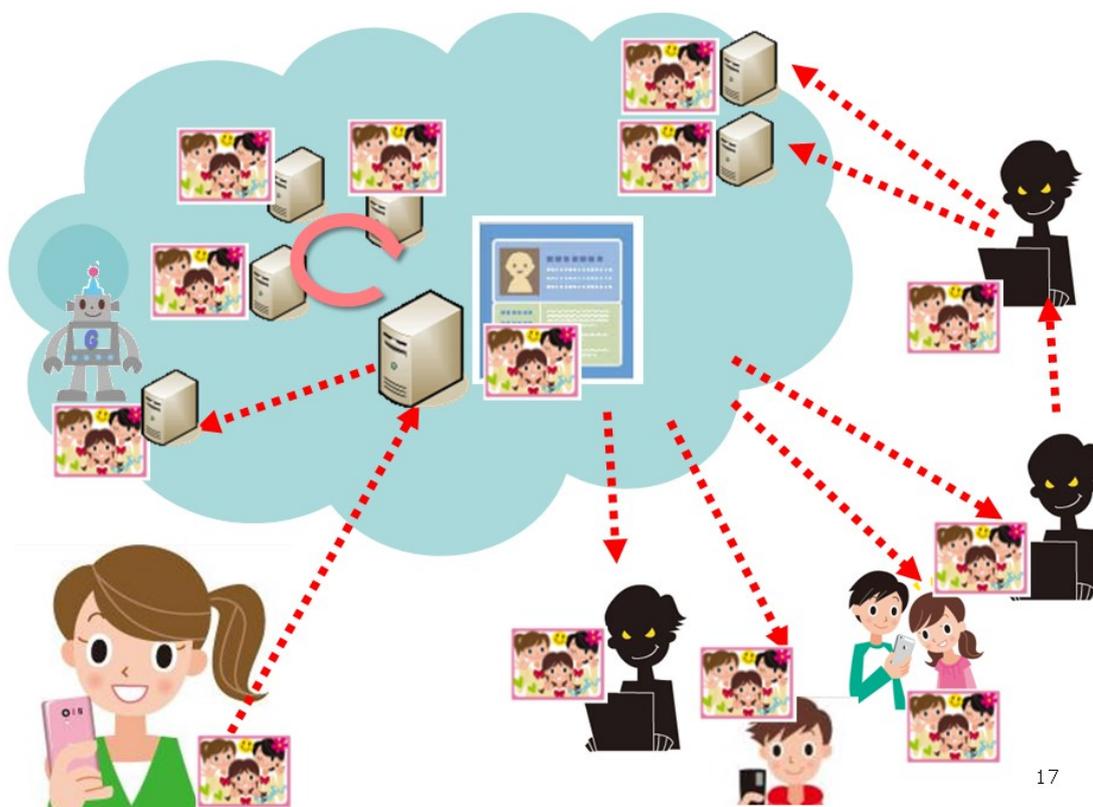
15

インターネットの四つの特性と子どもたちの誤解

- **公開されている**
「大丈夫、知り合いにしか教えてないから」
「鍵付きにしてるから平気…」
- **匿名性は無い**
「自分が書いたってことはバレないよ」
「名前は書いてないから心配ない…」
- **書き込みは取り消せない**
「失敗しても削除・退会すれば大丈夫…」
「まだメールだけだから…」
- **自分の将来が台無しになりかねない**
「ネット上の出来事は、すべて仮想世界の出来事…」
「有名人じゃないし…」



16



17

ワークショップ (二人一組で進めます)



□テーマ

ご自身の(周囲の)お子さんのインターネット利用に関して、
失敗談、不安な点、分からないこと、悩みを、共有しましょう。

□ルール

「話題となるお子さんの性別、学年」を教えてください。

聞き手役は話し手役の悩みや不安を「積極的に」認めてください。

18

本日のまとめ

- どんな機器でもインターネットにつながるように
- 発信利用に伴うトラブルの予防、抑制が重要
- スマートフォンは「多機能型携帯電話」ではない
- インターネットの四つの特性
- 自信が無い大人は自分だけではない



19

次回(第二回)のご案内

- 日時
 - 9月18日木曜日18時～20時

- 主な内容
 - 本日いただいたご質問の回答解説
 - 子どもに人気のサービスの実際と共通構造
(ライン、ツイッターなど)
 - 機器ごしコミュニケーションの特性
 - インターネットデビューの理想と現実
 - ワークショップ

▽[地域密着] 2014年8月28日男鹿南中会場 地域サポーター養成講座第1回 受講者アンケート

受講者アンケート

各項目に回答(当てはまるものを選択または記入)の上、無記名でご提出ください。

1. あなた自身についてお聞かせください。(当てはまるもの全て選択)
 - ・ 立場 保護者 教職員 民生委員・児童委員 その他
 - ・ 性別 男性 女性
 - ・ お子さん 未就学 小学生 中学生 高校生 卒業済 その他

2. 本日の講座についての全体的な評価を教えてください。(いずれか選択)
良かった まあ良かった あまり良くなかった 良くなかった

3. 本日の講座の教材や説明方法などについての評価をお聞かせください。(いずれか選択)
 - ・ 説明や例示の仕方は 分かりやすい 分かりにくい
 - ・ 使われていた単語・用語は 理解できた 難しかった
 - ・ 前提としている理解度や知識は ちょうど良い 高すぎる 低すぎる

4. 本日の講座で、よくわからなかった点や、さらに詳しい説明が必要だった点をお知らせください。
(※次回の講座にて、記入いただいたご質問の回答・解説を行う予定です)

5. 今日学んだことをご家庭でお子さんと話してみようと思いますか？(いずれか選択)
そう思う 少しそう思う あまりそう思わない そう思わない 同居していない

6. 今日学んだことをお子さんと話すのはどのくらい簡単ですか？(いずれか選択)
とても簡単 まあまあ簡単 あまり自信がない とても出来そうにない

7. 今日学んだことを配偶者や周囲の保護者などと話してみようと思いますか？(いずれか選択)
そう思う 少しそう思う あまりそう思わない そう思わない

8. 今日学んだことを配偶者や周囲の保護者と話すのはどのくらい簡単ですか？(いずれか選択)
とても簡単 まあまあ簡単 あまり自信がない とても出来そうにない

9. その他、何か具体的に取り組んでみよと思ったことや、講座の感想などをお知らせください。

▽[地域密着] 2014年9月18日男鹿南中サポーター養成講座第2回 配布資料

男鹿南中学校区 地域サポーター養成講座 第二回

人気サービスの実際と 理想的なインターネットデビュー

平成26年9月18日

主催: 秋田県教育委員会(事務局: 秋田県教育庁生涯学習課)

協働: 子どもたちのインターネット利用について考える研究会(子どもネット研)

協賛: **YAHOO!** ヤフー株式会社、**mixi** 株式会社ミクシィ

講師: 高橋大洋(ビットクルー株式会社 インターネット利用者行動研究室)



※本講座は秋田県教育委員会が進める「大人が支える！インターネットセキュリティの推進」事業の一環として開催されるものです。

第一回の振り返り

- どんな機器でもインターネットにつながるように
 - ゲーム機をはじめとしたWi-Fiを利用する機器の増加
- 発信利用に伴うトラブルの予防、抑制が重要
 - 「あやしいサイト」よりも「ふつうのサイト・サービス」が危ない
- スマートフォンは「多機能型携帯電話」ではない
 - 便利で魅力的だが自制心が求められる
- インターネットの四つの特性
 - 公開される、匿名性はない、取り消せない、実人生を台無しに
- 自信が無い大人は自分だけではない
 - ポイントを絞った学び方が必要

2

本日の流れ

- 前回ご質問の回答解説
- 子どもに人気のサービスの実際と共通構造
(ライン、ツイッターなど)
- 機器ごしコミュニケーションの特性
- インターネットデビューの理想と現実
- ワークショップ

3

第一回のご質問

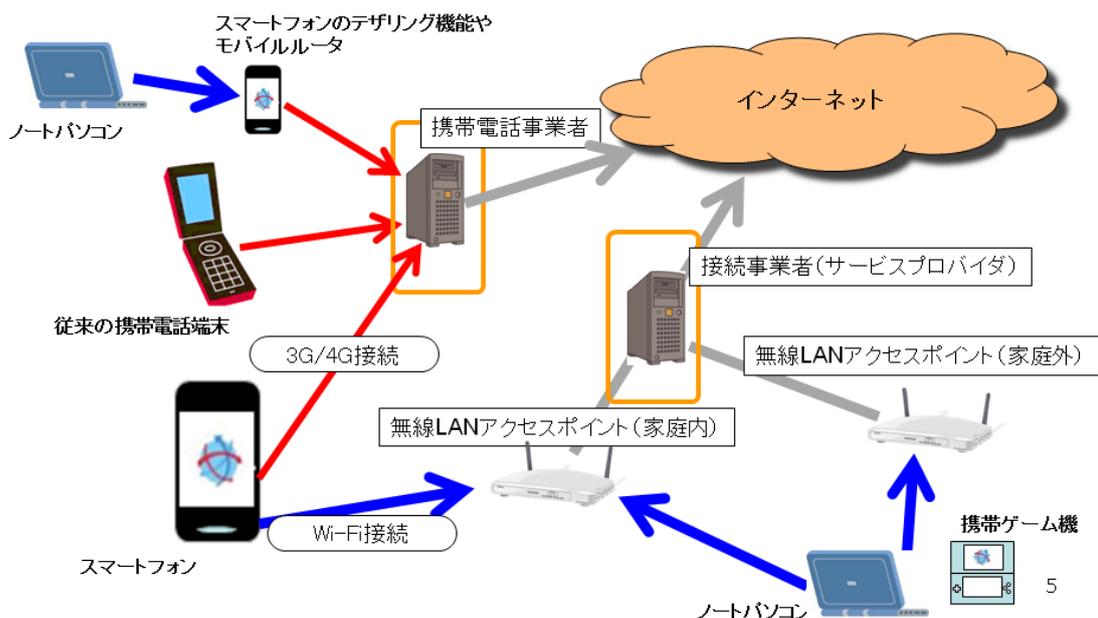
- ・ モバイルルーターのあたりをもっとゆっくり説明してほしかった
- ・ 3DSのゲーム機の通信機能について詳しく(以前トラブルあり)
- ・ iPhoneとスマートフォンの違い？違うらしいが、何がどう違うのか。
- ・ テレビでスマホをビデオカメラのように、楽器のように使いこなしているのを見た。リアルで出来るのか？
- ・ スマホのキーボードをどうやって出したか？
- ・ YouTubeが重いとは？なぜ重いと遅いのか？
- ・ ラインの危険性についてもっと聞いてみたい。
- ・ ラインとツイッター、フェイスブックの違いが分からないので教えてほしい。
- ・ ラインの仕組みと問題点
- ・ Facebook、Twitter等を見る方法がわからない

4

Wi-Fiやテザリングの仕組み

- ・ おおまかには無線LAN=Wi-Fi(ワイファイ)との理解でよい

※厳密にはWi-Fi Allianceによって無線LAN機器間の相互接続性を認証されたことを示す名称、ブランド名。



ゲーム機のネット接続

- 家庭内のネットワークにゲーム機を追加する設定が必要
 - 携帯ゲーム機では無線LAN(Wi-Fi)環境(アクセスポイント)が必要
 - 一般にはゲーム機上の簡単な設定のみで完了し、回線会社との調整は不要
 - ※一般家庭の接続契約(ADSLやFTTHなど)では、複数台の機器を自由に接続出来るのが普通
 - 接続設定作業は機器上の支援画面に従うことで数分間で完了
 - アクセスポイント側に新規機器の追加を拒否する設定をしておくことも可能

【ニンテンドー3DSでの接続設定作業の流れ】



画像出所:任天堂ホームページ <http://www.nintendo.co.jp/3ds/support/setting/>

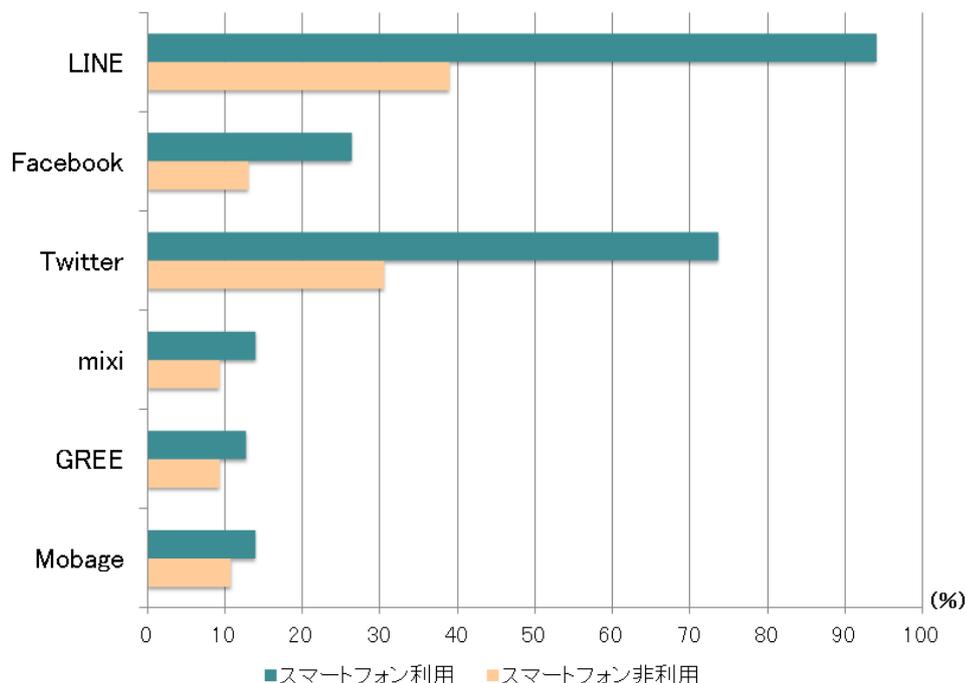
6

子どもたちに人気のサービスを読み解く



7

参考: 高校生に人気のソーシャルメディアの実際



出所: 総務省情報通信政策研究所「高校生のスマートフォン・アプリ利用とネット依存傾向に関する調査」(n=15191、平成26年1月調査)

人気アプリLINE(ライン)とは

- LINE株式会社(東京)運営のメッセージングサービス
 - 平成23年6月に誕生、現在の登録ユーザ数は4億人※
 - 国内利用者数はそのうち5000万人以上(毎日利用は約3000万人)
 - 海外: タイ・台湾・インドネシア・スペイン・インド・メキシコで利用が多い
 - スマートフォン・タブレットやiPod touchでの利用が主
 - 専用アプリ(ソフトウェア)をダウンロード(導入)して利用開始
 - パソコンや従来型携帯電話でも利用可能(若干の機能差)
 - 短文テキストのやりとりや音声・ビデオ通話
 - いずれも無料で利用可能(LINE利用者間) → 一般電話にも発信可能(有料)
 - テキストだけでなく、スタンプ(絵文字)や画像などの貼付け送信も
 - 一対一だけでなく、グループ利用も盛ん

※データ出所 <http://linecorp.com/press/2014/0402713> および「LINE 2014年4-9月期 媒体資料」

LINEなどメッセンジャーの便利さと起きやすいトラブルの例

- ・ 短文で済み、前置きも不要
 - 誤解も起きやすい、「あらたまったやり取り」デビューに一苦労
- ・ 相手がメッセージを読むとすぐ分かる
 - 「既読無視」問題→長時間利用の原因
- ・ トークの履歴を一覧で見られる
 - いったん生まれた行き違いを水に流しにくい
- ・ グループが簡単に作れる
 - 外す、置き去り(別グループ移動)等のいやがらせも簡単
- ・ 気心の知れた相手とだけのやり取り
 - ID交換掲示板での「友だち募集」→知らない相手との接触トラブル
- ・ トーク相手以外に会話を見られる心配が無い
 - 「開放空間」デビューのギャップ、「スクショ」での流出



10

LINEなどメッセンジャーのグループ機能の概要

- ・ 誰でもグループ作成が可能
 - ・ 個々の利用者のアプリ上で操作
 - ・ 友だちリストから「招待」
 - 相手が「承認」するとグループに参加
 - ・ 気に入らなければいつでも「退会」可能
 - ・ グループはいくつでも作成可能
 - ・ グループ内の他メンバーは新たに「友だち」にすることが可能
 - ・ (招待された)メンバーでも、任意の他メンバーをグループから「退会」させられる



11

機器ごし(オンライン)コミュニケーションの特性

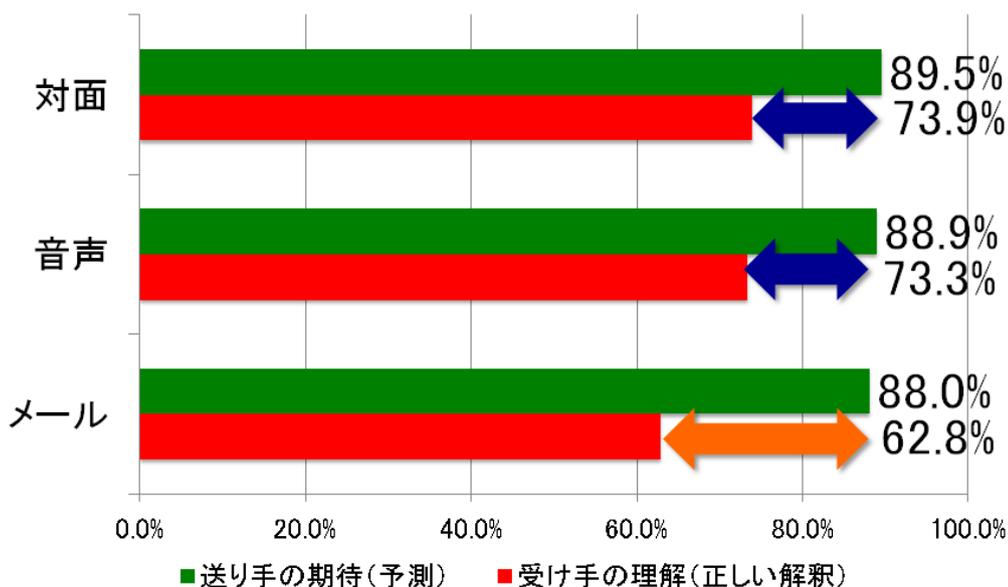
- 情報の論理的で正確な伝達が可能
- 現実の制約から自由
 - お互いの立場や時間的・地理的距離の影響小
- サービスの仕組みや機能から強い影響
- 文章表現力に強く依存
 - 「気持ち」を知る手がかりが大幅に減少



12

参考: 対人コミュニケーション(感情の伝達)に関する実験結果

日常に関するトピックに含まれる感情(皮肉、深刻さ、怒り、悲しみ)の伝わり方を伝達方法間で比較



13

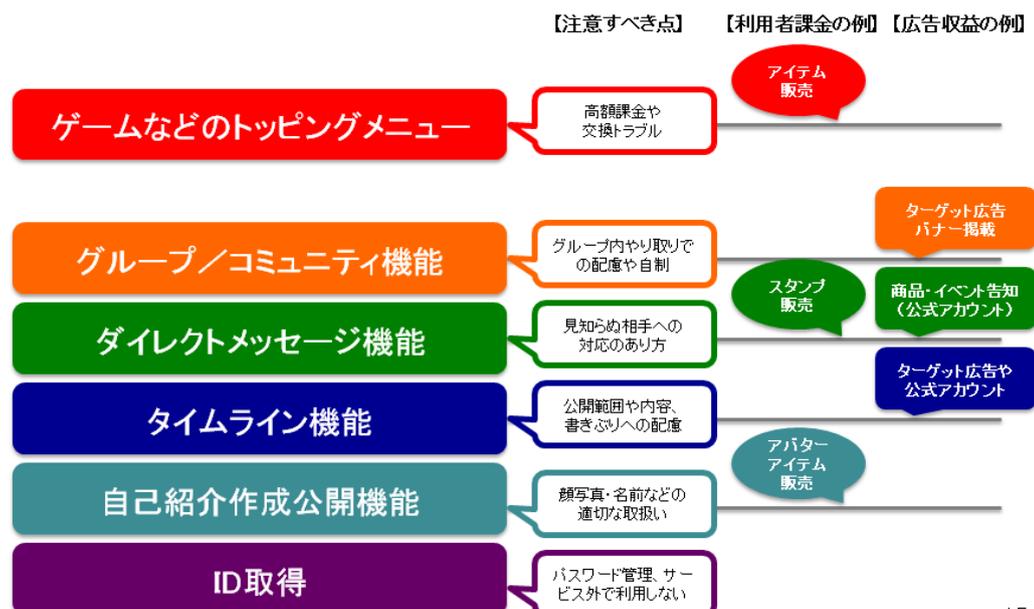
(数値はKruger, Epley, Parker, & Ng, 2005による)

人気アプリ「Twitter(ツイッター)」「Facebook(フェイスブック)」とは

- ツイッター: 米国発の(マイクロ)ブログサービス
 - 一回あたり投稿(ツイート)に140文字の上限
 - パソコン、スマートフォン・タブレットなどで利用
 - 気に入った書き手をフォロー(ツイートを購読)するには会員登録要
 - 利用者の相互承認後は、一対一のメッセージ交換(DM)も可能
 - 気に入ったツイートを簡単に周囲に広める仕組み「リツイート」「お気に入り」
- フェイスブック: 米国発、世界最大のSNS(交流)サイト
 - 個人の近況報告・意見表明から企業の広報媒体まで幅広い利用
 - 実名、顔写真登録(公開)の推奨
 - パソコン、スマートフォン・タブレットなどで利用
 - 利用者間の一対一メッセージ交換も可能
 - スマートフォンでは「Facebook Messenger」アプリへと分離

14

ソーシャルサービスの共通構造と注意すべき点



15

参考: 三大人気サービスの違い

	LINE	Facebook	Twitter
カテゴリ	メッセージ	ソーシャル ネットワーキング (交流)	(マイクロ) ブログ
基本的な性質	閉鎖空間 (当事者以外からは、 やりとりが見えない)	開放空間 (利用者設定で閉鎖的 な運用も可能)	開放空間 (原則として全ての書き 込みが公開)
子どもへの浸透	とても高い	まだ低い	高い
主な利用スタイル	友人知人との情報交換 (盛んなグループ利用)	日記の公開	情報収集 動静報告(つぶやき) 友人と連絡、コメント
典型的なトラブル	同級生間での攻撃的な 利用や長時間利用傾向	公開範囲への誤解や 不適切な設定	公開の意識を持たずに 発信や拡散

16

インターネットデビューの理想と現実



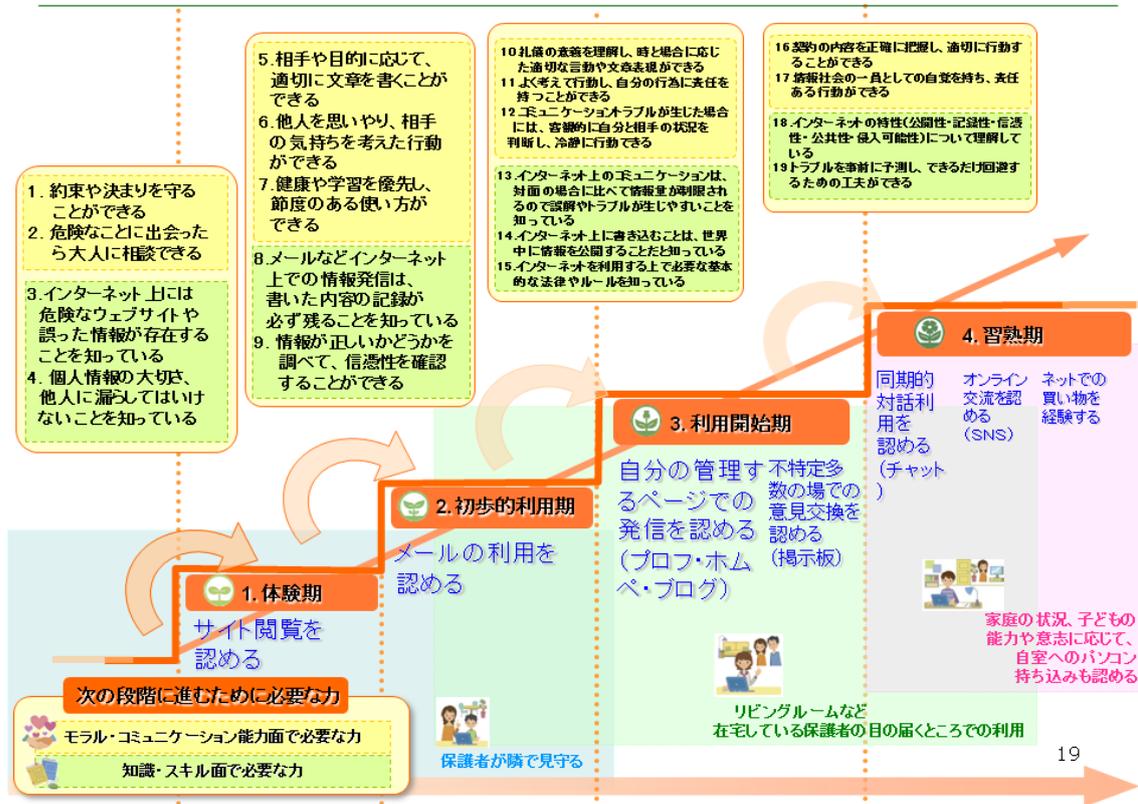
17

理想のインターネットデビューは「階段型に経験を積む」こと

- 「受信」→「発信(1対1→1対多)」へ
 - 親元を離れるまでに、安全利用の基礎をつくる
 - 易しいサービスで始め、徐々に難しいものへ
 - 子どもの能力発達を見きわめるのは保護者
 - 本来は「据え置き機器→ポータブル機器」の順
- 区切りをつけるのに必要な保護者管理機能
 - 時間や機能の制限
 - 行き先の制限
 - アプリ利用制限

18

参考:子どもの能力の見極めと4つの段階(子どもネット研が提唱する段階的利用モデル抜粋) 全文はwww.child-safenet.jp/material/guide01_model.html



19

実際にはありがちなケース(理想と現実のギャップ)

- 「隠れネット機器」で勝手にデビュー済
 - 保護者自身がネット機器と知らずに買い与え
 - 祖父母がご褒美に(黙って?)買い与え
- 難度の高い同期型発信利用でデビュー
 - LINEが使いたいから...スマートフォン/携帯音楽プレイヤーを購入
- 自室への機器持ち込みが早期から常態化
 - 「目覚ましに使うから...」
 - 「勉強(調べもの)に使うから...」

20

ワークショップ

(原則として二人一組で進めます)



□テーマ

ご自身のお子さんの現時点でのインターネットデビューの状況(利用機器・サービス)と、「理想」とのズレ、「次の段階に進むのに必要な力」で不足していると思われるものを、具体的に相手に説明してみてください。

□ルール

「話題となるお子さんの性別、学年」をはじめにお話してください。

聞き手役は話し手役の失敗(告白)や試行錯誤を「積極的に」認めてください。

21

本日のまとめ

- 人気サービスをちょっとだけ覗き見
- 共通要素の理解と、要素ごとの注意点が大切
- 理想的なデビューは階段型
- デビューの現実は十人十色
- 区切るためには、子どもの力の「見きわめ」と保護者管理機能の助けが必要

22

次回(第三回)のご案内

- 日時
 - 10月2日木曜日18時～20時
- 主な内容
 - 本日いただいたご質問の回答解説
 - 保護者管理機能の実際と仕組み
(機能制限やフィルタリングなど)
 - 家庭での機器の与え方や子どもとの接し方
 - ワークショップ

23

▽[地域密着] 2014年9月18日男鹿南中会場 地域サポーター養成講座第2回 受講者アンケート

受講者アンケート

各項目に回答(当てはまるものを選択または記入)の上、無記名でご提出ください。

1. あなた自身についてお聞かせください。(当てはまるもの全て選択)
 - ・ 立場 保護者 教職員 民生委員・児童委員 その他
※保護者以外のお立場で参加された方は、問2・3・4・9について回答をお願いします。
 - ・ 性別 男性 女性
 - ・ お子さん 未就学 小学生 中学生 高校生 卒業済 その他

2. 本日の講座についての全体的な評価を教えてください。(いずれか選択)
良かった まあ良かった あまり良くなかった 良くなかった

3. 本日の講座の教材や説明方法などについての評価をお聞かせください。(いずれか選択)
 - ・ 説明や例示の仕方は 分かりやすい 分かりにくい
 - ・ 使われていた単語・用語は 理解できた 難しかった
 - ・ 前提としている理解度や知識は ちょうど良い 高すぎる 低すぎる

4. 本日の講座で、よくわからなかった点や、さらに詳しい説明が必要だった点をお知らせください。
(※次回の講座にて、記入いただいたご質問の回答・解説を行う予定です)

5. 今日学んだことをご家庭でお子さんと話してみようと思いますか？(いずれか選択)
そう思う 少しそう思う あまりそう思わない そう思わない 同居していない

6. 今日学んだことをお子さんと話すのはどのくらい簡単ですか？(いずれか選択)
とても簡単 まあまあ簡単 あまり自信がない とても出来そうにない

7. 今日学んだことを配偶者や周囲の保護者などと話してみようと思いますか？(いずれか選択)
そう思う 少しそう思う あまりそう思わない そう思わない

8. 今日学んだことを配偶者や周囲の保護者と話すのはどのくらい簡単ですか？(いずれか選択)
とても簡単 まあまあ簡単 あまり自信がない とても出来そうにない

9. その他、何か具体的に取組んでみようと思われたことや、講座の感想などをお知らせください。

▽[地域密着] 2014年10月2日男鹿南中会場 地域サポーター養成講座第3回 配布資料

男鹿南中学校区 地域サポーター養成講座 第三回

家庭での取組みのヒント

平成26年10月2日

主催: 秋田県教育委員会(事務局: 秋田県教育庁生涯学習課)
協働: 子どもたちのインターネット利用について考える研究会(子どもネット研)
協賛: **YAHOO!** ヤフー株式会社、**mixi** 株式会社ミクシィ

講師: 高橋大洋(ビットクルー株式会社 インターネット利用者行動研究室)



※本講座は秋田県教育委員会が進める「大人が支える！インターネットセーフティの推進」事業の一環として開催されるものです。

第一回の振り返り

- **どんな機器でもインターネットにつながるように**
 - ゲーム機をはじめとしたWi-Fiを利用する機器の増加
- **発信利用に伴うトラブルの予防、抑制が重要**
 - 「あやしいサイト」よりも「ふつうのサイト・サービス」が危ない
- **スマートフォンは「多機能型携帯電話」ではない**
 - 便利で魅力的だが自制心が求められる
- **インターネットの四つの特性**
 - 公開される、匿名性はない、取り消せない、実人生を台無しに
- **自信が無い大人は自分だけではない**
 - ポイントを絞った学び方が必要

2

第二回の振り返り

- **人気サービスをちょっとだけ覗き見**
 - LINE、Twitter、Facebookの実際
- **共通要素の理解と、要素ごとの注意点が大切**
 - ソーシャル要素で利用を活性化することが収益化の鍵に
- **理想的なデビューは階段型**
 - 閲覧>1対1での発信>複数に向けた発信>同期的発信利用
- **デビューの現実は十人十色**
 - ブレーキの緩め方は案外難しい。理想とはほど遠いデビューも。
- **力の「見きわめ」と保護者管理機能の助けが必要**
 - 子どものことをよく見る、話を聴くことがスタート

3

本日の流れ

- 前回いただいたご質問の回答解説
- 保護者管理機能の実際と仕組み
(機能制限やフィルタリングなど)
- 家庭での機器の与え方や子どもとの接し方
- ワークショップ

4

前回いただいたご質問

- Facebookの色々な登録、全員が本当の事を申請している？自分も聞かれるままに本当のことを入力して大丈夫なのか心配。
- GmailやYahoo!メールの利点や問題点(危険度)

5

ソーシャルサービスの自己紹介はどこまで正直に書くべきか

- 運営会社の期待(=広告主への価値訴求)
 - たくさん書いてもらえると、利用者間の交流が活発になり、サービス利用頻度も向上
 - 情報の質と量が充実するほど、利用者にピッタリ合った広告を配信しやすく
- 利用者側の期待(=自身の生活をより豊かに)
 - 過去の知人友人と再会しやすく(出身地、出身校)
 - 仕事や趣味上での新しい出会いがうまく進みやすく(検索や情報収集)

6

ウェブメールサービスの利点と注意点

- きわめて高い利便性
 - パソコン／スマートフォンなど複数機器と関わりなく一元管理
 - 迷惑メール対策の水準の高さ
 - 保存データ容量が実質的に青天井
 - データ全損の可能性が比較的低い
- 便利さと引き換えにしているもの
 - メール本文内容に合わせた広告の表示(自動スキャン)
 - 第三者の侵入可能性(ID/パスワードの管理)
 - 米国政府の開示要求

7

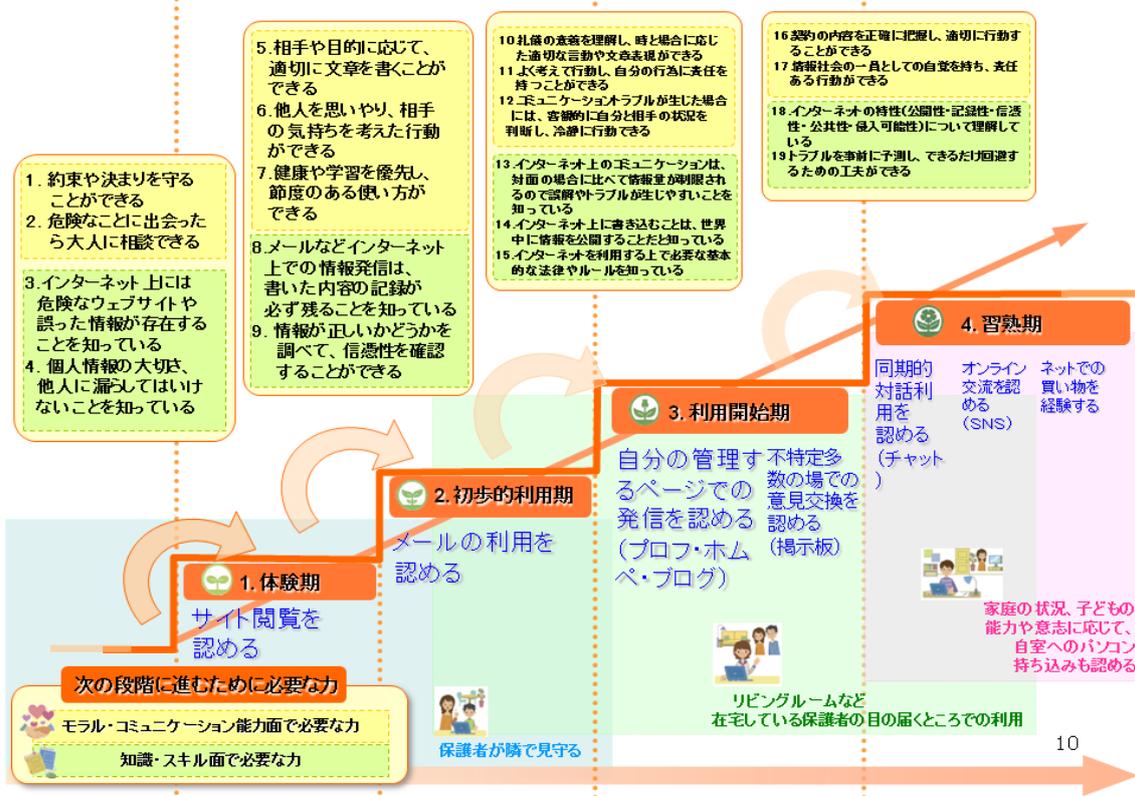
保護者管理機能の実際



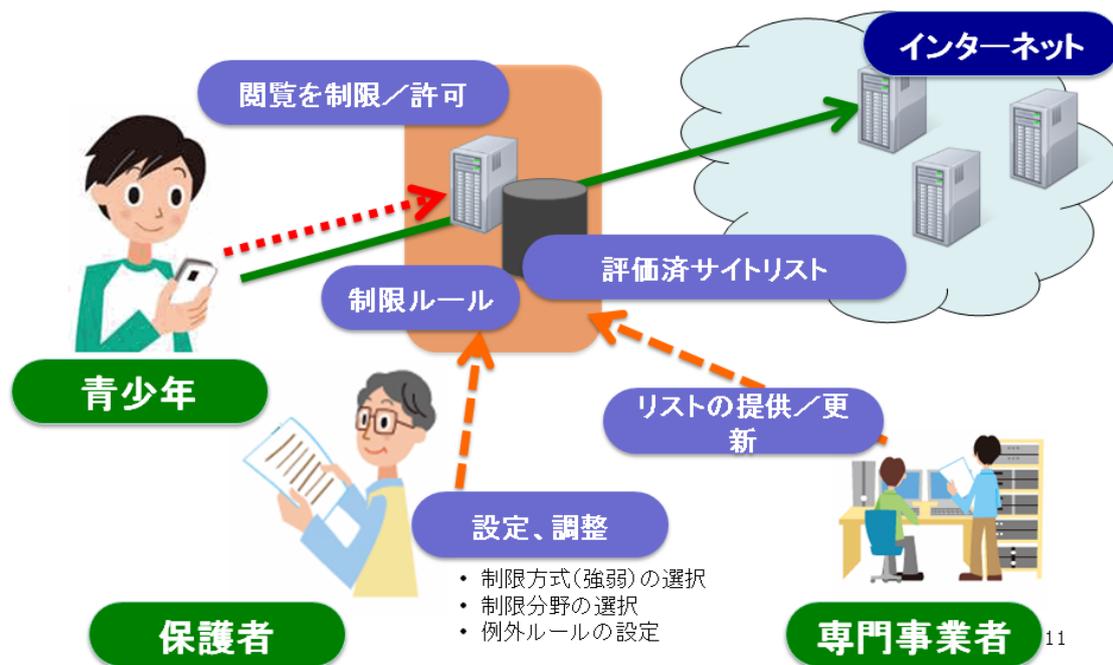
「階段型デビュー」の区切りをつけるのが保護者管理機能

- 「受信」→「発信」へ
 - 「発信」はさらに、現実の知り合い＞知らない相手（不特定）＞知らない相手（特定）の順で
- 保護者管理機能の主な要素と例
 - 元締め（パスワードによる保護や利用者切り替え）
 - 機能単位でのオンオフ（アプリ起動制限）
 - 機能の増減の制限（アプリの追加・削除や導入制限）
 - 行き先の制限（いわゆるサイトフィルタリング）
 - コンテンツ単位での制限（ゲームや動画）
 - 利用中の行為の制限（プライバシー情報送信・買い物額）
 - 利用時間制限（各要素との組み合わせも）

参考:子どもの能力の見極めと4つの段階(子どもネット研が提唱する段階的利用モデル抜粋) 全文はwww.child-safenet.jp/material/guide01_model.html



参考:サイトフィルタリングの仕組み



参考：サイトフィルタリングの制限分野の例



熱中・長時間利用の可能性があるサイト
(懸賞・ゲーム・動画など)



コミュニケーションサイト
(チャット、掲示板、ブログ、プロフ、SNSなど)



本来は成人向きであり、知識・経験・判断力を要するサイト
(グラビア・ホラー映画・超常現象・パロディ・極端な主張など)



不適切コンテンツ・サイト
(違法・薬物・自殺・出会い・恐怖・ポルノ・ギャンブル・飲酒・喫煙など)

12

ニンテンドー3DSの「保護者による使用制限機能」項目

- | | |
|----------------------------|----------------|
| ・ 年齢制限 | > 3DSソフトの年齢区分 |
| ・ インターネットブラウザの使用 | > ウェブサイトを見られなく |
| ・ ニンテンドーeショップ等での商品やサービスの購入 | > クレジットカード無断使用 |
| ・ 3D映像の表示 | > 目の成長に悪い影響 |
| ・ Miiiverseの使用(投稿/閲覧) | > 他ユーザーとの接触回避 |
| ・ 写真や画像・音声・動画・長文テキストの送受信 | > 詳細なやりとりを禁止 |
| ・ 他のユーザーとのインターネット通信 | > ゲーム内やりとりに影響 |
| ・ 他のユーザーとのすれちがい通信 | > データ交換に影響 |
| ・ フレンドの登録 | > 特定の相手との交流を回避 |
| ・ DSダウンロードプレイの使用 | > 新規アプリの入手を禁止 |
| ・ 配信動画の視聴 | > 一部アプリ自体も制限 |

※最新の情報は任天堂ホームページ<http://www.nintendo.co.jp/parents/>で確認できます。

13

携帯音楽プレーヤー(iPod touch)の保護者管理機能の例

- ・ インターネットブラウザをオフに
 - [設定]>[一般]>[機能制限]>[Safari]
- ・ アダルトサイトのフィルタリング
 - [設定]>[一般]>[機能制限]>[コンテンツの許可]>[Webサイト]
- ・ アプリの追加・削除の制限
 - [設定]>[一般]>[機能制限]>[インストール]
 - [設定]>[一般]>[機能制限]>[Appの削除]



14

参考:スマートフォン向けフィルタリング

- ・ 携帯電話会社が提供／推奨するフィルタリング(アプリ)を利用
 - 従来型携帯電話とは異なり、必ず**端末上に導入、設定**
 - 初期設定では**難度の高いアプリを制限**(必要に応じて、個別解除も可能)

基本ソフト	Android			iOS		
携帯電話会社	NTTドコモ	KDDI	ソフトバンクモバイル	NTTドコモ	KDDI	ソフトバンクモバイル
アプリ管理(フィルタリング)アプリ	あんしんモード	安心アクセス for Android ※2	あんしん設定アプリ	(iOSの基本機能で実現)		
(ウェブサイト)フィルタリングブラウザアプリ	ファミリーブラウザ for docomo ※1	安心アクセス for Android ※2	Yahoo! あんしんねっと for SoftBank ※3	スマホ安心サービス ※4	ファミリーブラウザ for docomo ※5	安心アクセス for iOS
						Yahoo! あんしんねっと for SoftBank ※3

※1 特定機種に対応。ネットスター株式会社提供。あんしんモードと連携。※2 Android2.2以降に対応。※3 ヤフー株式会社提供。
※4 Android4.0以降に対応。 ※5 ネットスター株式会社提供。

フィルタリングなど、機器上の保護者管理機能の使い方の原則

- 保護者が主体的に選択、決定
 - あくまでも保護者の代役
- 機器の使い始めと同時に
 - 購入時に詳しく聞いて(調べて)おく
- 正解を見つけるためには試行錯誤が必要
 - 不便があれば設定変更、必要時だけ解除の運用も
- 制限の範囲は少しずつ狭くする
 - 子どもの力の見きわめ結果を随時反映していく
- 個々の制限の理由や背景を子どもに説明
 - 懸念リスクと能力見きわめ結果の組み合わせ



16

家庭での取り組み



17

全ての保護者に出来ること

- 一次受け止め役を宣言
 - 子どもが困った時の最初の相談相手に
 - 詰問、説教、取り上げ、覗き見は禁じ手
 - 遊びを禁じない。遊び方に注意を払う。
 - 「指導」しなくて良い。「聞き上手」に。
 - トラブルゼロを目指さない。トラブルから学ぶ姿勢。
- 大人ならではの問題把握と対処
 - 子どもと同じ道のりでの「先回り」は険しい道
 - 子どもの危機回避能力の不足を社会経験で補う
 - 子どもから教えてもらえることもたくさんあるはず

18

「理想的にデビュー」し損なった時のやり直し方

- 機器取り上げなどの無理な後退にこだわらない
 - 子ども自身の問題への気づきの方が重要
- 「様子見」という名の放置をしない
 - 先延ばしせずに子どもと向き合う(懸念点を伝えることから)
- 機器の買い替えを好機とする
 - 保護者の機器を「常時貸している」ことにする方法



19

実際に大人が参加発信型サービスを使ってみるなら

- ・ パソコンやタブレットでも使えるサービス
 - ・ 携帯電話やスマートフォン専用だとつい億劫に
- ・ 受け身でも始められるサービス
 - ・ Twitterなどのブログ
 - ・ 半年間は閲覧中心で周囲の利用をよく観察
 - ・ 気の向いた時だけ使う
- ・ 親しい人とだけ使えるサービス
 - ・ LINEなどのメッセージャー
 - ・ 我が子とも「友だち」になってみる

20

それぞれの家庭の中だけで頑張り過ぎない

- ・ 大人全員が詳しくなる必要はない
 - － 詳しい人や相談先を予め見つけておく
- ・ 「ウチは気をつけている」では子どもを守れない
 - － 長時間利用やプライバシー書き込みの抑制には、地域協働や子どもたち自身に考えさせることも必要
- ・ 問題が目に見えにくいのがインターネットの特徴
 - － 情報共有でヒヤリハットラブルから教訓を引き出す
 - － 学校・PTAが軸となって定量的な状況把握を（子どもの「みんなが〇〇持ってる」に負けない）



21

ワークショップ

(原則として二人一組で進めます)



□テーマ

お子さんの学齢や能力・知識、インターネット機器の利用状況に合わせて、あなた自身がまず何を始めたら良いかを具体的に考え、その内容と必要性(理由)を相手に説明してみてください。

□ルール

「話題となるお子さんの性別、学年」と「利用状況」をはじめにお話してください。
聞き手役は話し手役の方針やアイデアを「積極的に」認めてください。

22

本日のまとめ

- 保護者管理機能の役割と使い方の原則
- 保護者管理機能の実際と仕組み
- 「対話が途切れない」ことへの配慮
- 子どもへの機器の与え方
- 大人自身が変われるかどうか最大の挑戦

23

次回(最終回)のご案内

- 日時
 - 11月20日木曜日18時～20時
- 主な内容
 - 本日いただいたご質問の回答解説
 - 取り組みの成功・失敗例の共有(ワークショップ)
 - この地域でこれから何が出来るか

▽[地域密着] 2014年10月2日男鹿南中会場地域サポーター養成講座第3回 受講者アンケート

受講者アンケート

各項目に回答(当てはまるものを選択または記入)の上、無記名でご提出ください。

1. あなた自身についてお聞かせください。(当てはまるもの全て選択)
 - ・ 立場 保護者 教職員 民生委員・児童委員 その他
※保護者以外のお立場で参加された方は、問1・2・3・4・9についてのみ回答をお願いします。
 - ・ 性別 男性 女性
 - ・ お子さん 未就学 小学生 中学生 高校生 卒業済 その他
2. 本日の講座についての全体的な評価を教えてください。(いずれか選択)
良かった まあ良かった あまり良くなかった 良くなかった
3. 本日の講座の教材や講師の説明方法などについての評価をお聞かせください。(いずれか選択)
 - ・ 説明や例示の仕方は 分かりやすい 分かりにくい
 - ・ 使われていた単語・用語は 理解できた 難しかった
 - ・ 前提としている理解度や知識は ちょうど良い 高すぎる 低すぎる
4. 本日の講座で、よくわからなかった点や、さらに詳しい説明が必要だった点をお知らせください。
(※次回の講座にて、記入いただいたご質問の回答・解説を行う予定です)
5. 今日学んだことを実際にご家庭で試してみようと思いますか？(いずれか選択)
そう思う 少しそう思う あまりそう思わない そう思わない 同居していない
6. 今日学んだことを実際にご家庭で試すのはどのくらい簡単ですか？(いずれか選択)
とても簡単 まあまあ簡単 あまり自信がない とても出来そうにない
7. 今日学んだことを配偶者や周囲の保護者などと話してみようと思いますか？(いずれか選択)
そう思う 少しそう思う あまりそう思わない そう思わない
8. 今日学んだことを配偶者や周囲の保護者と話すのはどのくらい簡単ですか？(いずれか選択)
とても簡単 まあまあ簡単 あまり自信がない とても出来そうにない
9. その他、何か具体的に取り組んでみようと思われたことや、講座の感想などをお知らせください。

▽[地域密着] 2014年11月20日男鹿南中会場地域サポーター養成講座第4回 配布資料

男鹿南中学校区 地域サポーター養成講座 第四回

家庭・地域でのこれからの取り組み

平成26年11月20日

主催: 秋田県教育委員会(事務局: 秋田県教育庁生涯学習課)

協働: 子どもたちのインターネット利用について考える研究会(子どもネット研)

協賛: **YAHOO!** JAPAN ヤフー株式会社、**mixi** 株式会社ミクシィ

講師: 高橋大洋(ビットクルー株式会社 インターネット利用者行動研究室)



※本講座は秋田県教育委員会が進める「大人が支える！インターネットセーフティの推進」事業の一環として開催されるものです。

第一回の振り返り

- **どんな機器でもインターネットにつながるように**
 - ゲーム機をはじめとしたWi-Fiを利用する機器の増加
- **発信利用に伴うトラブルの予防、抑制が重要**
 - 「あやしいサイト」よりも「ふつうのサイト・サービス」が危ない
- **スマートフォンは「多機能型携帯電話」ではない**
 - 便利で魅力的だが自制心が求められる
- **インターネットの四つの特性**
 - 公開される、匿名性はない、取り消せない、実人生を台無しに
- **自信が無い大人は自分だけではない**
 - ポイントを絞った学び方が必要

2

第二回の振り返り

- **人気サービスをちょっとだけ覗き見**
 - LINE、Twitter、Facebookの実際
- **共通要素の理解と、要素ごとの注意点が大切**
 - ソーシャル要素で利用を活性化することが収益化の鍵に
- **理想的なデビューは階段型**
 - 閲覧>1対1での発信>複数に向けた発信>同期的発信利用
- **デビューの現実は十人十色**
 - ブレーキの緩め方は案外難しい。理想とはほど遠いデビューも。
- **力の「見きわめ」と保護者管理機能の助けが必要**
 - 子どものことをよく見る、話を聴くことがスタート

3

第三回の振り返り

- 保護者管理機能の役割と使い方の原則
 - 「階段」の区切りのために、機器の使い始めから、試行錯誤しながら
- 保護者管理機能の実際と仕組み
 - 機能のオンオフや行き先の制限など、主役は保護者
- 「対話が途切れない」ことへの配慮
 - 一次受け止め役になるための接し方のコツ
- 子どもへの機器の与え方
 - 「常時貸している」ことにするなど、工夫が必要
- 大人自身が変われるかどうか最大の挑戦
 - 子どもだけを変えようとしない。試してみることで、助け合うことができるか。

4

本日の流れ

- 前回いただいたご質問の回答解説
- 取り組みの成功・失敗例の共有（ワークショップ）
- この地域でこれから何ができるか

5

前回いただいたご質問

- アカウントが分かるようで分からない。
- Youtubeについて教えてほしい。

6

アカウントとは

- サービスに入るための権利≒会員登録
 - 利用者を一意に特定する名前(ID)とパスワードの組み合わせで構成されている
 - IDとパスワードの組み合わせを知っていれば、他者でも本人になりすましての利用が可能(アカウント盗難への備えが必要)
 - アカウント無しで利用できるサービスも少なくない
 - 一つのサービス上に複数のアカウントを作る利用者も
 - 複数アカウントを作りやすいサービス
 - 無料メールアドレスを本人認証手段にしている場合
 - 複数アカウントを作りにくいサービス
 - 携帯電話番号などを本人認証手段にしている場合

7

Youtubeについて

- ・ 世界最大級の動画共有サービス
 - 運営はGoogle社
 - パソコン、スマートフォン・タブレットなどで利用
 - 動画閲覧には高速回線ほど有利
 - アカウント登録しなくても閲覧可能
 - アカウント登録すると、「チャンネル」登録が可能になる他、閲覧実績に合わせた「おすすめ」表示なども
 - 投稿者には広告掲載による報酬の道も
→人気動画を投稿すると生計を立てられる？

8

YouTubeの保護者管理機能

- ・ 成人向けコンテンツの非表示→
「セーフモード」の利用を推奨

- ブロックは
完全ではない
- ブラウザごとに
設定ロック可能
(YouTubeアカウントが必要)
- モバイル版では
利用できない
(セーフサーチフィルタで代替)
- 関連動画の表示内容の制御はできない



9

ワークショップ



□テーマ

前回の講座以降、それぞれ取り組まれた実践の結果(うまくいったこと、いかなかったこと)をワークシートに書き出した上で、その内容を相手に説明してみてください。

10

地域での今後の取り組み

- 大人が課題を認識する
- 状況を把握する(定量調査、ヒヤリハット事例)
- 情報の流れる経路を増やす
(保護者間、保護者／学校、同級生同士、先輩／後輩)
- 「共同での取り決め」の持つ可能性



11

具体的な取り組みの決意など(前回アンケートでのご感想)

- DS、パソコンの機能制限を使ってみたい。
- 保護者機能の活用
- 家族や友人等とおしゃべりの時、積極的に(うるさがられずに、周りから浮かないように)話題に出していこうと思っています。ずーっと。前回の話をしたら、子どもからアドバイスが。今日の話に出ていたように、まず、ブログを見たり、簡単に出来るところから、と言われ、少し安心したところもあり。共通の話題が増えたというポイントで良かった。次回までに何かを始めている自分になって参加したいです。

12

試してみると分からないことが必ず出て来るはず

- 上手な検索の仕方
 - 全てを知っておくことは出来ない(変化の速さ)
 - 大切な情報の入り口までは検索が示してくれることが多い
 - 本当に重要なことは無料では公開されていないことが多い
 - 大量の情報を取捨選択する力、俯瞰的な判断力
- キーワードを二つ以上組み合わせしてみる
- さまざまな検索支援サービスを試してみる

13

本日のまとめ

- 前回ご質問の回答解説
- 各家庭での取組の成功失敗事例を振り返り、共有
- この地域の現状と今後の取り組みの可能性
- これからも学び続けるために、大人同士の助け合いを



14

▽[地域密着] 2014年11月20日男鹿南中会場 地域サポーター養成講座第4回 受講者アンケート

受講者アンケート

各項目に回答(当てはまるものを選択または記入)の上、無記名でご提出ください。

1. あなた自身についてお聞かせください。(当てはまるもの全て選択)
 - ・ 立場 保護者 教職員 民生委員・児童委員 その他
 - ・ 性別 男性 女性
 - ・ お子さん 未就学 小学生 中学生 高校生 卒業済 その他

2. 本日の講座についての全体的な評価を教えてください。(いずれか選択)
良かった まあ良かった あまり良くなかった 良くなかった

3. 本日の講座の教材や説明方法などについての評価をお聞かせください。(いずれか選択)
 - ・ 説明や例示の仕方は 分かりやすい 分かりにくい
 - ・ 使われていた単語・用語は 理解できた 難しかった
 - ・ 前提としている理解度や知識は ちょうど良い 高すぎる 低すぎる

4. 本日の講座で、よくわからなかった点や、さらに詳しい説明が必要だった点をお知らせください。

5. 講座の内容を配偶者や周囲の保護者、同僚などと話してみようと思いますか？(いずれか選択)
そう思う 少しそう思う あまりそう思わない そう思わない

6. 講座の内容を配偶者や周囲の保護者、同僚と話すのはどのくらい簡単ですか？(いずれか選択)
とても簡単 まあまあ簡単 あまり自信がない とても出来そうにない

7. その他、何か具体的に取り組んでみようと思われたことや、講座の感想などをお知らせください。

8. 講座の開催時間帯や開催される曜日、開催の案内方法などで、より多くの方に参加をいただくために改善すべき点があればお聞かせください。

9. これまでに参加された本講座の開催回をお知らせください。(当てはまるものを全て選択)
第一回 第二回 第三回

▽[地域密着] 2014 年 11 月 20 日男鹿南中会場地域サポーター養成講座第 4 回 ワークシート

ワークシート

このワークシートは本日の講座中に利用します。当てはまる項目への記入をしてください。

1. 本講座の受講で学んだ内容について、どなたかへの働きかけを試されましたか？(複数選択可)

- 保護者として子どもに 配偶者に(話し合い) 他の保護者に(情報交換、相談)
教職員として児童生徒に 教職員として保護者に 教職員として他の職員に
その他()

2. その際、以下のうちどのような取り組みをしてみようと思われましたか？(複数選択可)

- トラブル時の対応についての子どもへの声かけ 講座のチラシ等を使って説明、対話
利用サービスの確認 利用機器の機能・管理設定の確認 トラブル経験有無の確認
ルールの見直しや新たなルールづくり 悩みや心配ごとの共有
その他()

3. その取り組みはどのような結果になりましたか？(いずれか選択)

- とてもうまくいった まあうまくいった あまりうまくいかなかった 全くうまくいかなかった

4. 取り組みがうまくいった(うまくいかなかった)状況や原因はどのようなものでしたか？

5. 取り組みの成功、失敗を踏まえ、今後は、何をしたいこうと思われませんか？

「大人が支える！インターネットセーフティの推進」

主催：秋田県教育委員会 協働：子どもたちのインターネット利用について考える研究会(子どもネット研)

地域サポーター養成講座(平成26年度第一回) 振り返り資料

パソコン、携帯ゲーム機、音楽プレーヤー、通信教育の学習タブレット、スマートフォン…

インターネットを使い始める前に、 家庭で確かめる四つのポイント

インターネット経由で送った文章、写真やビデオは
誰の目に触れるか分かりません

見知らぬ誰かが、あなたの書き込みを見るかもしれません。
信じた相手が秘密を守り続けてくれるかも運任せです。



送ってしまった写真や文章は、失敗に気づいても
後からは取り消せません

サイト投稿はもちろん、チャットやメールへの添付でも、完全な取り消しは出来ないのがインターネットの仕組みです。

インターネット上には

匿名性はありません

接続記録から発信元端末を探すのは警察には簡単です。過去の複数書き込みから、赤の他人に推測、特定されることも。



インターネットでの発信の失敗は

あなたの人生に影響してしまいます

秘密のつもりや軽はずみな画像添付が原因で処罰されたり、進学、就職、結婚の時に後悔する青少年が増えています。

インターネット利用トラブルを減らすためのヒント

- ✓ プライバシーを大切に。顔写真や住まいなどは、自分のものも友人のものも書き込まない。
- ✓ 相手の性別・年齢は話半分で聞いておく。相談や打ち明け話にはインターネットは使えない。
- ✓ 機器ごしのやり取りは伝わりにくく長引くもの。適度な距離感を自分たちで見つける必要。
- ✓ インターネット利用でトラブルに遭ってしまったら、すぐに周囲の大人への相談を。

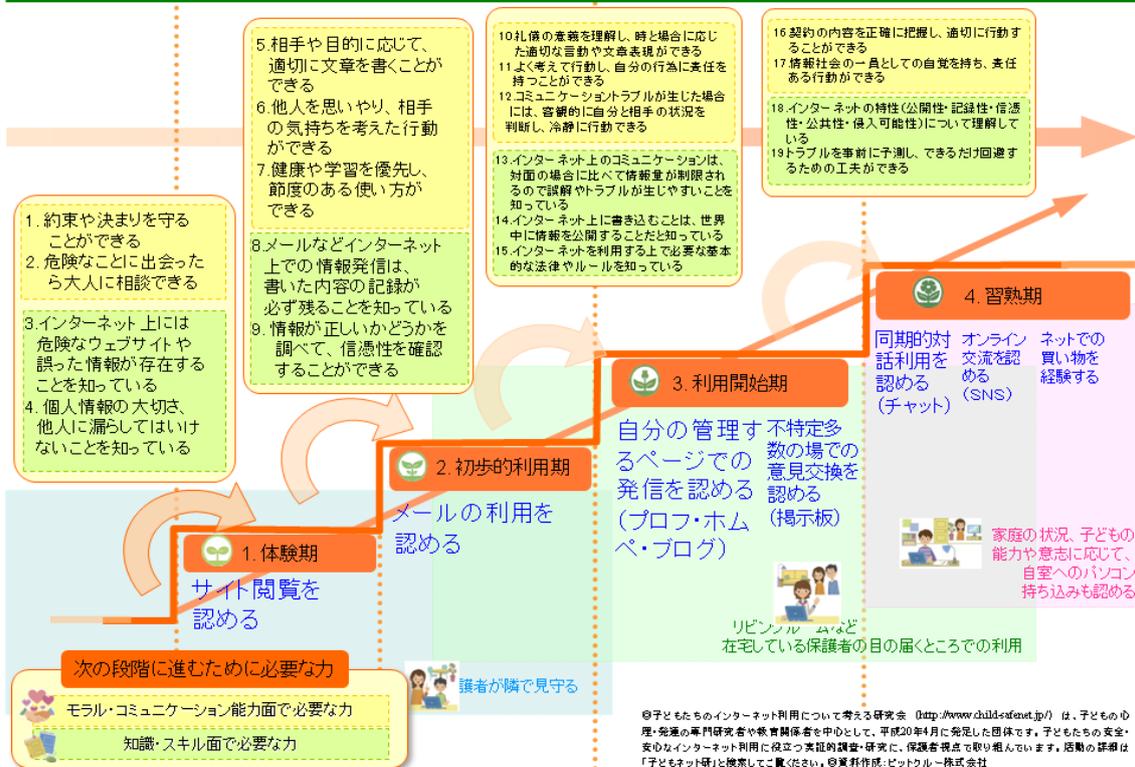
協賛 **YAHOO!** JAPAN **mixi**

子どもたちのインターネット利用について考える研究会は、子どもの心理・発達の専門研究者や教育関係者を中心として、平成20年4月に発足した団体です。子どもたちの安全・安心なインターネット利用に役立つ実証的調査・研究に、保護者視点で取り組んでいます。活動の詳細は「子どもネット研」と検索してください。©資料作成：ビットクルー株式会社

子どもたちのインターネット利用について考える研究会 第六期報告書

主催:秋田県教育委員会 協働:子どもたちのインターネット利用について考える研究会「大人が支える!インターネットセーフティの推進」事業
地域サポーター養成講座(第二回)振り返り資料

※子どもネット研が提唱する段階的利用モデル抜粋
全文はwww.child-safenet.jp/material/guide01_model.html



「大人が支える！インターネットセーフティの推進」

主催：秋田県教育委員会 協働：子どもたちのインターネット利用について考える研究会(子どもネット研)

地域サポーター養成講座(平成26年度第三回) 振り返り資料

LINE(ライン)、Twitter(ツイッター)、Facebook(フェイスブック)・・・

人気のソーシャルメディア 安全に楽しく使うために

送った文章、投稿した写真は回収できません

プライバシー情報は大切に

自分のものはもちろん、家族や友人、他人のものでも。プライベートな事柄や写真の公開は慎重に。メッセージ利用も一緒です。



相手のプロフィールは話し半分聞いておく

相談や打ち明け話には不向きです

年齢も性別も、顔写真さえも、ウソかも。大切な相談ごとを本当に聞いてもらうべき相手なのかどうか、確かめる手段はありません。

相手の表情や声質、身振りが見えないコミュニケーション

機器ごしでは思いは伝わりにくいもの

相手の意図や反応が分かりにくく、対面よりも真意が伝わりにくいという前提での「気持ちの余裕」を持った利用が欠かせません。



「実名登録サイトだから安心」なわけではありません

「友達」承認や投稿公開設定は慎重に

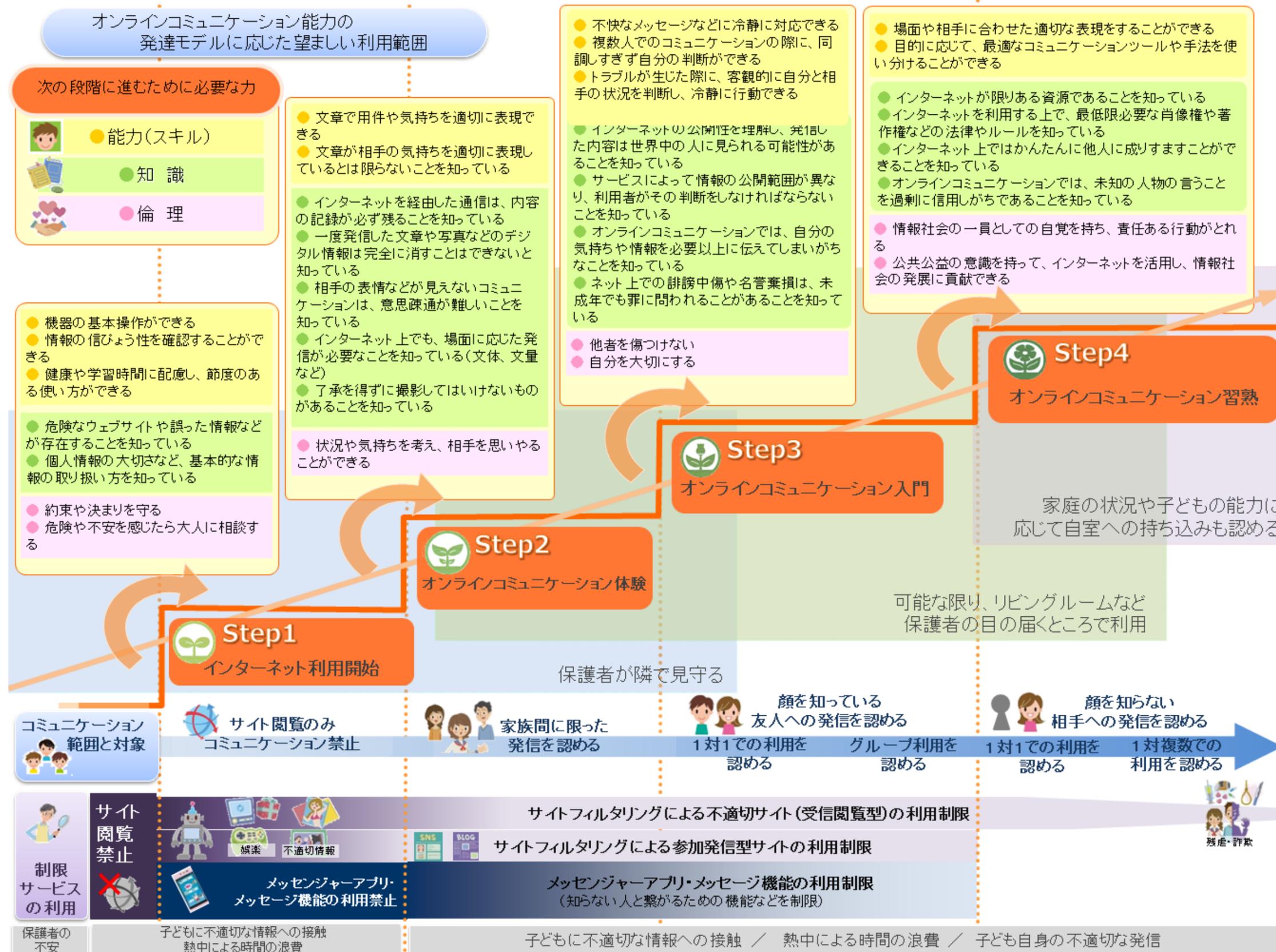
その投稿、友達限定のはずが、世界中に公開してしまったかもしれませぬ。最近増えているアカウント乗っ取りにもご注意ください。

インターネットを使う前に知っておくべき四つの特性

- ✓ 書き込んだ文章、投稿した写真は公開され、誰の目に触れるか分かりません。
- ✓ いったん送ってしまった写真や文章は、完全に回収したり取り消す事は出来ません。
- ✓ インターネット上への書き込みに完全な匿名性はありません。常に責任ある言動を。
- ✓ 軽はずみな発信の失敗は長期間記録され、実人生にも大きな悪影響を与えることがあります。

協賛 **YAHOO!** JAPAN mixi

子どもたちのインターネット利用について考える研究会は、子どもの心理・発達の専門研究者や教育関係者を中心として、平成20年4月に発足した団体です。子どもたちの安全・安心なインターネット利用に役立つ実証的調査・研究に、保護者視点で取り組んでいます。活動の詳細は「子どもネット研」と検索してご覧ください。©資料作成:ビットクルー株式会社



オンラインコミュニケーション能力の発達モデルに応じた望ましい利用範囲

	🌱 Step1 インターネット利用開始	🌱 Step2 オンラインコミュニケーション体験	🌱 Step3 オンラインコミュニケーション入門	🌱 Step4 オンラインコミュニケーション習熟
想定リスク	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもに不適切な情報への接触 出会い、暴力、恐怖、アダルト、ギャンブル、酒、タバコなど ●熱中による時間の浪費 動画、ゲーム、電子書籍、その他娯楽系コンテンツ 		<ul style="list-style-type: none"> ●子どもに不適切な情報への接触 出会い、暴力、恐怖、アダルト、ギャンブル、酒、タバコなど ●熱中による時間の浪費 動画、ゲーム、電子書籍、その他娯楽系コンテンツなど ●子ども自身の不適切な発信 写真、書き込み、個人情報、誹謗中傷など 	
能力（スキル）	<ul style="list-style-type: none"> ●機器の基本操作ができる ●情報の信ぴょう性を確認することができる ●健康や学習時間に配慮し、節度のある使い方ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ●文章で用件や気持ちを適切に表現できる ●文章が相手の気持ちを適切に表現しているとは限らないことを知っている 	<ul style="list-style-type: none"> ●不快なメッセージなどに冷静に対応できる ●複数人でのコミュニケーションの際に、同調しすぎず自分の判断ができる ●トラブルが生じた際に、客観的に自分と相手の状況を判断し、冷静に行動できる 	<ul style="list-style-type: none"> ●場面や相手に合わせた適切な表現をすることができる ●目的に応じて、最適なコミュニケーションツールや手法を使い分けることができる
知識	<ul style="list-style-type: none"> ●危険なウェブサイトや誤った情報などが存在することを知っている ●個人情報の大切さなど、基本的な情報の取り扱い方を知っている 	<ul style="list-style-type: none"> ●インターネットを経由した通信は、内容の記録が必ず残ることを知っている ●一度発信した文章や写真などのデジタル情報は完全に消すことはできないと知っている ●相手の表情などが見えないコミュニケーションは、意思疎通が難しいことを知っている ●インターネット上でも、場面に応じた発信が必要なことを知っている（文体、文量など） ●了承を得ずに撮影してはいけないものがあることを知っている 	<ul style="list-style-type: none"> ●インターネットの公開性を理解し、発信した内容は世界中の人に見られる可能性があることを知っている ●サービスによって情報の公開範囲が異なり、利用者がその判断をしなければならないことを知っている ●オンラインコミュニケーションでは、自分の気持ちや情報を必要以上に伝えてしまいがちなことを知っている ●ネット上での誹謗中傷や名誉毀損は、未成年でも罪に問われることがあることを知っている 	<ul style="list-style-type: none"> ●インターネットが限りある資源であることを知っている ●インターネットを利用する上で、最低限必要な肖像権や著作権などの法律やルールを知っている ●インターネット上ではかんたんに他人に成りすますことができることを知っている ●オンラインコミュニケーションでは、未知の人物の言うことを過剰に信用しがちであることを知っている
倫理	<ul style="list-style-type: none"> ●約束や決まりを守る ●危険や不安を感じたら大人に相談する 	<ul style="list-style-type: none"> ●状況や気持ちを考え、相手を思いやることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ●他者を傷つけない ●自分を大切にす 	<ul style="list-style-type: none"> ●情報社会の一員としての自覚を持ち、責任ある行動がとれる ●公共公益の意識を持って、インターネットを活用し、情報社会の発展に貢献できる
範囲と対象	サイト閲覧のみ許可し、オンラインコミュニケーションを禁止する	家族間に限った発信（オンラインコミュニケーション）を認める	顔を知っている友人への発信（オンラインコミュニケーション）を認める 1対1での利用を認める グループでの利用を認める	顔を知らない相手への発信（オンラインコミュニケーション）を認める 1対1での利用を認める 1対複数での利用を認める

子どもたちのインターネット利用について考える研究会
第六期報告書

オンラインコミュニケーション能力のモデル化

発行：2015年3月18日

子どもたちのインターネット利用について考える研究会

事務局：ヤフー株式会社、ネットスター株式会社

アルプス システム インテグレーション株式会社

運営協力：ピットクルー株式会社

構成・編集：高橋大洋 佐川英美

長谷部一泰 吉井まちこ